SL-CLASS
取扱説明書

Mercedes-Benz

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツをお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- オプションや仕様により異なる装備には＊マークが付いています。
- 関連する内容が他のページにもある場合は、該当ページを **(3-50)** のようなかたちで示しています。
- 操作手順などは、文頭に▶を記しています。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店または指定サービス工場におたずねください。

ダイムラー・クライスラー日本株式会社

表記と記載内容について

警　告

重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。

注　意　!

けがや事故、車の損傷を未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。

知　識

知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。

環　境

環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことを記載しています。

環境保護について

ダイムラー・クライスラー社では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の2/3（許容限度が6,000回転のときは約4,000回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- 指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。

環　境

ダイムラー・クライスラー社は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

警　告

車両にはさまざまな警告ラベルが貼付されています。これらの警告ラベルには危険な状況を回避するための情報をはじめ、車を安全に使用するための情報が記されています。

警告ラベルは絶対にはがさないでください。

1.安全運転のために

2.安全装備

3.運転する前に

4.マルチファンクションディスプレイ

5.運転するとき

6.快適・室内装備

7.万一のとき

8.点検と整備

9.サービスデータ

10.こんなときは

11.さくいん

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気がつかないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

燃料の給油

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を補給してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。
- セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。
  - ◇ エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。
  - ◇ 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。
  - ◇ 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。
  - ◇ 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

    身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
  - ◇ 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。
  - ◇ キャップの取り外し / 取り付け（3-42）は確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。
  - ◇ 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。

走行する前に

◇ 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。

◇ 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。ガソリンが吹きこぼれるおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

◇ 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。ガソリンが吹きこぼれるおそれがあります。

◇ 気化した燃料を吸い込まないように注意してください。

◇ ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけトランクに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- ロールバー周辺に荷物を置かないでください。急ブレーキ時や急ハンドル時または事故のとき、荷物が前方に放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。また、ロールバーの機能を妨げるおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストより高く積み上げないでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、ひざの上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車との間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（2-15）を使用することが法律で義務付けられています。

子供には操作させない

ドアやドアウインドウ、バリオルーフは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。

ウインドウから身体を出さない

子供がドアウインドウやリアクォーターウインドウの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になることがあります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

慣らし運転

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

知　識

新車時の高速走行後など、エンジンルームからわずかに白煙が出たり、独特の臭いがすることがあります。これは防錆保護ワックスが加熱されて発生するもので、故障や異常ではありません。走行距離が増すと臭いはなくなります。

最初の1,500kmまでは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の2/3（許容限度が6,000回転のときは約4,000回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ位置およびギア位置 3 、 2 、 1 は山道などを低速で走行するときだけ使用してください。
- できるだけ、走行モードをCモードにして走行してください。

走行距離が1,500kmを超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

知　識

- SL 55 AMGおよびSL 65 AMGは、以下の注意事項を守ってください。
  - ◇ 走行速度が140km/hを超えないようにしてください。
  - ◇ エンジン回転数が4,500回転を超えた状態で長時間走行しないでください。
- エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。
- **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。
- **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

知　識

エンジンブレーキ：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキは効かせないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進し、事故を起こすおそれがあります。

  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

道路冠水や車が水没したとき

- 冠水した道路を走行するときに許容されている最大水深は約12cmです。
- 波が立たないような速度で走行してください。
- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、指定サービス工場に連絡してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたとき

本書に従い対処してください。それでも警告灯や故障 / 警告メッセージが消灯しないときは、指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止して指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウインドウ周辺やボンネットの吸気口に枯れ葉や異物がある場合は、必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、車内に水が侵入するおそれがあります。

雪が降っているときは

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道では

急な坂道で駐車するときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをしてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。

またアクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になるおそれがあります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意して、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいので、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いので歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分にとってください。
- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、SBC ホールドやクルーズコントロール、ディストロニック＊は使用しないでください。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。またはエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「オートマチック車の運転」もあわせてお読みください(5-16)。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーが P 、 N 以外になっていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

セレクターレバーが P に入っていることを確認して、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- セレクターレバーを D 、 R に入れるときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

走行中

- 走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが走行位置に入ると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂などではアクセルペダルの踏み加減によって停車状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 完全に停車する前に、セレクターレバーを P に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずセレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにセレクターレバーを P か N に戻すように心がけてください。R に入っていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。
- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。

  定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- ガソリンやオイルの添加剤などは一切使用しないでください。故障の原因になることがあります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話

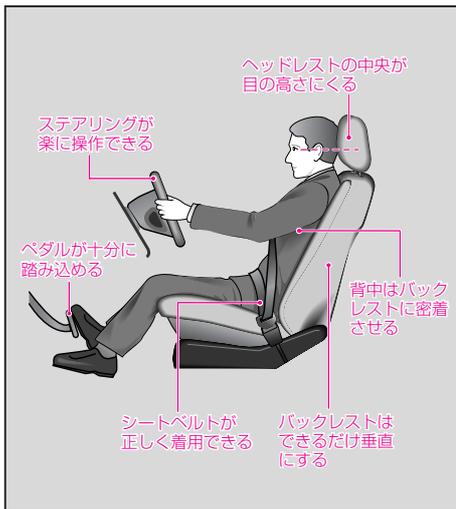
運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になるおそれがあります。安全な場所に停車してから使用してください。

ナビゲーションシステムは走行中に操作しない

ナビゲーションシステムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に画面を見るときは、必要最小限（約1秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、オイル、フィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢になるように上記の点に注意してシートを調整してください。

警　告

- 運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- バックレストを大きく傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

注　意　！

- シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。
- シートの一部が身体や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。
- 誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

※車種や仕様により、シートの形状などは異なります。

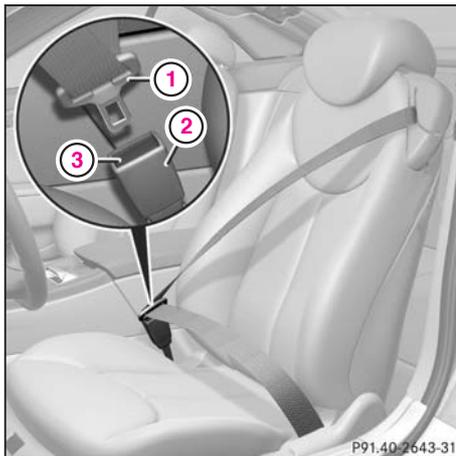
シートベルト

シートベルトは、万一の衝突時などに乗員が受けるけがの被害を軽減させる乗員保護装置です。

急ブレーキや衝撃などを感知するとシートベルトをロックして乗員がシートから放り出されないように拘束します。

シートベルトの効果を十分に発揮させるためには、走行前に正しく着用し、正しく取り扱うことが必要です。

※車種や仕様により、シートの形状などは異なります。

シートベルトの着用

① プレート
② バックル
③ 解除ボタン

シートベルトを着用する

▶ プレート①を持ってシートベルトをゆっくり引き出します。シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、プレート①の先端をバックル②に差し込みます。

▶ 腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして、ベルトにたるみがないように身体に密着させます。

▶ 肩を通るベルトが肩の中央を通ることを確認します。

シートベルトを外す

▶ 手でプレート①を持ち、バックル②の解除ボタン③を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

警　告

- すべての乗員がシートベルトを着用してください。シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトのプレートがバックルに確実に差し込まれていないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトの機能が十分発揮できるように、以下の点に注意して正しく着用してください。

◇ バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。

◇ コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。

◇ シートに深く腰かけてください。

◇ 肩を通るベルトを脇の下に通さないでください。上体を固定できず、衝突したときなどに強い衝撃を受けます。

◇ 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。腹部にかけると衝突したときなどに腹部が強く圧迫されます。

◇ シートベルトがねじれた状態で着用しないでください。衝撃を分散できなくなります。

◇ 1本のシートベルトを2人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。

◇ シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。

◇ 子供が着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

◇ 子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。

◇ 着用前に、シートベルトやバックルに汚れや損傷がないことを確認してください。

- シートベルトを着用するときは、ドアポケット(6-28)を閉じてください。シートベルトがドアポケットにかかり、正しく着用できないおそれがあります。

注　意　!

- シートベルトを正しく機能させ、損傷を防ぐために以下の点に注意してください。
  - ◇ ドアに挟んだり、鋭利な部分に当てない
  - ◇ たばこの火など熱いものを近付けない
  - ◇ バックル部分に異物を入れない
  - ◇ ペンや眼鏡など、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にかけない
  - ◇ 分解や改造などをしない
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるので清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

シートベルトテンショナーは、エンジンスイッチが**2**の位置のときに作動します。

シートベルトテンショナーは、シートベルトのプレートがバックルに差し込まれているときに作動します。

また、車が横転したときもシートベルトテンショナーは作動することがあります。

助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席のシートベルトテンショナーは作動しないことがあります。

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターはシートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を軽減します。

注　意　!

- シートベルトテンショナーが作動すると、シートベルトに強く締め付けられることがあります。
- シートベルトに強く締め付けられている状態でシートベルトを外すときは、シートベルトのプレートを確実につかみながらバックルの解除ボタンを押してください。シートベルトの張力により、解除したプレートが跳ね返り、けがをするおそれがあります。
- 作動したシートベルトテンショナーは、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。

知　識

- シートベルトテンショナーの作動時にわずかながら白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  また、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- シートベルトテンショナーの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。
- 助手席に重い荷物などを積んで、シートベルトのプレートをバックルに差し込んでいるときは、助手席シートベルトテンショナーが作動することがあります。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。
- 未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

シートベルト着用警告

シートベルト警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯が故障しています。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンがかかっているときに乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用せずにエンジンスイッチを**2**の位置にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

走行速度が約25km/h以上になったときに、乗員がシートベルトを着用していないかシートベルトのプレートをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約60秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みますが、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約25km/h以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

知　識

助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

SRSエアバッグ

エアバッグは、シートベルトの効果を補助する装置です。

エアバッグの効果を発揮させるためには、シートベルトの正しい着用が条件になります。

衝突時のように車が強い衝撃を受けると、収納されているエアバッグが瞬時にふくらんで乗員の前面や周囲にエアクッションを作り、乗員への衝撃を分散・軽減します。

衝撃を受ける状況によって、作動するエアバッグが異なります。

知　識

SRSはSupplemental Restraint System（乗員保護補助装置）の略です。

運転席 / 助手席エアバッグ

左ハンドル車

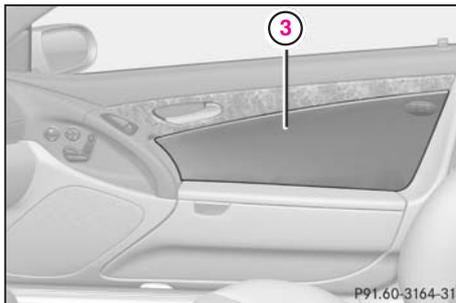
① 運転席エアバッグ
　ステアリングパッド部

② 助手席エアバッグ
　助手席ダッシュボードパネル部

前方からの強い衝撃を受けると作動し、乗員の頭部および胸部への衝撃を分散・軽減します。

運転席 / 助手席エアバッグは、シートベルトを着用しているときに作動します。

ただし、衝撃の強さにより、シートベルトを着用していないときでも作動することがあります。

助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席エアバッグは作動しません。

ヘッドソラックスサイドバッグ

③ ヘッドソラックスサイドバッグ
ドアの内張り部

ドア（付近）部分に横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のヘッドソラックスサイドバッグが作動し、頭部および胸部への衝撃を分散・軽減します。

ヘッドソラックスサイドバッグは、シートベルトを着用しているときに作動します。

助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席側のヘッドソラックスサイドバッグは作動しません。

SRS エアバッグシステム警告灯

エンジンスイッチを**1**の位置にすると数秒間点灯します。また、**2**の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。点灯しないときは警告灯が故障しています。

数秒後 / エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときは、エアバッグシステムやシートベルトテンショナー、助手席乗員検知機能 / チャイルドセーフティシート検知システムの故障です。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

エアバッグやシートベルトテンショナーが作動すると、エアバッグシステム警告灯が点灯します。

警　告

- エンジン始動後もエアバッグシステム警告灯が点灯するときは、事故などの衝撃があってもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれがあります。また、不意に作動するおそれもあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後部に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。
- ウインドウやピラーの周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- ステアリングのパッド部やエアバッグ収納部に、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- 膝の上にペットや荷物を抱えるなど、エアバッグと乗員との間に物を置かないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- 衣類のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。

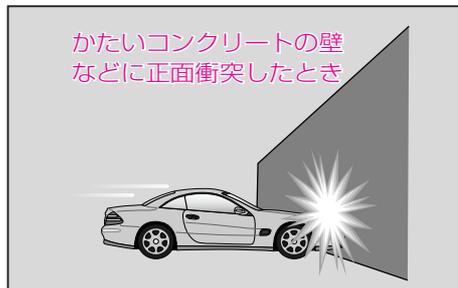
注　意！

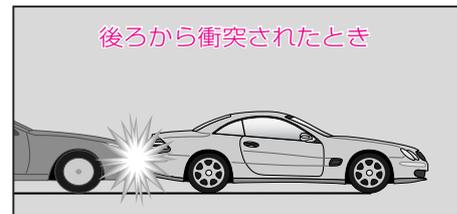
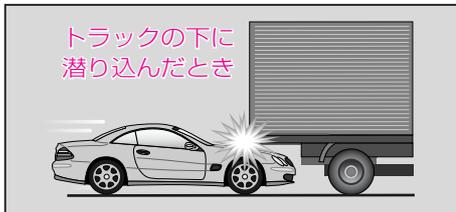
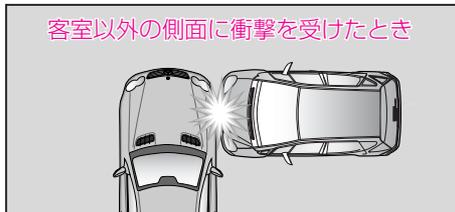
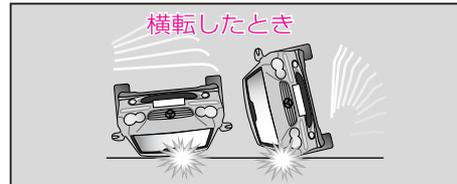
- エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。
- エアバッグの作動後はエアバッグや関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- エアバッグが作動した後は、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。正しく作動しなくなったり、誤作動をするおそれがあります。

知　識

- 車の前方からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。
- 助手席に重い荷物などを積んで、シートベルトをバックルに差し込んでいるときは、衝突時などに助手席エアバッグおよび助手席側のヘッドソラックスサイドバッグが作動することがあります。
- 運転席 / 助手席エアバッグは、車が横転したときに作動することがあります。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。
- エアバッグの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。
- エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  また、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- エアバッグが作動すると非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。
- ボディの部位によって受けた衝撃を吸収する度合いが異なるので、損傷の大きさとエアバッグの作動は必ずしも一致しません。
- 未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

ヘッドソラックスサイドバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しない場合があるとき

ヘッドソラックスサイドバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

チャイルドセーフティシート

シートベルトは身長150cm以上の乗員が使用することを前提にしています。シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。

知　識

チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、サンバイザーに貼付されています。

警　告

- 6歳未満の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- 6歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できない子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 身長150cm未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用し、子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫して致命的なけがをするおそれがあります。
- 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着するときは、以下の状態を確認してください。

  ◇ チャイルドセーフティシートがセンサー付き純正チャイルドセーフティシートであり、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していること

  または

  ◇ 助手席の乗員の体重が一定以下であり、シートベルトのプレートをバックルに差し込んだときに助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していること

- 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着して助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、チャイルドセーフティシートを装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。
- 前向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着して助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- チャイルドセーフティシートを装着して助手席エアバッグ表示灯が点灯したときは、助手席シートをもっとも前の位置にしてください。
- チャイルドセーフティシートは確実に装着してください。急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが放り出されてけがをするおそれがあります。

- チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートが確実に装着されないおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。
- チャイルドセーフティシートのクッションカバーが損傷したときは、純正の物に交換してください。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実にシートに装着してください。

- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。
  - ◇ 運転装置に触れてけがをするおそれがあります。
  - ◇ 誤ってドアを開き、事故の原因になるおそれがあります。
  - ◇ 炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。
  - ◇ 寒冷時には車内が低温になり、命にかかわるおそれがあります。

助手席エアバッグオフ表示灯

① 助手席エアバッグオフ表示灯

助手席エアバッグの機能が解除されているときは、助手席エアバッグオフ表示灯①が点灯します。

助手席エアバッグオフ表示灯①は以下のときに点灯します。

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着して、エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしたとき（チャイルドセーフティシート検知システム）

または

- 一定以下の体重の乗員が助手席に乗車して、シートベルトのプレートをバックルに差し込み、エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしたとき（助手席乗員検知機能）

詳しくは**(2-18、20)**をご覧ください。

注　意　！

チャイルドセーフティシート検知システムまたは助手席乗員検知機能が作動していないときに、エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にすると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときや点灯後に消灯しないときは、チャイルドセーフティシート検知システムや助手席乗員検知機能が故障しています。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

助手席エアバッグオフ表示灯①が点灯して、助手席エアバッグの機能が解除されても、ヘッドソラックスサイドバッグとシートベルトテンショナーの機能は解除されません。

警　告

チャイルドセーフティシート検知システムに関する警告

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着したときは、必ず助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。

  また、助手席シートをもっとも前の位置にしてください。

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着しても助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。

  ◇ 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは装着しないでください。また、タイプにかかわらずチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。

  ◇ チャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着するタイプのみを使用して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。

  ◇ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

助手席乗員検知機能に関する警告

- チャイルドセーフティシートを装着して子供を乗車させるときは、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。

  また、助手席シートをもっとも前の位置にしてください。

- チャイルドセーフティシートを装着して子供を乗車させたときに助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。

  ◇ 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは装着しないでください。また、タイプにかかわらずチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。

  ◇ チャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着するタイプのみを使用して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。

純正チャイルドセーフティシート

ダイムラー・クライスラー社の純正チャイルドセーフティシートには、助手席に装着すると、助手席エアバッグの機能を解除する、センサー付きシート（ベビーセーフ プラス、デュオ プラス、キッド）があります。

チャイルドセーフティシートを装着するときは、純正チャイルドセーフティシートを使用してください。

純正チャイルドセーフティシートには、以下のタイプがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフ プラス	約10kg以下	新生児~9カ月位
デュオ プラス	9~18kg	8カ月~4歳位
キッド	15~36kg	3歳半~12歳位

※純正チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

注　意　！

純正チャイルドセーフティシートでも、チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

チャイルドセーフティシート検知システム

助手席シートの座面に検知システムが装備されており、センサー付き純正チャイルドセーフティシートとの間で自動的に信号の発信 / 受信を行ない、チャイルドセーフティシートの有無を判断し、助手席エアバッグの機能を解除するシステムです。

助手席エアバッグの機能が解除されると、助手席エアバッグオフ表示灯 **(2-17)** が点灯します。

注 意 !

助手席のシート座面とセンサー付き純正チャイルドセーフティシートの間に物を入れないでください。チャイルドセーフティシートを検知できなくなるおそれがあります。

警 告

助手席のシートクッションに、電源の入ったパソコンや携帯電話などの電子機器、または磁気カードやICカードなどを置かないでください。チャイルドセーフティシート検知システムが誤作動して、事故のときに助手席エアバッグが作動しないおそれがあります。また、センサー付き純正チャイルドセーフティシートを検知できずに、助手席エアバッグが作動するおそれがあります。

助手席乗員検知機能

助手席に乗車している乗員の体重が一定以下であるとき、または助手席に乗員が乗車していないと判断したときに、シートベルトのプレートがバックルに差し込まれているときは、助手席エアバッグの機能が解除されます。

助手席エアバッグの機能が解除されると、助手席エアバッグオフ表示灯 **(2-17)** が点灯します。

ロールバー

ロールバーは、車が大きく傾いたときや衝突時、横転時などに瞬時に自動で上がって乗員を保護する装置です。

ロールバーは手動で操作することができます。

警　告

- ロールバーの作動する範囲に身体を入れたり、荷物などを置かないでください。ロールバーが上下したときにけがをしたり、荷物を損傷するおそれがあります。
- たとえロールバーが作動しても、シートベルトやチャイルドセーフティシートを使用していないと、事故のときに致命的なけがをするおそれがあります。
- 外気温度が約－5℃以下のときは、ロールバーを手動で上げて走行してください。ロールバーの油圧システムを損傷するおそれがあります。

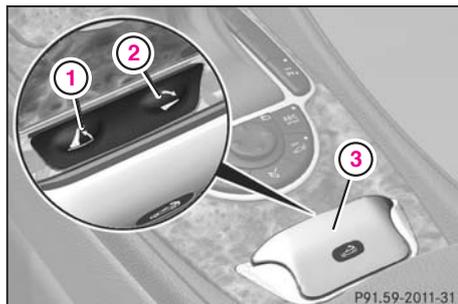
注　意　！

シート後方にペットなどを乗せるときは、バリオルーフを閉じ、ロールバーを上げてください。ロールバーが下がっていると、万一のときに、ロールバーが瞬時に上がってペットなどがけがをするおそれがあります。

ロールバー警告灯

エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にすると点灯します（点灯しないときは警告灯が故障しています）。エンジンスイッチが**1**の位置のときは数秒後に消灯し、エンジンスイッチが**2**の位置のときはエンジン始動後に消灯します。

数秒後 / エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯または点滅するとき、マルチファンクションディスプレイに "ﾛｰﾙﾊﾞｰ ｱｹﾞﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示されるときは、ロールバーが故障しています。手動でロールバーを上げ、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

ロールバーの手動操作

① 上昇スイッチ
② 下降スイッチ
③ ルーフスイッチ

エンジンスイッチが**2**の位置のときにロールバーを手動で操作することができます。

ロールバーを上げる

▶ ルーフスイッチ③を後方に開き、上昇スイッチ①を押します。

ロールバーを下げる

▶ ルーフスイッチ③を後方に開き、下降スイッチ②を押します。

スイッチから手を放すとロールバーはその位置で停止します。

知　識

ロールバーを上げた状態のときは、バリオルーフを開閉すると、ロールバーは自動的に下がり、操作終了時に再び上がります。

自動的に上がったロールバーを下げる

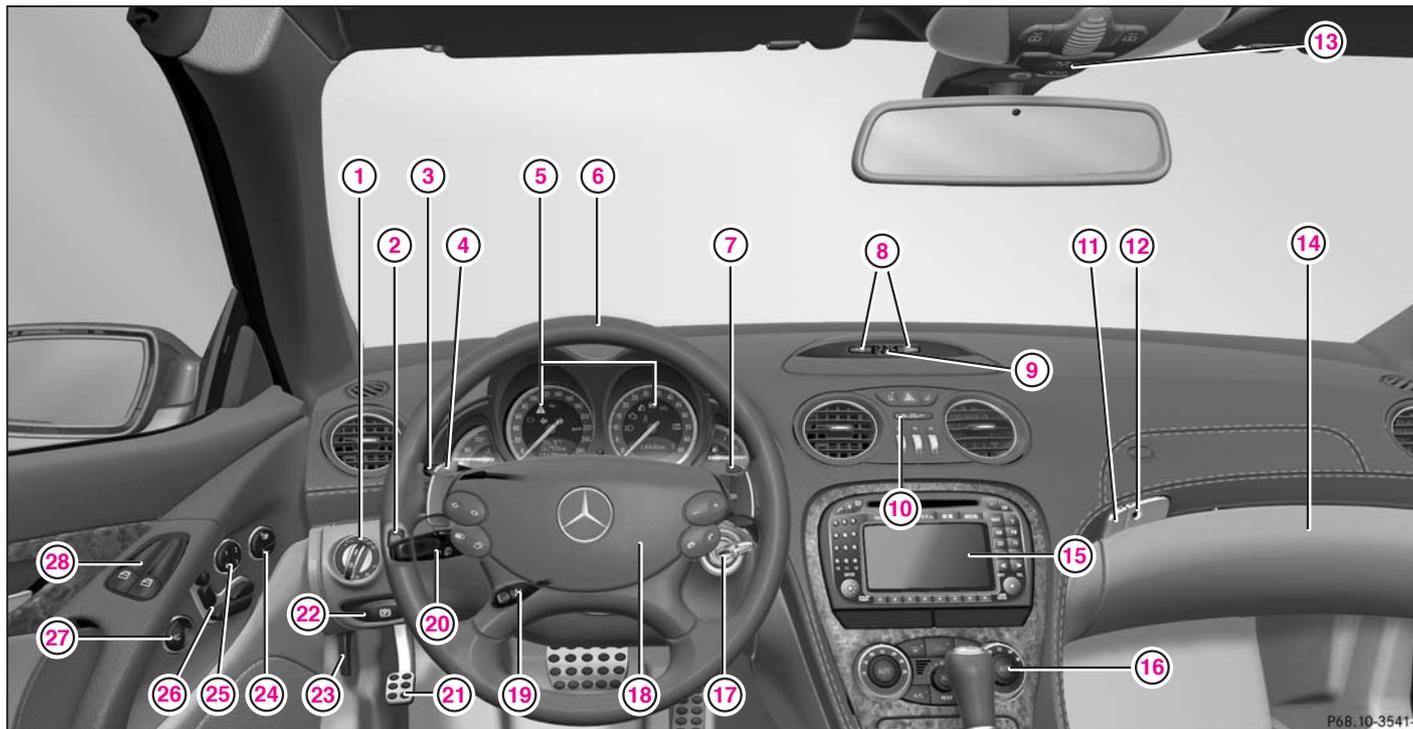
車が大きく傾いたときや衝突時、横転時などでロールバーが自動的に上がったときは、以下の方法でロールバーを下げます。

▶ エンジンスイッチを**2**の位置にします。

▶ ロールバーが上がり切るまで上昇スイッチ①を押し続けます。

▶ 下降スイッチ②を押し続けます。

インストルメントパネル

インストルメントパネル

左ハンドル車

※装備、仕様の違いにより、スイッチなどの位置や形状が実際の車両と異なることがあります。

	名称	ページ
①	ランプスイッチ	5-21
②	ヘッドランプ ウォッシャースイッチ	5-31
③	操作レバー クルーズコントロール＊ ディストロニック＊ 可変スピードリミッター	 5-54 5-60 5-71
④	パドル (シフトダウン)	5-11 5-14
⑤	メーターパネル	3-69
⑥	ステアリング	3-67
⑦	パドル (シフトアップ)	5-11 5-14
⑧	パークトロニック インジケーター	5-76
⑨	時計	4-34
⑩	助手席エアバッグオフ 表示灯	2-17

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

	名称	ページ
⑪	グローブボックス オープナーボタン	6-23
⑫	グローブボックス キーシリンダー	6-24
⑬	ルームランプ操作部	6-16
⑭	グローブボックス	6-23
⑮	マルチファンクション コントローラー	別冊
⑯	エアコンディショナー コントロールパネル	6-3
⑰	エンジンスイッチ	5-2
⑱	ホーン／ 運転席エアバッグ	2-9
⑲	ステアリング調整 レバー	3-68
⑳	コンビネーション レバー (ヘッドランプ／方向指示／ワイパー)	5-24 5-26 5-28

	名称	ページ
㉑	パーキングブレーキ ペダル	5-32
㉒	パーキングブレーキ 解除ハンドル	5-32
㉓	ボンネットロック 解除レバー	3-39
㉔	シートヒータースイッチ シートベンチレーター スイッチ＊	3-21、 3-22 3-23
㉕	ポジションスイッチ メモリースイッチ	3-19
㉖	シート調整スイッチ	3-15
㉗	トランクオープナー スイッチ＊ トランクスイッチ＊	3-32 3-34
㉘	ドアウインドウ スイッチ	3-47

センターコンソール

センターコンソール

	名称	ページ
①	ドアロックスイッチ（施錠）	3-30
②	非常点滅灯スイッチ	5-27
③	ドアロックスイッチ（解錠）	3-30
④	中央送風口、サイド送風口開閉ダイヤル	6-8
⑤	マルチファンクションコントローラー	別冊
⑥	エアコンディショナーコントロールパネル	6-3
⑦	カップホルダー＊	6-30
⑧	セレクターレバー	5-6
⑨	灰皿 ライター	6-21 6-22
⑩	カップホルダー	6-30

※装備、仕様の違いにより、スイッチなどの位置や形状が実際の車両と違うことがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

キー

リモコン機能付きのキーが2本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。

警　告

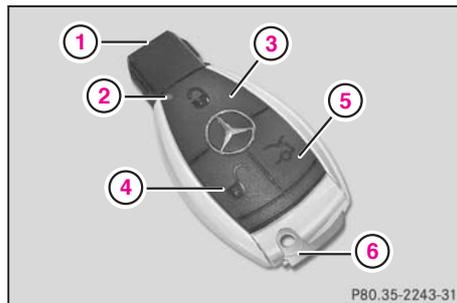
- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。
- 短時間でも、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- キーに重い物や必要以上に大きなキーホルダーなどを取り付けないでください。走行中にキーホルダー自体の重みでキーがまわったり、キーが抜けてしまい、エンジンが停止すると、事故を起こすおそれがあります。

注　意　!

- キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。
- キーを強い電磁波にさらすと、リモコンに障害が発生するおそれがあります。
- キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。
- キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。

知　識

- ２つのキーを見わけるため、キーのストッパー(3-10)の色は異なります。
- 新たにキーをつくる場合は、指定サービス工場におたずねください。
- エンジンスイッチにキーを差しているときは、わずかに電力を消費しています。走行しないときは、バッテリー保護のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

リモコン機能

① 発信部
② 表示灯
③ 施錠ボタン
④ 解錠ボタン
⑤ トランクオープナーボタン
⑥ エマージェンシーキー

エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- 以下の各部の解錠 / 施錠
  - ◇ ドア
  - ◇ トランク
  - ◇ 燃料給油フラップ
  - ◇ グローブボックス
  - ◇ アームレストの小物入れ
  - ◇ シート後方の小物入れ
- トランクを開く
- ドアウインドウとリアクォーターウインドウ、バリオルーフの開閉

操作時に表示灯②が1回点滅します。

解錠する

▶ 解錠ボタン④を押します。

ドア、トランク、燃料給油フラップ、グローブボックス、アームレストの小物入れ、シート後方の小物入れが解錠され、非常点滅灯が1回点滅します。

また、盗難防止警報システム**(3-44)**が解除されます。

知　識

リモコン操作で解錠すると、SBC**(5-39)**が待機状態になります。

施錠する

▶ 施錠ボタン③を押します。

ドア、トランク、燃料給油フラップ、グローブボックス、アームレストの小物入れ、シート後方の小物入れが施錠され、非常点滅灯が3回点滅します。

また、盗難防止警報システム**(3-44)**が待機状態になります。

トランクを開く

▶ トランクが開きはじめるまで、トランクオープナーボタン⑤を押し続けます。

リモコン操作ですべてのドアウインドウとリアクォーターウインドウ、バリオルーフを開閉することができます。

詳しくは**（3-11）**をご覧ください。

注　意　！

- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- リモコン操作でドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。
- リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が3回点滅したこと、ドア、トランク、燃料給油フラップなどが確実に施錠されたことを確認してください。
- トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。
- 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

リモコン機能の設定切替

リモコン操作での解錠のしかたを切り替えることができます。

リモコン機能の設定を切り替える

▶ 施錠ボタン③と解錠ボタン④を同時に約6秒間押し続けます。

表示灯②が2回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では以下のように作動します。

- 解錠ボタン④を1回押すと、以下の各部が解錠されます。
  - ◇ 運転席ドア
  - ◇ 燃料給油フラップ
  - ◇ グローブボックス
  - ◇ アームレストの小物入れ
  - ◇ シート後方の小物入れ
- 続けて約40秒以内に解錠ボタン④を押すと、助手席ドアとトランクが解錠されます。

リモコン機能の設定を元に戻す

▶ 再度、施錠ボタン③と解錠ボタン④を同時に約6秒間押し続けます。

表示灯②が2回点滅し、元の設定に戻ります。

知　識

- リモコン操作での解錠後約40秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。
  - ◇ ドアを開く
  - ◇ トランクを開く
  - ◇ エンジンスイッチにキーを差し込む
  - ◇ ドアロックスイッチ（解錠）を押す
- バッテリーあがりを起こしたときは、リモコンの電池が正常でもリモコン操作はできません。
- リモコンの電池が消耗すると操作時に表示灯が点灯せず、リモコン操作ができなくなりますが、エンジンは始動できます。

施錠時のドアミラーの格納

リモコン操作で施錠するときにドアミラーも併せて格納することができます。

格納されたドアミラーは、リモコン操作で解錠した後にドアを開くと展開します。

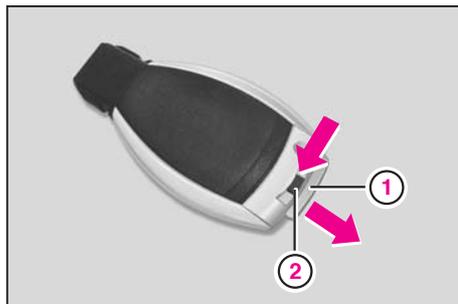
この機能の設定と解除については**（4-45）**をご覧ください。

知 識

- ドアを開かなくても、格納されたドアミラーの位置が少し動くことがあります。その場合は、ドアミラー格納 / 展開スイッチ**（3-64）**を押して、元の位置に戻してください。
- ドアミラー格納 / 展開スイッチ**（3-64）**でドアミラーを格納してから施錠したときは、リモコン操作で解錠してドアを開いても、ドアミラーは展開しません。

ロケイターライティング

周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。点灯したランプは、運転席ドアを開くかエンジンスイッチにキーを差し込んだとき、または約40秒後に消灯します。

この機能の設定と解除については**（4-38）**をご覧ください。

エマージェンシーキー

① エマージェンシーキー
② ストッパー

キーに収納されています。

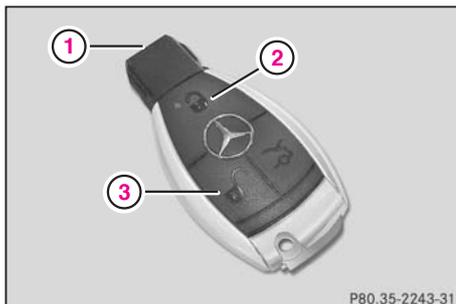
グローブボックス、アームレストの小物入れ、シート後方の小物入れを独立施錠する（**6-24**）ときやグローブボックスを解錠するときに使用します。

また、リモコンが作動しないときに、運転席ドアを解錠 / 施錠したり（**3-28、29**）、トランクを解錠する（**3-35**）ときに使用します。

エマージェンシーキーを使用する

▶ ストッパー②を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー①を矢印の方向に抜きます。

収納するときは元の位置に差し込みます。

リモコン操作でドアウインドウとリアクォーターウインドウ、バリオルーフを開閉する

① 発信部
② 施錠ボタン
③ 解錠ボタン

リモコン操作でドアウインドウとリアクォーターウインドウ、バリオルーフを開閉できます。

※ 車種や仕様により、ドアハンドルの受光部が運転席側だけの場合があります。

ドアウインドウとリアクォーターウインドウ、バリオルーフを開く

▶ キーの発信部①をドアハンドルの受光部に向けて解錠ボタン③を押し続けます。

バリオルーフが開いているときはドアウインドウとリアクォーターウインドウが開きます。

バリオルーフが閉じているときは、バリオルーフが開き、ドアウインドウが閉じた状態になります。

解錠ボタン③から手を放すと、作動中のドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフはその位置で停止します。

バリオルーフスイッチでの操作については（3-54）をご覧ください。

ドアウインドウとリアクォーターウインドウ、バリオルーフを閉じる

▶ キーの発信部①をドアハンドルの受光部に向けて施錠ボタン②を押し続けます。

バリオルーフが閉じているときはドアウインドウとリアクォーターウインドウが閉じます。

バリオルーフが開いているときはバリオルーフが閉じ、ドアウインドウとリアクォーターウインドウも閉じます。

施錠ボタン②から手を放すと、作動中のドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフはその位置で停止します。

バリオルーフスイッチでの操作については（3-56）をご覧ください。

注　意　！

- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- リモコン操作でドアウインドウやリアクォーターウインドウを閉じているとき、またはバリオルーフを開閉しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。
- リモコン操作でドアウインドウやリアクォーターウインドウを開くときは、ウインドウに身体を寄りかけないでください。ウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。
- 万一のとき以外はバリオルーフの作動を途中で停止しないでください。詳しくは（3-50）をご覧ください。
- リモコン操作で施錠したときは、車から離れる前に、すべてのドアウインドウとリアクォーターウインドウ、バリオルーフが閉じていることを確認してください。

知　識

- リモコン操作時は、キーの発信部をドアハンドルの受光部に向けて操作してください。
- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

電池の交換

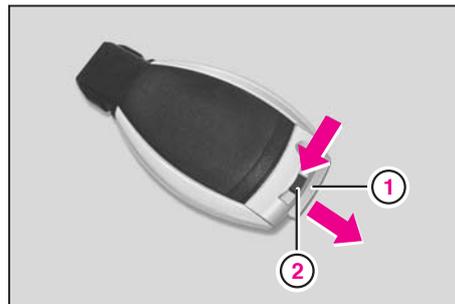
リモコンの作動可能距離が短くなったり、いずれかのボタンを押しても作動しない場合は、電池の消耗が考えられます。指定サービス工場で点検を受けてください。

警　告

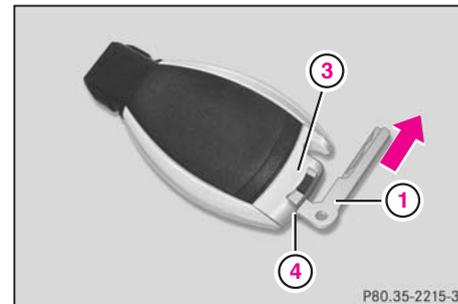
電池は子供の手の届かないところに保管してください。誤って電池を飲み込むおそれがあります。

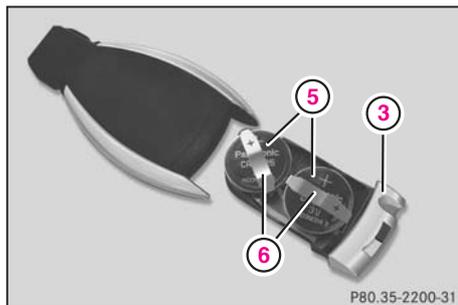
電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

知　識

キーのいずれかのボタンを押したときに、キーの表示灯が1回点滅すれば電池は正常です。

① エマージェンシーキー
② ストッパー

電池を交換する

▶ ストッパー②を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー①を矢印の方向に抜き取ります。

① エマージェンシーキー
③ 電池ケース
④ 凹部

▶ エマージェンシーキー①を凹部④にかけてロックを外しながら、電池ケース③を引きます。

③ 電池ケース
⑤ 電池
⑥ 電極板

▶ 電池⑤を外し、新しい電池と交換します。

電池は2個とも⊕を上にして、電極板⑥の間に取り付けます。

▶ 電池ケース③を本体の溝に合わせ、押し込んでロックします。

▶ エマージェンシーキー①をキーに収納します。

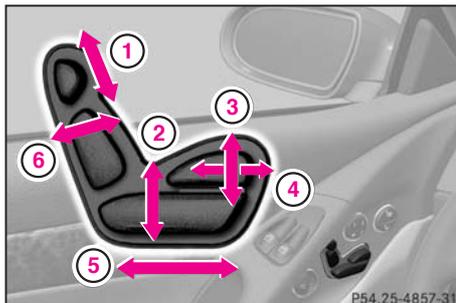
知　識

- リチウム電池（CR2025）を2個使用しています。
- 電池を交換するときは2個同時に交換してください。
- 電池の表面に、汚れや脂分などが付着していないことを確認してください。

環　境

環境保護のため、使用済みの電池を廃棄するときは、新しい電池をお買い求めになった販売店で処分を依頼してください。

シート

シートの調整

シート調整スイッチ（左側シート）

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、または調整する側のドアが開いているときに操作できます。

シートを調整する

▶ シート調整スイッチを①～⑥の方向に動かして調整します。

矢印の方向	調整内容
①	ヘッドレストの高さ
②	シートの高さ
③	シートクッションの角度
④	シートクッションの長さ
⑤	シートの前後位置
⑥	バックレストの角度

知　識

シートの前後位置や高さ、バックレストの角度などを調整すると、他の部分も連動して動くことがあります。

⑦ ヘッドレストの角度調整

ヘッドレストの角度を調整する

▶ ヘッドレスト下部を矢印の方向に動かします。

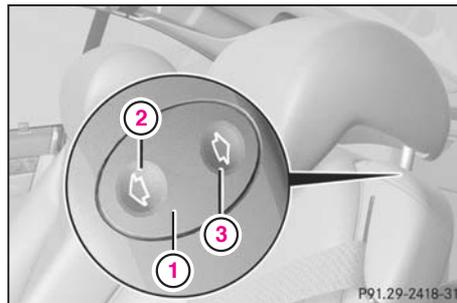
ヘッドレストが後頭部に接するように調整します。

注 意 ！

- シートの調整をするときは身体や物が挟まれないように注意してください。
- シートを調整したときは、ヘッドレストの中央が目の高さになっていることを確認してください。必要に応じてヘッドレストの高さを調整してください。

知 識

- シートを後方に移動しているとき、バックレストが後方に当たりそうになるとバックレストが自動的に起きます。
- バックレストの角度を後方に傾けているとき、バックレストが後方に当たりそうになるとシートが自動的に前方に移動します。

バックレストを倒す

① バックレストスイッチ
② 前部(バックレストを倒す)
③ 後部(バックレストを元に戻す)

シート後方のスペースへの荷物の積みおろしや、小物入れの開閉などを容易にするため、バックレストを前方に倒すことができます。

バックレストを前方に倒す

▶ ドアを開いた状態で、バックレストスイッチ①の前部②を押します。

バックレストが前方に倒れます。

バックレストを元の位置に戻す

▶ バックレストスイッチ①の後部③を押します。

バックレストが元の位置に戻ります。

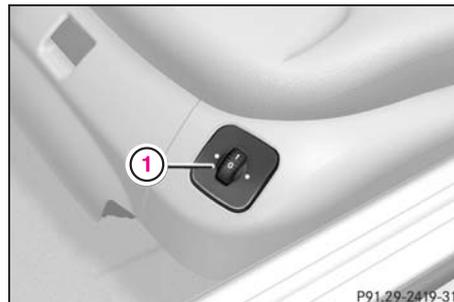
バックレストが作動しているときに、バックレストスイッチやシート調整スイッチ、シートポジションスイッチを操作すると、バックレストはその位置で停止します。

注 意 ！

バックレストを倒すときは、乗員の身体や物などが挟まれないように注意してください。

知　識

- バックレストを倒したとき、シート位置によっては、シートが前後に移動したり、ヘッドレストが上下することがあります。
- バックレストが元の位置に戻るときに障害物に当たると、動きが停止して、少し前方に移動することがあります。
- バックレストを前方に倒してからシート調整スイッチを操作すると、ボタンの後部を押してもバックレストが元の位置に戻らなくなることがあります。そのときはシート調整スイッチでシートを調整してください。

ランバーサポート＊

① 調整ダイヤル

腰部のサポートを調整することができます。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに調整できます。

調整ダイヤルはシート下部のドア側にあります。

サポートを調整する

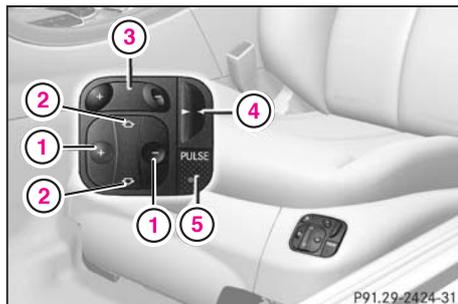
▶ 調整ダイヤル①を**0**から**5**の位置に合わせます。

ダイヤルの数字が大きくなると、サポートも強くなります。

知　識

調整ダイヤルをまわしても調整できないときは、バックレストのエアタンクの圧力が低下しています。エンジンを始動してから再度調整してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

マルチコントロールシートバック＊

① ランバーサポートの強さの調整
② ランバーサポートの位置の調整
③ ショルダーサポートの強さの調整
④ バックレスト横方向のサポートの強さの調整
⑤ マッサージスイッチ

背中を正しく支えるようにバックレストの位置や形状を調整することができます。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに調整できます。

スイッチはシート下部のドア側にあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ランバーサポートを調整する

腰部のサポートを調整することができます。

▶ スイッチ②の［⌂］または［⌄］を押して、サポートの位置を調整します。

▶ スイッチ①の［＋］または［－］を押して、サポートの強さを調整します。

ショルダーサポートの強さを調整する

▶ スイッチ③の［＋］または［－］を押します。

バックレスト横方向のサポートの強さを調整する

▶ スイッチ④を左右に操作します。

知　識

スイッチを押しても調整できないときは、バックレストのエアタンクの圧力が低下しています。エンジンを始動してから再度調整してください。

マッサージ機能

エンジンスイッチが**1**か**2**のときに使用できます。バックレストのエアクッションが膨張と収縮を繰り返し、長距離走行などの疲労を軽減します。

マッサージ機能を作動させる

▶ スイッチ⑤を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

マッサージ機能を停止する

▶ 再度、スイッチ⑤を押します。

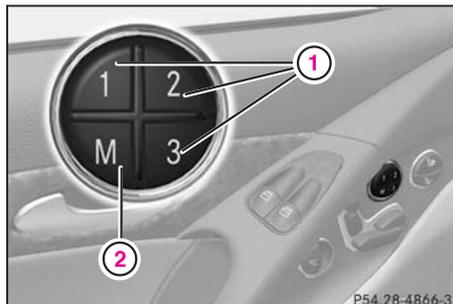
スイッチの表示灯が消灯します。

知　識

マッサージ機能は約8分後に自動的に停止します。

シート位置のメモリー機能

警　告

運転席シートのシート位置の呼び出しは、必ず停車しているときに行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

左ドアのスイッチ
① ポジションスイッチ
② メモリースイッチ

シート位置をポジションスイッチに記憶させることができます。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、または記憶 / 呼び出しする側のドアが開いているときに操作できます。

※右ドアのスイッチは、ポジションスイッチとメモリースイッチの配列が異なります。

シート位置を記憶させる

▶ 正しいシート位置に調整します。

運転席では、さらにステアリングの位置**(3-68)**、ドアミラーの角度**(3-63)**を調整します。

知　識

ドアミラーの角度を調整するときは、エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしてください。

▶ メモリースイッチ②を押します。

▶ 3秒以内にポジションスイッチ①の1～3のいずれかを押します。そのポジションスイッチにシート位置が記憶されます。

他のポジションスイッチにも同様の方法でシート位置を記憶させることができます。

記憶させたシート位置を呼び出す

▶ 呼び出したいポジションスイッチ①の1～3のいずれかを押し続けます。

シートなどが動きはじめ、記憶させた位置になると停止します。

知　識

安全のため、ポジションスイッチから手を放すと、シートなどの動きが停止します。

注　意　！

バックレストを大きく後ろに傾けた位置にしているときは、記憶位置を呼び出す前に、バックレストを起こしてください。

シートヒーター

注　意　！

- コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態ではシートヒーターを使用しないでください。また、シートヒーターを連続して使用しないでください。異常過熱により低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こしたり、シートヒーターが故障するおそれがあります。
- 以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。

  ◇ 乳幼児、お年寄り、病人、体が不自由な方

  ◇ 皮膚の弱い方

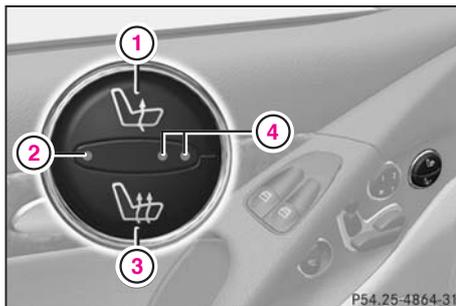
  ◇ 疲労の激しい方

  ◇ 眠気をさそう薬を服用された方

  ◇ 飲酒した方
- シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

知　識

多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。このときは表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再度自動的に作動して、表示灯が点灯します。

シートベンチレーター非装備車

左ドアのスイッチ
① シートヒータースイッチ(弱)
② 表示灯(弱)
③ シートヒータースイッチ(強)
④ 表示灯(強)

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに使用できます。

※右ドアのスイッチは、表示灯(弱)②と表示灯(強)④の位置、およびシートヒータースイッチの絵柄が左右反対になります。

シートヒーターを強で作動させる

▶ シートヒータースイッチ(強)③を押します。

表示灯(強)④が点灯します。

シートヒーターを強で作動させたときは、約5分後に自動的に弱に切り替わり、表示灯(弱)②が点灯します。

シートヒーターを弱で作動させる

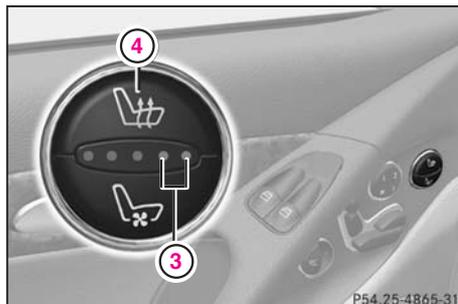
▶ シートヒータースイッチ(弱)①を押します。

表示灯(弱)②が点灯します。

シートヒーターを弱で作動させたときは、約30分後に自動的に停止します。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ(強)③、またはシートヒータースイッチ(弱)①を押して、表示灯(弱)②を消灯させます。

シートベンチレーター装備車

左ドアのスイッチ
③ 赤色表示灯
④ シートヒータースイッチ

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに使用できます。

※右ドアのスイッチは、赤色表示灯③の位置、およびシートヒータースイッチの絵柄が左右反対になります。

シートヒーターを使用する

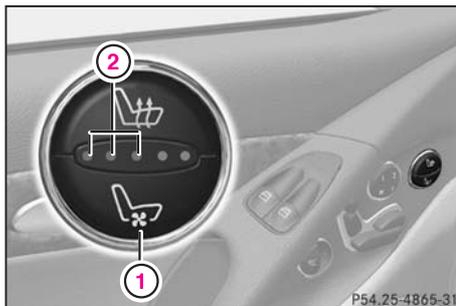
▶ シートヒータースイッチ④を押します。

赤色表示灯③が点灯します。

シートヒータースイッチを押すごとに点灯する表示灯の数が変わり、シートヒーターの作動内容が切り替わります。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ④を押して、赤色表示灯③を消灯させます。

点灯している表示灯の数	作動内容
2	シートヒーターが強で作動します。 約5分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約30分後に自動的に停止します。
0	停止しています。

シートベンチレーター＊

左ドアのスイッチ
① シートベンチレータースイッチ
② 青色表示灯

エンジンスイッチが1か2の位置のときに使用できます。

※右ドアのスイッチは、青色表示灯②の位置、およびシートベンチレータースイッチの絵柄が左右反対になります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

シートベンチレーターを使用する

▶ シートベンチレータースイッチ①を押します。

青色表示灯②が点灯します。

スイッチを押すごとに点灯する表示灯の数が変わり、シートベンチレーターの作動が切り替わります。

シートベンチレーターを停止する

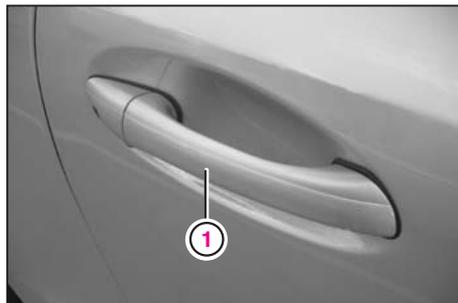
▶ シートベンチレータースイッチ①を押して、青色表示灯②を消灯させます。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートベンチレーターが強で作動します。
2	シートベンチレーターが中で作動します。
1	シートベンチレーターが弱で作動します。
0	停止しています。

知　識

- 多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートベンチレーターが停止することがあります。このときは表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再度自動的に作動して、表示灯が点灯します。
- リモコン操作でバリオルーフを開く（3-11）と、運転席のシートベンチレーターが強で作動し、約5分後に停止します。

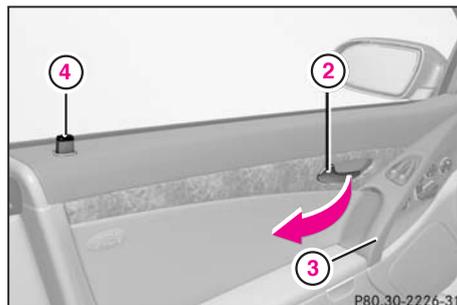
ドア

ドアの開閉

① ドアハンドル

車外から開く

▶ ドアハンドル①を引きます。

車外から閉じる

▶ ドアハンドル①をもって確実に閉じます。

② ドアレバー
③ インナーグリップ
④ ロックノブ

車内から開く

▶ ドアレバー②を矢印の方向に引きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ④が上がって解錠され、ドアも開きます。

車内から閉じる

▶ インナーグリップ③をもって確実に閉じます。

警　告

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。

注　意　!

- 車から離れるときは、エンジンを停止し、必ずドアを施錠してください。
- ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- ドアウインドウが凍結していたり、バッテリーがあがっているときは、ドアを開いたときにドアウインドウやリアサイドウインドウは下降しません。

  このときは、無理にドアを閉じないでください。ドアやウインドウ、シール部を損傷するおそれがあります。

知　識

- ドアウインドウが全閉のとき、ドアを開くとドアウインドウとリアサイドウインドウが少し下降し、閉じると上昇します。
- 助手席のドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。
- リモコン操作で施錠してから車内のドアレバーでドアを開くと、他のドア、トランク、燃料給油フラップも解錠されます。また、グローブボックス、アームレストの小物入れ、シート後方の小物入れを独立施錠していないときは、これらも解錠されます。

  ただし、リモコン操作で施錠してから約10秒経過すると、盗難防止警報システムが待機状態になるため、ドアやトランク、グローブボックスや小物入れなどを開くと、警報が作動します。

- ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます（10-10）。
- シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ドアは施錠されていても自動的に解錠されます。

イージーエントリー機能

運転席への乗り降りを容易にするため、次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- エンジンスイッチが**0**か**1**の位置のときに運転席ドアを開く

ステアリングは、次のいずれかの操作をすると、元の位置に戻ります。

- 運転席ドアが閉じた状態で、エンジンスイッチにキーを差す
- エンジンスイッチが**0**の位置のときは運転席ドアを閉じてから**1**の位置にする
- エンジンスイッチが**1**の位置のときは、運転席ドアを閉じて**2**の位置にする

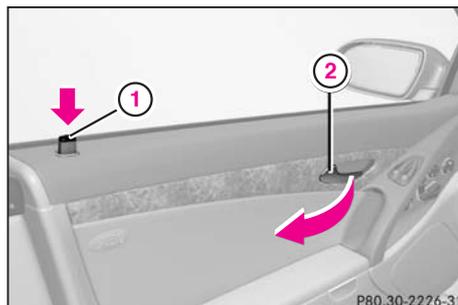
この機能の設定と解除については**（4-44）**をご覧ください。

警　告

子供だけを車内に残して車から離れないでください。誤ってドアを開いたときなどにイージーエントリーが作動し、身体が挟まれてけがをするおそれがあります。

知　識

- イージーエントリーの作動を停止するときは、ステアリング調整レバーかシートポジションスイッチを操作してください。
- ステアリングの位置によっては、ステアリングが上方に移動しないことがあります。

ドアごとに解錠 / 施錠する

① ロックノブ
② ドアレバー

解錠する

▶ ドアレバー②を矢印の方向に引きます。

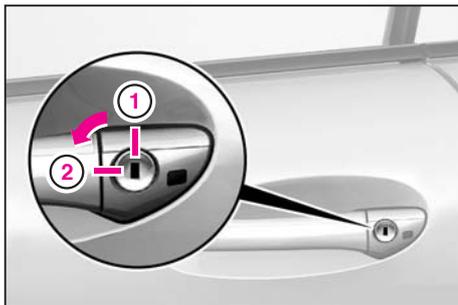
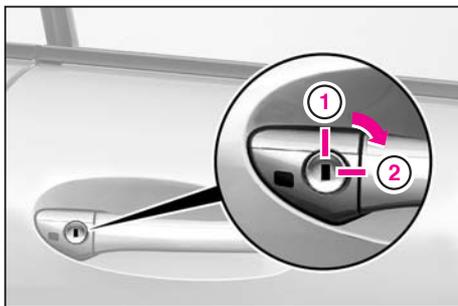
ロックノブ①が上がって解錠され、ドアも開きます。

施錠する

▶ ロックノブ①を矢印の方向に押し込みます。

注 意 ！

- 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。
- ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠する

左ハンドル車

右ハンドル車

① エマージェンシーキーを差し込む / 抜く位置
② 解錠の位置

リモコン操作ができないときは、運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーにエマージェンシーキー（3-10）を差し込み、解錠することができます。

解錠する

▶ エマージェンシーキーを運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを解錠の位置②(前方)にまわします。

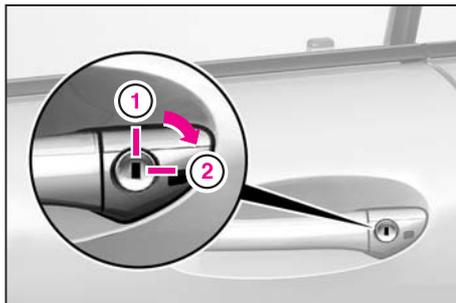
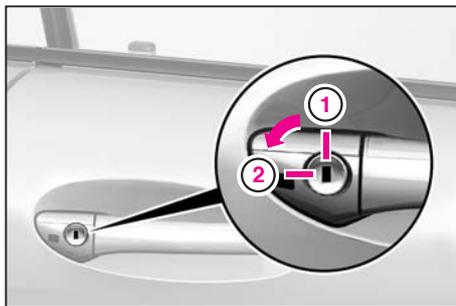
▶ エマージェンシーキーを①の位置にまわして抜きます。

注 意 ！

- リモコン操作で施錠した後に、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、盗難防止警報が作動します。警報を停止するには、キーをエンジンスイッチに差し込むか、キーの🔓か🔒を押します。
- 車から離れる前に、すべてのドアウインドウとリアクォーターウインドウ、バリオルーフが閉じていることを確認してください。
- エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠しても、助手席ドア、トランク、燃料給油フラップ、グローブボックス、アームレストの小物入れ、シート後方の小物入れは解錠 / 施錠されません。

知 識

助手席ドアのドアハンドルにはキーシリンダーはありません。

非常時の車の施錠

左ハンドル車

右ハンドル車

① エマージェンシーキーを差し込む / 抜く位置
② 施錠の位置

リモコン操作で車を施錠できないときは、以下の方法で車を施錠してください。

施錠する

▶ 助手席ドアとトランクを閉じます。

▶ ドアロックスイッチ(施錠)**(3-30)**を押します。

ドアロックスイッチが作動しないときは、助手席ドアのロックノブを押し込みます。

▶ 運転席ドアを閉じます。

▶ エマージェンシーキーを運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込み、施錠の位置②(後方)にまわします。

▶ エマージェンシーキーを①の位置にまわして抜きます。

注 意 !

- ドアロックスイッチが作動せず、ロックノブを押し込んで車を施錠したときには、トランクが施錠されていないことがあります。このときは、指定サービス工場に連絡してください。
- エマージェンシーキーでドアを施錠したときは、グローブボックスやアームレストの小物入れ、シート後方の小物入れは施錠されません。エマージェンシーキーであらかじめ独立施錠してください **(6-24)**。

ドアロックスイッチ

① 解錠
② 施錠

車内から、すべてのドアとトランクをスイッチ操作で解錠 / 施錠することができます。

注 意 ！

ドアのロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供を乗せたときは、特に注意してください。

解錠する

▶ 解錠スイッチ①を押します。

施錠する

▶ 施錠スイッチ②を押します。

次のようなときはドアロックスイッチで解錠 / 施錠することはできません。

- リモコン操作で施錠しているとき
- 助手席ドアが開いているとき

知 識

- 運転席ドアが開いているときにドアロックスイッチで施錠すると、助手席ドアとトランクが施錠されます。
- ドアロックスイッチで施錠してあるとき、車内のドアレバーを引いてドアを開くと、他のドア、トランクも解錠されます。
- ドアロックスイッチで施錠しても、燃料給油フラップやグローブボックス、アームレストの小物入れやシート後方の小物入れは施錠されません。

車速感応ドアロック

走行速度が約15km/h以上になると、ドアとトランクを自動的に施錠します。

この機能の設定と解除については（4-42）をご覧ください。

注 意 ！

- 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを0の位置にしてください。車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

知 識

車速感応ドアロックにより車が施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動すると、自動的に解錠されます。

トランク

注 意 !

- トランクを開くときは、トランクの周りに障害物がなく、身体や物に当たるおそれがないことを確認してください。
- トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。
- トランクを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- トランクに乗車しないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- 子供などがトランクに閉じ込められないように注意してください。
- 強風のときにトランクを開くと、強い風にあおられ、トランクが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

  また、トランクに雪が積もっているときも同様に注意してください。
- トランクを閉じたときは、トランクが確実に閉じていることを確認してください。
- トランクが開いているときにリモコン操作で施錠し、トランクを閉じるとトランクは施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。
- バリオルーフが開いているときにトランクを閉じるときは、収納されたルーフが下がっていることを確認してください(3-36)。

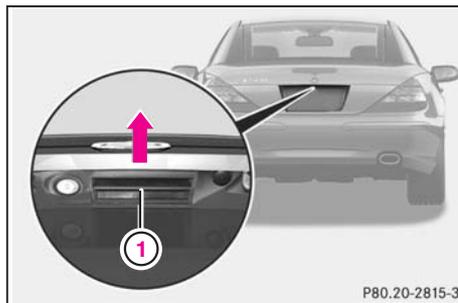
クロージングサポーター

ロックがかみ合う位置までトランクを閉じると、クロージングサポーターが作動し、トランクが自動で閉じます。

注 意 !

- クロージングサポーターが作動しているときに、身体などが挟まれないように注意してください。

  万一、身体などが挟まれそうになったときは、トランクのハンドルを引いてください。クロージングサポーターの作動が停止し、トランクが開きます。
- トランクのヒンジ部分に手や指を触れないでください。クロージングサポーターが作動してヒンジが自動的に動き、手や指が挟まれてけがをするおそれがあります。

自動開閉トランクリッド非装備車

① ハンドル

車外からトランクを開く

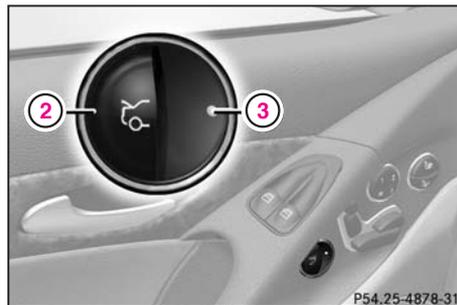
▶ ハンドル①を手前に引きます。

トランクが少し開きます。

▶ トランクを引き上げます。

または

▶ キーの[トランクボタン]を押し続けます。

トランクが少し開きます。

▶ トランクを引き上げます。

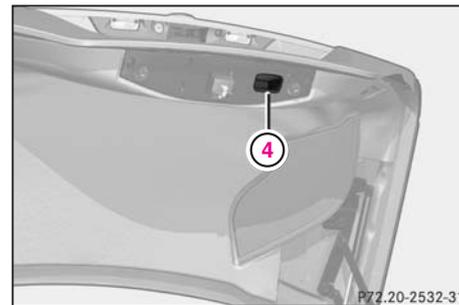
左ハンドル車

② トランクオープナースイッチ
③ 表示灯

車内からトランクを開く

▶ トランクオープナースイッチ②を引き続けます。

トランクが少し開きます。

▶ トランクを引き上げます。

④ 凹部

トランクを閉じる

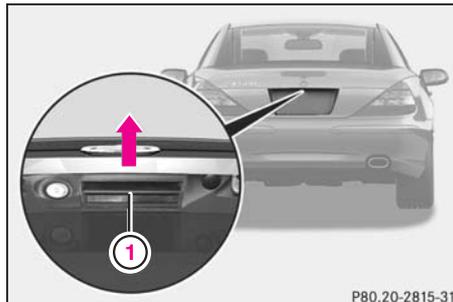
▶ トランク内側の凹部④に手をかけてトランクを引き下げ、次に外側からトランクを軽く押さえます。

トランクのロックがかみ合う位置まで閉じるとクロージングサポーターが作動し、トランクが自動で閉じます。

知　識

- トランクが開いているときは、表示灯③が点灯します。
- 走行中は、トランクを開くことはできません。
- トランクが完全に閉じていない状態で走行すると警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

自動開閉トランクリッド装備車

車外からのトランクの開閉

① ハンドル

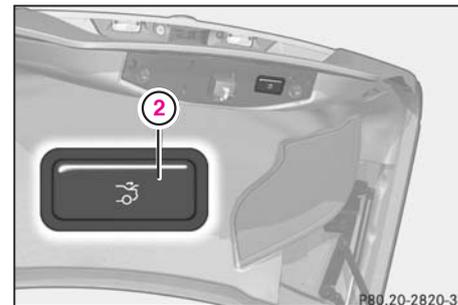
トランクを開く

▶ ハンドル①を手前に引きます。

トランクが自動で開きます。

または

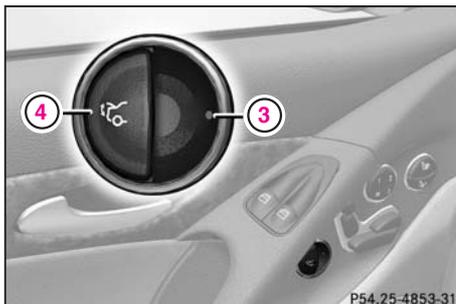
▶ キーの[トランク記号]を押し続けます。

トランクが自動で開きます。

② トランククローザースイッチ

トランクを閉じる

▶ トランククローザースイッチ②を押します。

トランクが自動で閉じます。

車内からのトランクの開閉

③ 表示灯
④ トランクスイッチ

トランクを開く

▶ トランクスイッチ④を引きます。

トランクが自動で開きます。

トランクを閉じる

▶ トランクスイッチ④を押し続けます。

押している間、トランクが閉じます。

スイッチから手を放すと、その位置で停止します。

注 意 ！

- トランククローザースイッチでトランクを閉じているときに、身体や物が挟まれそうになったときは、以下の操作をしてください。トランクの動きが停止します。

  ◇トランククローザースイッチを押す

  ◇運転席ドアのトランクスイッチを操作する

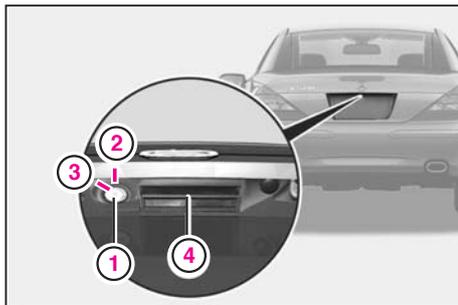
  ◇キーの を押す

  ◇トランクハンドルを引く

- トランクスイッチでトランクを閉じているときに、身体や物が挟まれそうになったときは、ただちにトランクスイッチから手を放してください。トランクの動きが停止します。

知 識

- トランクが開いているときは、表示灯③が点灯します。
- バリオルーフがトランク内に収納されているときは、トランクを開閉すると、収納されたルーフも上下します。
- トランクを開いているときに、身体や荷物などがトランクに接触したときは、トランクの動きが停止します。
- トランククローザースイッチやトランクスイッチでトランクを閉じているときに、身体やトランクルームに積んだ荷物などがトランクに接触したときは、トランクの動きが停止し、自動で開きます。
- 走行中は、トランクを自動で開閉することはできません。

エマージェンシーキーでのトランクの解錠

① キーシリンダー
② エマージェンシーキーを差し込む / 抜く位置
③ 解錠の位置
④ ハンドル

リモコン操作でトランクを開いたり、解錠できないときはエマージェンシーキー（3-10）で解錠します。

▶ トランクのキーシリンダー①にエマージェンシーキーを差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを解錠の位置③にまわします。

▶ ハンドル④を引いてトランクを開きます。

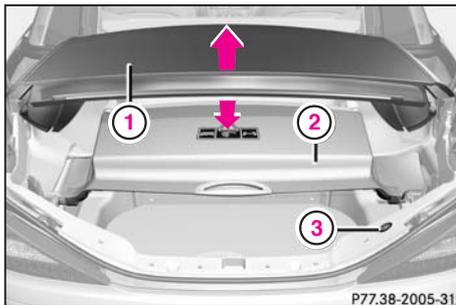
▶ エマージェンシーキーを②の位置にまわして抜きます。

注　意　!

リモコン操作で施錠した後に、エマージェンシーキーでトランクを解錠して開くと、盗難防止警報が作動します。警報を停止するには、キーをエンジンスイッチに差し込むか、キーの🔓か🔒を押します。

知　識

- エマージェンシーキーでトランクを解錠しても、ドアや燃料給油フラップ、グローブボックス、アームレストの小物入れやシート後方の小物入れは解錠されません。
- エマージェンシーキーでトランクを解錠した後に、エマージェンシーキーをキーシリンダーから抜いてトランクを閉じると再び施錠されます。キーをトランク内に放置しているとキーを取り出せなくなります。

イージーパック

① バリオルーフ
② ラゲッジカバー
③ イージーパックスイッチ

荷物を出し入れするときなどに、収納されたバリオルーフを上昇させることができます。

イージーパック機能は、トランクがいっぱいに開いていて、ラゲッジカバー（3-51）がセットされているときに作動します。

収納されたルーフを上げるとき

▶ イージーパックスイッチ③を押します。

ルーフ①が上昇し、スイッチの表示灯が明るく点灯します。

ラゲッジカバー②をフックから外して、荷物の出し入れを行ないます。

収納されたルーフを下げるとき

▶ ラゲッジカバー②をセットします。

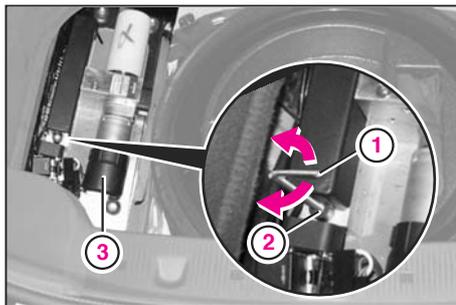
▶ イージーパックスイッチ③を押します。

ルーフ①が下降し、スイッチの表示灯が元の明るさに戻ります。

注　意　！

- 収納されたルーフを上下させるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは再度イージーパックスイッチを押してください。ルーフの動きが停止します。
- ルーフが完全に下がっていないときは、トランクを閉じないでください。ルーフやトランク、バリオルーフ開閉機構などを損傷するおそれがあります。
- 自動開閉トランクリッド非装備車は、ルーフを上げたままトランクを閉じようとすると、イージーパックスイッチが点滅し、警告音が鳴ります。

知　識

自動開閉トランクリッド装備車は、トランクを開閉すると、収納されたルーフも上下します。

① 六角レンチ
② スクリュー
③ 油圧ポンプ

ルーフが下がらなくなったとき

上昇したルーフが下がらなくなった場合は、手動でルーフを下げます。

注　意　!

手動でルーフを下げる作業は、緊急の場合にのみ、行なってください。作業は大人2人で十分に注意しながら行なってください。

手動でルーフを下げる

▶ トランクマットを外します。

▶ ラゲッジカバー両端のフックをホルダーにかけます。

▶ 車載工具から六角レンチ①を取り出します。

▶ 油圧ポンプ③のスクリュー②に六角レンチ①を差し込みます。

▶ 上昇したルーフを支えながら、スクリュー②を反時計回りにゆっくり約1/8回転ほどゆるめます。

ルーフがゆっくり下がりはじめます。

▶ ルーフが完全に下がったら、油圧ポンプのスクリューを時計回りにまわして確実に締めます。

詳しくは、指定サービス工場におたずねください。

警　告

- スクリューを一気にゆるめないでください。ルーフが急に下がるため、挟まれてけがをするおそれがあります。
- スクリューは約1/8回転以上ゆるめないでください。スクリューをゆるめ続けるとスクリューが損傷し、高圧のオイルが吹き出してけがをするおそれがあります。

注　意　!

スクリューを締めすぎないように注意してください。

トランクマット下の収納スペース

① ストラップ
② トランクマット

トランクマット下には車載工具、応急用スペアタイヤ、ジャッキなどが収納されています。

収納されている物を取り出すとき

▶ ストラップ①を矢印の方向に引いて、トランクマット②を起こします。

▶ トランクマット裏側のフックを、ラゲッジカバーのハンドルにかけます。

トランクランプ

トランクルーム内の手前右側にトランクランプがあります。

トランクを開くと点灯し、閉じると消灯します。

知 識

トランクを開いたままでもトランクランプは約10分後に消灯します。

トランクに荷物を積むとき

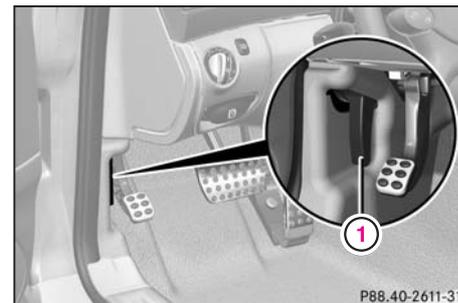
荷物を積むとき、積み方によっては車の走行安定性に大きく影響します。以下の点に注意してください。

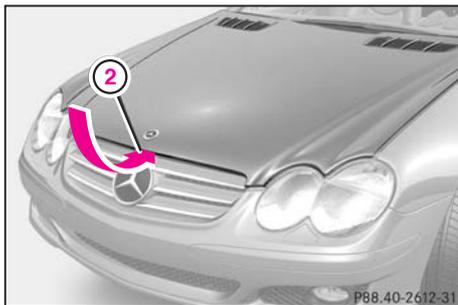
- 荷物はできるだけトランクに積んでください。
- 重い物は車の中心近く（トランクの前方）に置いてください。
- 重い物は重量が均等になるように積み、一部に偏らないように積んでください。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。

ボンネット

警　告

- ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。
- 走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。
- エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが2の位置のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。
- エンジンスイッチからキーを抜いていても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

ボンネットを開く

左ハンドル車
① ボンネットロック解除レバー

▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー①を手前に引きます。

② ロック解除ノブ

▶ ボンネットの裏側にあるロック解除ノブ②を矢印の方向に押しながら、ボンネットを少し持ち上げます。

ダンパーの力で自動的にボンネットが開きます。

注 意 !

強風のときにボンネットを開くと、風にあおられて、ボンネットが不意に下がるおそれがあります。風の強い日には十分に注意してください。

また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

ボンネットを閉じる

▶ ボンネットを引き下げ、グリル上部から約20cm～30cmの位置で手を放して閉じます。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

警 告

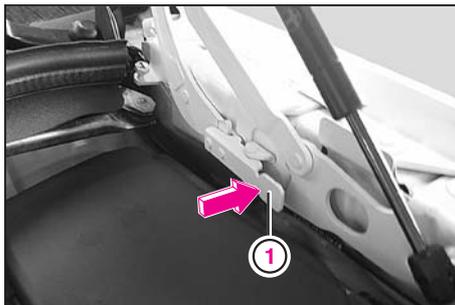
走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

注　意　！

- エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットやエンジンルーム内の機器類などを損傷するおそれがあります。
- ボンネットを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。

知　識

ボンネットが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

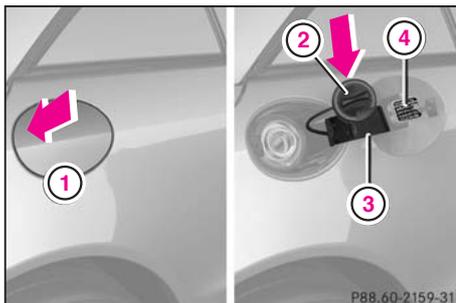
ボンネットを垂直に開く

① ロック解除レバー

垂直位置まで開く

▶ ボンネットを少し下げながら、向かって右側のヒンジにあるロック解除レバー①を矢印の方向に押してロックを解除し、ボンネットを開きます。

垂直位置から閉じる

▶ 向かって右側のヒンジにあるロック解除レバー①を押してロックを解除し、ボンネットを閉じます。

燃料給油口

① 燃料給油フラップ
② キャップ
③ ホルダー
④ タイヤ空気圧ラベル

燃料給油フラップを開く

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 燃料給油フラップ①の矢印の部分を押します。

キャップを外す

▶ キャップ②を反時計回りに少しまわしてタンク内の圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、さらに反時計回りにまわして外します。

▶ 外したキャップ②を燃料給油フラップの裏側にあるホルダー③に置きます。

キャップを取り付ける

▶ キャップ②を補給口に合わせて、時計回りにいっぱいにまわします。

燃料給油フラップを閉じる

▶ 燃料給油フラップ①を押します。

警　告

- エンジンをかけたまま給油しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- 周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生するおそれがあります。
- 肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

注　意　!

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。
- 給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。燃料を入れすぎるとエンジンが不調になったり、停止するおそれがあります。
- 燃料をこぼさないように注意してください。

  燃料が車の塗装面に付着したときは、すぐに拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 燃料給油フラップが開かない場合は、指定サービス工場に連絡してください。

知　識

- 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベル④が貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（8-18）をご覧ください。
- リモコン操作での解錠 / 施錠に連動して、燃料給油フラップも解錠 / 施錠されます。

盗難防止警報システム

① 表示灯

盗難防止警報システムが待機状態のときに、以下のものが開けられると警報が作動します。

- ドア
- トランク
- グローブボックス
- アームレストの小物入れ
- シート後方の小物入れ

また、ボンネットのロックが解除されたときやバッテリーの接続が断たれたときも警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作で施錠します。

ドアロックスイッチ（施錠）の表示灯①が点滅し、約10秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯①が点滅を続けます。

システムの待機状態を解除する

▶ リモコン操作で解錠します。

表示灯が消灯します。

注　意　!

- システムを待機状態にするときはボンネットが確実に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にしたときは、ボンネットが開けられても警報は作動しません。
- システムが待機状態のときに車内からドアを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。
- システムを待機状態にしても、表示灯①が点滅しない場合は、システムが故障しています。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

警報の作動

システムが待機状態のとき、以下のような状況を感知すると警報が作動します。

- ドアが開けられたとき
- トランクが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき
- グローブボックスやアームレストの小物入れ、シート後方の小物入れが開けられたとき

警報が作動すると、サイレンが約30秒間鳴り、非常点滅灯が通常の約2倍の速さで約5分間点滅します。また、ルームランプも約5分間点灯します。

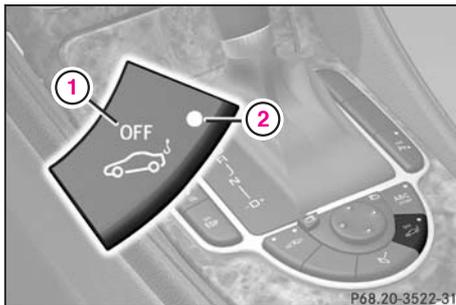
知　識

リモコン操作で施錠した後、エマージェンシーキーで運転席ドアやトランク、グローブボックスを解錠して開くと、警報が作動します。

警報が作動したときの解除方法

▶ キーの🔓か🔒を押すか、エンジンスイッチにキーを差します。

知　識

ドアやトランクなどが開けられたり、ボンネットのロックが解除されて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は解除されません。

けん引防止警報機能＊

① けん引防止警報機能解除スイッチ
② 表示灯

盗難防止警報システムが待機状態のとき、車が傾いたことを検知すると、けん引防止警報機能が働き、サイレンと非常点滅灯の点滅による警報が作動します。

けん引防止警報機能を待機状態にする

▶ リモコン操作で施錠します。

約30秒後にけん引防止警報機能が自動的に待機状態になります。

けん引防止警報機能の待機状態を解除する

▶ リモコン操作で解錠します。

知　識

けん引防止警報機能が待機状態のときにジャッキアップすると、警報が作動する場合があります。

警報が作動したときの解除方法

▶ キーの🔓か🔒を押すか、エンジンスイッチにキーを差します。

けん引防止警報機能の解除

車を立体駐車場に入れたり、カーフェリーや車両運搬車に乗せて移動するときは、けん引防止警報機能が作動することがあります。そのようなときはけん引防止警報機能を解除してから施錠してください。

▶ エンジンスイッチを**0**か**1**の位置にするか、キーを抜きます。

▶ けん引防止警報機能解除スイッチ①を押します。

表示灯②が数秒間点灯し、その後消灯して、けん引防止警報機能が解除されます。

▶ リモコン操作で車を施錠します。

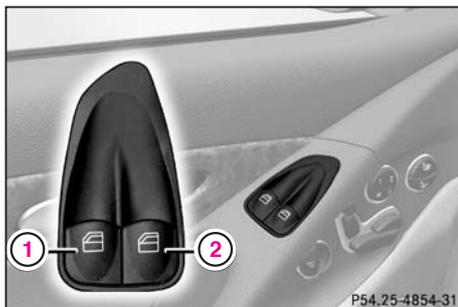
上記の操作で盗難防止警報システムのけん引防止警報機能が解除され、車が傾いても警報が作動しなくなります。

知　識

けん引防止警報機能を解除しても、盗難防止警報システムは作動します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

パワーウインドウ

ドアウインドウ / リアクォーターウインドウの開閉

運転席ドアのスイッチ(左ハンドル車)

① ドアウインドウ / リアクォーターウインドウスイッチ（運転席側）
② ドアウインドウ / リアクォーターウインドウスイッチ（助手席側）

スイッチは各ドアにあります。

運転席ドアには、運転席側と助手席側のドアウインドウ / リアクォーターウインドウスイッチがあります。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに、操作することができます。

バリオルーフが開いているとき

ドアウインドウとリアクォーターウインドウを開く

▶ スイッチを軽く押します。

押している間だけドアウインドウとリアクォーターウインドウが同時に開きます。

スイッチから手を放すとドアウインドウはその位置で停止し、リアクォーターウインドウは停止せずに全開します。

または

▶ スイッチをいっぱいに押します。

ドアウインドウとリアクォーターウインドウが同時に自動で開きます。

途中でスイッチを操作すると、ドアウインドウはその位置で停止し、リアクォーターウインドウは停止せずに全開します。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチを軽く引きます。

ドアウインドウが閉じます。

スイッチから手を放すと、その位置で停止します。

または

▶ スイッチをいっぱいに引きます。

ドアウインドウが自動で閉じます。

途中でスイッチを操作すると、その位置で停止します。

リアクォーターウインドウを閉じる

▶ ドアウインドウが全閉した後、再度スイッチを引きます。

リアクォーターウインドウが閉じます。

スイッチから手を放すと、その位置で停止します。

バリオルーフが閉じているとき

ドアウインドウを開く

▶ スイッチを軽く押します。

押している間だけドアウインドウが開きます。

スイッチから手を放すと、その位置で停止します。

または

▶ スイッチをいっぱいに押します。

ドアウインドウが自動で開きます。

途中でスイッチを操作すると、その位置で停止します。

リアクォーターウインドウを開く

▶ ドアウインドウが全開した後、再度スイッチを押します。

リアクォーターウインドウが自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチを軽く引きます。

ドアウインドウが閉じます。

スイッチから手を放すとその位置で停止します。

または

▶ スイッチをいっぱいに引きます。

ドアウインドウが自動で閉じます。

途中でスイッチを操作すると、その位置で停止します。

リアクォーターウインドウを閉じる

▶ ドアウインドウが全閉した後、再度スイッチを引きます。

リアクォーターウインドウが閉じます。

スイッチから手を放すと、その位置で停止します。

注　意　！

- ドアウインドウやリアクォーターウインドウを開くときは、ウインドウに身体を寄りかけないでください。ウインドウとドアフレームのすき間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。
- ドアウインドウやリアクォーターウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにスイッチを押して、ウインドウを開いてください。

知　識

- エンジンスイッチを**0**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約5分間は、ドアウインドウやリアクォーターウインドウを開閉することができます。5分以内にドアを開くと、ドアウインドウやリアクォーターウインドウの開閉はできなくなります。
- ドアウインドウには挟み込み防止機能があります。ドアウインドウが自動で閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウがただちに停止し、その位置から少し下降します。
- 運転席側のドアウインドウは、一度挟み込み防止機能が働くと、約5秒間は挟み込みを感知しません。

ウインドウが自動で開閉しないとき

バッテリーあがりやバッテリーの交換などで一時的に電力が断たれたときは、ウインドウが自動で開閉できなくなることがあります。

このときは、スイッチを軽く引いて全閉にし、そのまま2秒以上保持してください。この操作を他のウインドウでも行なってください。再び、ウインドウが自動で開閉できるようになります。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

バリオルーフ

安全のため、バリオルーフを開閉するときは、必ず停車してください。

警　告

- バリオルーフを開閉するときは、ルーフやトランク、ドアウインドウやリアクォーターウインドウなど、作動する部分に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。また、それらが作動する範囲に障害物がないことも確認してください。
- 走行中は、必ずバリオルーフを完全に閉じた状態にするか、トランク内に確実に収納してください。走行中にバリオルーフが動くと、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 身体や物が挟まれそうになったときは、ルーフスイッチから手を放してください。ルーフの作動が停止します。
- バリオルーフの開閉操作を途中で停止しないでください。けがをしたり、ルーフを損傷するおそれがあります。

  開閉操作を途中で停止すると、以下の時間が経過した後に油圧装置の圧力が低下し、ルーフが倒れ込みます。

  ◇エンジンスイッチが2の位置のときは約7分

  ◇エンジンスイッチを2以外の位置にしたときは約10秒

  このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻｶﾞﾘﾏｽ!" と表示されます。

注　意！

- バリオルーフを開閉するとき、ルーフは上方に、トランクは後方に動きます。上方および後方、バリオルーフの作動範囲に十分な空間があることを確認してください。
- バリオルーフが開いているとき、ロールバー後方のスペースに腰掛けたり重い物を置かないでください。
- バリオルーフ開閉時にルーフや荷物を損傷させないため、以下の点に注意してください。

  ◇荷物をラゲッジカバーより高く積み上げないでください。

  ◇ラゲッジカバーの上に物を置かないでください。

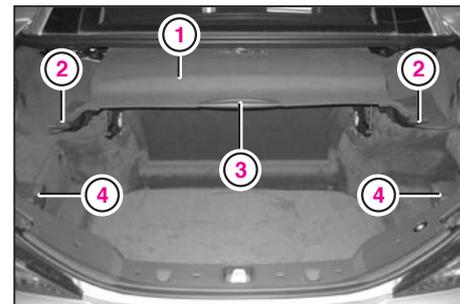
  ◇ラゲッジカバーが荷物に押し上げられないようにしてください。

◇ロールバー後方のスペースに物を置かないでください。

- バリオルーフ開閉中に運転席ドアのトランクオープナースイッチ / トランクスイッチやトランクのハンドルを操作しないでください。
- 気温が約－15℃以下のときはルーフを開閉しないでください。
- 車を離れるときは、盗難をさけるため、必ずバリオルーフを閉じ、ドアとドアウインドウ、トランクなどが閉じていること、各部が施錠されていることを確認してください。
- トランクが完全に閉じていないときにバリオルーフを開閉しようとすると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます(10-10)。

知　識

リモコン操作でバリオルーフを開閉することができます。詳しくは(3-11)をご覧ください。

ラゲッジカバー

ラゲッジカバーを開いた状態

① ラゲッジカバー
② フック
③ ハンドル
④ ホルダー

ラゲッジカバーを開く

▶ ハンドル③を持って、フック②をホルダー④から外します。

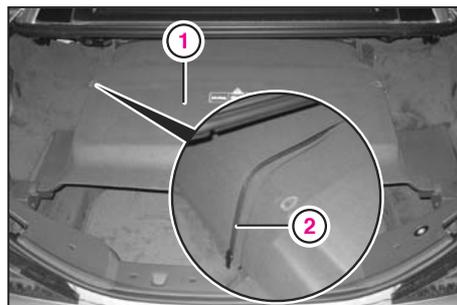
ラゲッジカバーが奥に引き込まれます。

この状態のときには、バリオルーフを開閉することはできません。

ラゲッジカバーを閉じる

▶ ハンドル③を持ってラゲッジカバー①を手前に引き出し、両端のフック②をホルダー④にかけます。

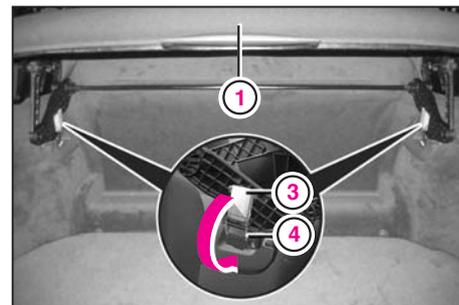
この状態のときに、バリオルーフの開閉ができます。

ラゲッジカバーの脱着

① ラゲッジカバー
② ファスナー

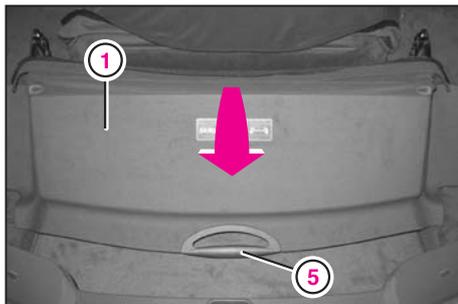
バリオルーフを閉じているときは、ラゲッジカバーを取り外すことができます。

ラゲッジカバーを取り外す

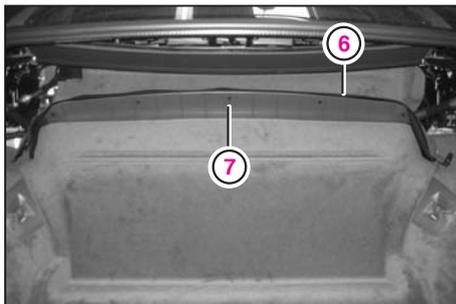
▶ ラゲッジカバー①を閉じます。

▶ ファスナー②を外します。

① ラゲッジカバー
③ ロックレバー
④ フック

▶ ラゲッジカバー①を開きます。

▶ 左右のロックレバー③を矢印の方向に下げて、フック④を外します。

① ラゲッジカバー
⑤ ハンドル

▶ ハンドル⑤を持ち、ラゲッジカバー①を矢印の方向に下げます。

▶ ラゲッジカバー①を上方に引き上げて取り外します。

⑥ カバー前端部
⑦ トレイ

ラゲッジカバーを取り付ける

▶ カバー前端部⑥をトレイ⑦の上に載せます。

▶ 取り外したときと逆の手順で、ラゲッジカバーを取り付けます。

注 意 !

- ルーフ開閉時にルーフや荷物を損傷させないため、以下の点に注意してください。

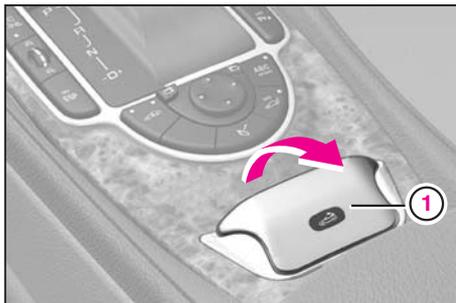
  ◇ラゲッジカバーの上に物を置かないでください。

  ◇荷物をラゲッジカバーより高く積み上げないでください。

  ◇荷物がラゲッジカバーを押し上げていないことを確認してください。

- バリオルーフがトランクに収納されているときにラゲッジカバーを開閉する場合は、イージーパックスイッチ（3-36）でルーフを上げてください。

知 識

フックがホルダーに正しく固定されていないときにバリオルーフを開閉しようとすると、確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾄﾗﾝｸﾙｰﾑ ﾗｹﾞｯｼﾞ ｶﾊﾞｰ ｦ ﾄｼﾞ ﾃｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。

バリオルーフを開く

① バリオルーフスイッチ

注　意　！

バッテリーあがりを防ぐため、バリオルーフを操作するときはできるだけエンジンをかけてください。

▶ エンジンスイッチを**2**の位置にします。

▶ セレクターレバーを**P**に入れます。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ バリオルーフスイッチ①を矢印の方向に引いて、すべての作動が終了するまで保持します。

- マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ!" と表示されます。
- ドアウインドウとリアクォーターウインドウが閉じているときは少し開きます。
- トランクが後方に開きます。
- リアクォーターウインドウが開きます。
- ルーフが後方に移動し、トランク内に収納されます。
- トランクが閉じます。
- ドアウインドウが閉じます。
- マルチファンクションディスプレイの "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ!" の表示が消えます。

注 意 !

- バリオルーフを開く前に以下の点を確認してください。

  ◇トランク内のラゲッジカバーが引き出され、両端のフックがホルダーにかかっていること

  ◇トランクが正しく閉じていること

  ◇ロールバー後方のスペースの上に物が置かれていないこと

- ルーフが濡れているときに開くと、車内やトランクに水が入ることがあります。開く前にルーフ上の水を拭き取ってください。

- 以下のときはルーフがトランクに正しく収納されていません。

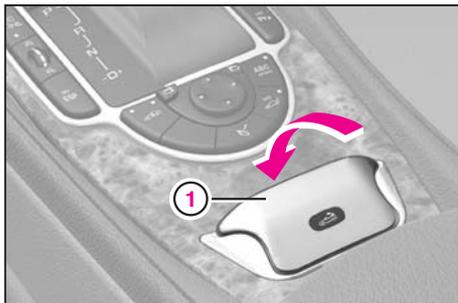
  ◇マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ!" と表示されているとき。

  ◇発進時や走行中に、マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｶﾝｾﾞﾝﾆ ｵｰﾌﾟﾝ/ｸﾛｰｽﾞ" と表示され、警告音が約10秒ほど鳴ったとき。

  このときは、停車してバリオルーフスイッチを矢印の方向 **(3-54)** に引き、バリオルーフを完全に開いてください。

- バリオルーフの動きに連動して、ドアウインドウとリアクォーターウインドウも動きます。ロールバーが上がった状態のときはロールバーも動きます。

- バリオルーフスイッチの操作中に、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは **(10-10、15、19、20)** をご覧ください。

バリオルーフを閉じる

① バリオルーフスイッチ

注 意 !

バッテリーあがりを防ぐため、バリオルーフを操作するときはできるだけエンジンをかけてください。

▶ エンジンスイッチを**2**の位置にします。

▶ セレクターレバーを**P**に入れます。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ バリオルーフスイッチ①を矢印の方向に押して、すべての作動が終了するまで保持します。

- マルチファンクションディスプレイに"ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ!"と表示されます。
- ドアウインドウとリアクォーターウインドウが閉じているときは少し開きます。
- トランクが後方に開きます。
- ルーフが前方に移動します。
- ルーフがウインドウフレームにロックされます。
- トランクが閉じます。
- ドアウインドウとリアクォーターウインドウが閉じます。
- マルチファンクションディスプレイの"ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ!"の表示が消えます。

注 意 ！

- バリオルーフを閉じる前に以下の点を確認してください。

  ◇トランク内のラゲッジカバーが引き出され、両端のフックがホルダーにかかっていること

  ◇トランクが正しく閉じていること

  ◇ロールバー後方のスペースに物が置かれていないこと

- シートやシート後方のスペースには、ルーフが閉じてきたときに干渉するおそれのある物を置かないでください。また、サンバイザーをフックから外した状態でバリオルーフを閉じると、バリオルーフとサンバイザーが当たり損傷するおそれがあります。

- 以下のときはルーフがウインドウフレームに正しくロックされていません。

  ◇マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ!" と表示されるとき。

  ◇発進時や走行中に、マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｶﾝｾﾞﾝﾆ ｵｰﾌﾟﾝ/ｸﾛｰｽﾞ" と表示され、警告音が約10秒ほど鳴ったとき。

  このときは、停車して、バリオルーフを完全に閉じてください。

- バリオルーフの動きに連動して、ドアウインドウとリアクォーターウインドウも動きます。ロールバーが上がった状態のときはロールバーも動きます。

- バリオルーフスイッチの操作中に、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは（**10-10、15、19、20**）をご覧ください。

ドラフトストップ

ドラフトストップは、バリオルーフを開いて走行するときに生じる風を整流するための装備です。車内への風の巻き込みを減少させます。

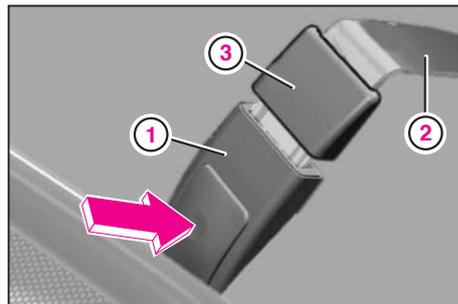
使用しないときはトランク内などに保管してください。

警　告

- ドラフトストップは必要なときだけ使用するようにしてください。以下の場合は、ドラフトストップを使用しないでください。

  ◇後方視界が十分に確保できない場合

  ◇周囲が暗い場合

- バリオルーフを閉じて走行するときは、ドラフトストップを使用しないでください。後方視界の妨げになるおそれがあります。
- ドラフトストップを装着したときなど、ルームミラーのセンサーに後続車のライトが当たらないときは、ルームミラーと運転席側ドアミラーの自動防眩機能は作動しません。

① バックル
② ストラップ
③ フック

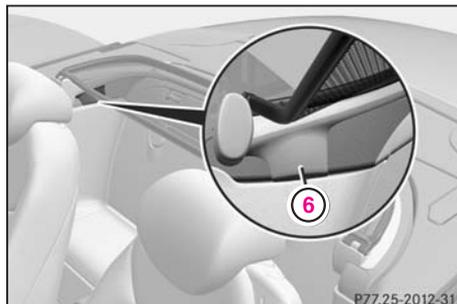
ドラフトストップを装着する

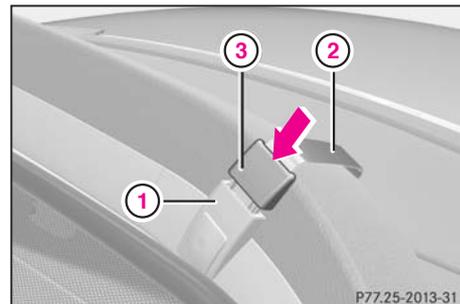
▶ ドラフトストップのバックル①のボタンを押して、ストラップ②のフック③を外します。

② ストラップ
④ ドラフトストップ
⑤ ロールバー

▶ ロールバースイッチ（2-22）でロールバーが少し上がった状態にします。

▶ ドラフトストップ④を折りたたんだままロールバー⑤に合わせ、矢印の方向にスライドさせます。

このとき、ストラップ②を挟まないように注意してください。

⑥ ガイド部

▶ ロールバー左右のガイド部⑥に、ドラフトストップ④をはめ込みます。

① バックル
② ストラップ
③ フック

▶ ストラップ②をロールバー⑤の下側から通し、フック③をバックル①に差し込みます。

▶ ストラップ②がゆるい場合は、ストラップの下部を引いてからマジックテープでとめて、ストラップを締め付けます。

▶ ロールバースイッチでロールバー⑤を完全に下げます。

▶ ドラフトストップ④の上部を引き起こします。

ドラフトストップを取り外す

▶ ドラフトストップ④の上部を折りたたみます。

▶ ロールバースイッチでロールバー⑤が少し上がった状態にします。

▶ バックル①のボタンを押してストラップ②のフック③を外します。

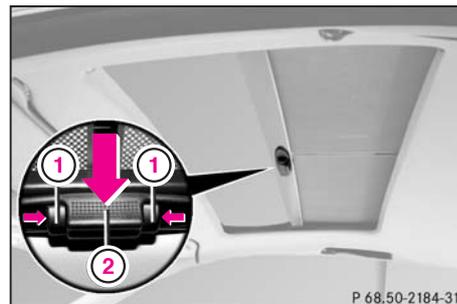
▶ ドラフトストップ④を、装着したときと逆の方向にスライドさせながら、取り外します。

▶ ロールバースイッチでロールバー⑤が完全に上がった状態、あるいは完全に下がった状態にします。

▶ フック③をバックル①に差し込み、ドラフトストップを収納します。

注 意 !

- ヘッドレストは常に適切な位置に調整してください。車が大きく傾いたときなどは自動的にロールバーが立ち上がるため、ヘッドレストが適切な位置に調整されていない場合、ロールバーに装着したドラフトストップによって乗員がけがをするおそれがあります。
- ドラフトストップを装着したときは、必ずロールバーを完全に下げた状態で走行してください。正しい使い方をしていない場合、風圧などでドラフトストップやロールバーを損傷したり、乗員がけがをするおそれがあります。
- ロールバーにドラフトストップ以外のものを装着しないでください。急ブレーキや急ハンドルまたは事故などのとき、装着したものが前方に飛び出して乗員がけがをするおそれがあります。

サンシェード＊

① ボタン
② グリップ

サンシェードを開く

▶ グリップ②の両側のボタン①を押しながら、後方に開きます。

サンシェードを閉じる

▶ グリップ②に手をかけて前方に閉じます。

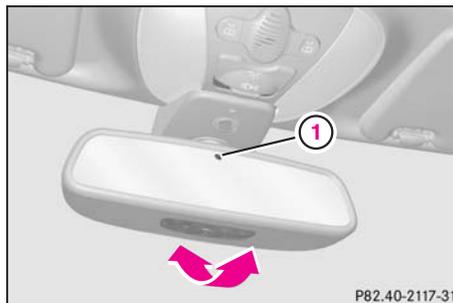
途中の位置で停止することもできます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ルームミラー

警　告

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラーの調整

① センサー

ルームミラーを調整する

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

注　意　！

ルームミラーには死角があります。車線変更をするときは、必ずドアミラーでも後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

ルームミラー

自動防眩機能

周囲が暗く、エンジンスイッチが1か2の位置のとき、ルームミラーのセンサー①が後続車のライトを感知すると、自動的にルームミラーの色の濃度が変わり眩しさを防止します。

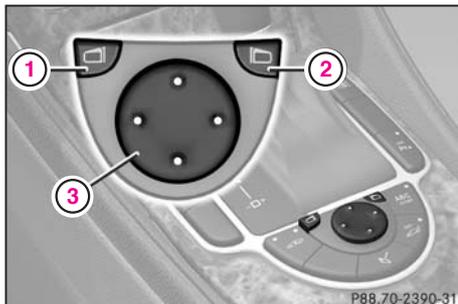
注　意　!

- ルームミラーのガラスが破損すると、液体が漏れ出すことがあります。この液体は物を腐食させる性質がありますので、皮膚や目に直接触れないよう注意してください。
- 万一、液体が目に入ったときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 液体が車の塗装面に付着したときは、ただちに水で湿らせた布などで拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- ドラフトストップ(3-58)を使用しているときなど、ルームミラーのセンサーに後続車のライトが当たらないときは、自動防眩機能が作動しない場合があります。十分注意して走行してください。
- ルームミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用するときは、必ず指定サービス工場にご相談ください。ガラスクリーナーによっては、ルームミラーが変色するおそれがあります。

知　識

- セレクターレバーが R に入っているときやルームランプが点灯しているときは自動防眩機能が解除されます。
- ルームミラーと連動して運転席側のドアミラーも防眩になります。

ドアミラー

角度の調整

① 左側ドアミラー選択ボタン
② 右側ドアミラー選択ボタン
③ 調整スイッチ

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに調整できます。

ドアミラーの角度を調整する

▶ 調整する側のドアミラー選択ボタン①または②を押します。

▶ 調整スイッチ③を操作してドアミラーの角度を調整します。

警　告

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

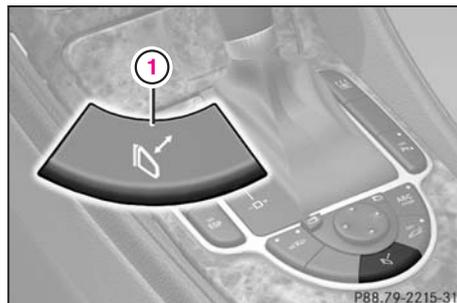
注　意　！

- ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。ドアミラーで後方を確認するときは十分注意してください。
- ドアミラーには死角があります。車線変更をするときは、必ずルームミラーでも後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。
- ドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用するときは、必ず指定サービス工場にご相談ください。ガラスクリーナーによっては、ドアミラーが変色するおそれがあります。

ドアミラー

知　識

- ドアミラーにはヒーターが装着されています。リアデフォッガー（6-14）を作動させたときや、外気温度が下がると自動的に温められ、凍結を防ぎます。
- ドアミラーの角度は、運転席シートやステアリングの位置と併せて記憶させることができます（3-19）。
- 運転席側ドアミラーはルームミラーに連動して防眩になります（3-62）。

ドアミラーの格納 / 展開

① 格納 / 展開スイッチ

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに操作することができます。

ドアミラーを格納する

▶ 格納 / 展開スイッチ①を押します。

ドアミラーを展開する

▶ 再度、格納 / 展開スイッチ①を押します。

注 意 !

- ドアミラーは手で格納したり、展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。
- 走行するときはドアミラーを完全に展開してください。
- ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。
- ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。

知 識

- リモコン操作での施錠時にドアミラーを格納することができます。詳しくは（3-9）をご覧ください。
- 走行速度が約100km/h以上のときは、格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納することはできません。

ドアミラーのリセット

バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、リモコン操作でのドアミラー格納機能が正常に作動しなくなることがあります。

このようなときは、バッテリーの接続後にドアミラーのリセットを行なってください。

ドアミラーをリセットする

▶ エンジンスイッチを**1**の位置にします。

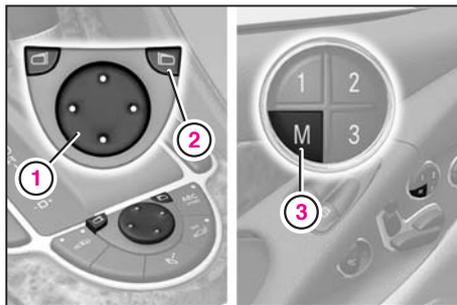
▶ 格納 / 展開スイッチ①を押します。

助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能

助手席側ドアミラーが選択されているときに、セレクターレバーをRに入れると、助手席側ドアミラーが自動的に下向きになり、車両後方下部の視界を確保して後退を容易にすることができます。

エンジンスイッチが**2**の位置のときに作動します。

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- セレクターレバーをRから他の位置に入れて約10秒経過したとき
- 走行速度が約10km/h以上になったとき
- 運転席側ドアミラー選択ボタンを押したとき

左ハンドル車
① 調整スイッチ
② 助手席側ドアミラー選択ボタン
③ メモリースイッチ

ドアミラーの角度を記憶させる

▶ エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択ボタン②を押します。

※右ハンドル車はスイッチ類の配列が異なります。

▶ 調整スイッチ①で、後退時に後方を確認しやすい角度に助手席側ドアミラーを調整します。

▶ 運転席ドアのメモリースイッチ③を押し、約3秒以内に調整スイッチをいずれかの方向に押します。このとき助手席側ドアミラーが動かなければ、そのときの角度に記憶されます。

助手席側ドアミラーが動いたときは最初からやり直してください。

▶ 調整スイッチ①で、走行時の角度に助手席側ドアミラーを調整します。

注　意！

走行する前に、必ずドアミラーの角度を後方が十分確認できるように調整してください。

知　識

助手席側ドアミラーが後退時の角度に自動調整されているときに、助手席側ドアミラーの角度を調整すると、調整した角度が新たに記憶されます。

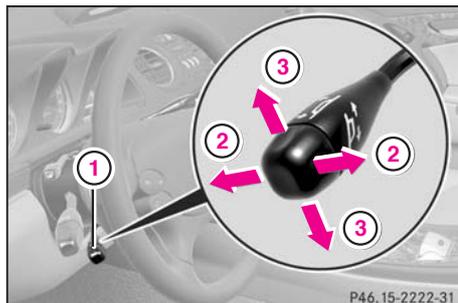
ステアリング

警　告

- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。エンジンスイッチからキーを抜いてあっても、運転席ドアが開いているとステアリング調整レバーを操作することでステアリングが動き出し、ステアリングに挟まれるおそれがあります。
- ステアリングの調整は、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、運転席エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
- ステアリングのパッド部にカバーをしたり、バッジ、ステッカー、オーディオのリモコンなどを貼付しないでください。運転席エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

注　意　!

- ステアリングをいっぱいにまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。
- 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

ステアリング位置の調整

① ステアリング調整レバー
② 前後位置の調整
③ 上下位置の調整

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、または運転席ドアが開いているときにステアリングの位置を調整することができます。

前後位置を調整する

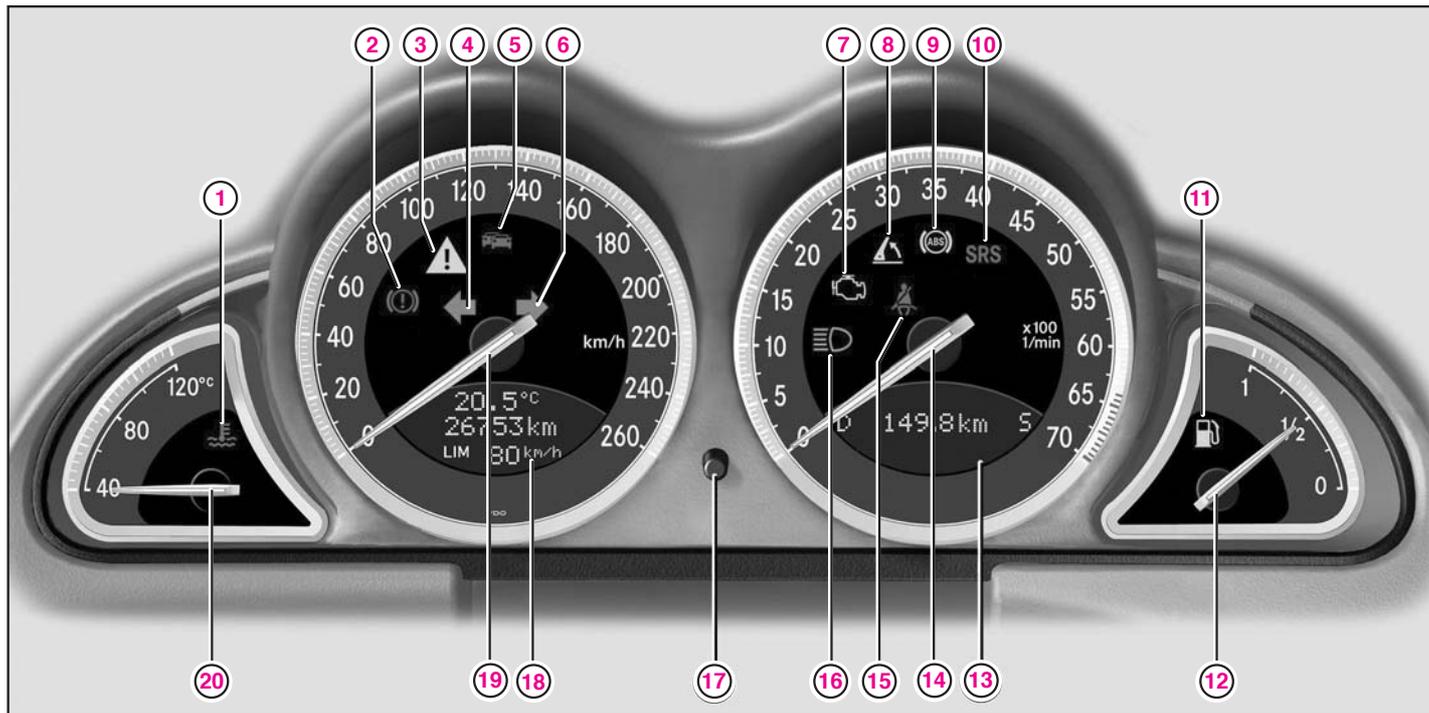
▶ ステアリング調整レバー①を②の方向に操作します。

上下位置を調整する

▶ ステアリング調整レバー①を③の方向に操作します。

知　識

ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶（**3-19**）させることができます。

メーターパネル

SL 350 / SL 550

メーターパネル

	名称	ページ
①	冷却水量・冷却水温度警告灯	3-71
②	ブレーキ警告灯	3-71
③	ABS / ESP表示灯	3-72
④	方向指示表示灯（左）	3-72
⑤	車間距離警告灯＊	3-72
⑥	方向指示表示灯（右）	3-72
⑦	エンジン警告灯	3-73
⑧	ロールバー警告灯	3-73
⑨	ABS警告灯	3-74

	名称	ページ
⑩	SRS エアバッグシステム警告灯	3-74
⑪	燃料残量警告灯	3-75
⑫	燃料計	3-75
⑬	マルチファンクションディスプレイ（右）	3-75
⑭	タコメーター	3-76
⑮	シートベルト警告灯	3-76

	名称	ページ
⑯	ハイビーム表示灯	3-76
⑰	メーター照度調整ノブ / リセットボタン	3-77
⑱	マルチファンクションディスプレイ（左）	3-75
⑲	スピードメーター	3-77
⑳	エンジン冷却水水温計	3-77

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

① 冷却水量・冷却水温度警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると赤色に点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に白色に点灯します。

エンジンがかかっているときに赤色に点灯したときは、冷却水量が減少しているか、冷却システムに異常があります。安全な場所に停車してエンジンを停止し、冷却水が冷えてから、冷却水量を点検してください。

冷却水量が不足しているときは、リザーブタンクに冷却水を補給してください（**8-8**）。

走行中に赤色に点灯し、警告音が鳴ったときは、冷却水温度が約120℃以上になり、オーバーヒートしています。すみやかに安全な場所に停車してエンジンを停止し、エンジンと冷却水を冷やしてください。

詳しくは、オーバーヒートしたとき（**7-21**）をご覧ください。

② ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

以下のようなときに点灯します。

- SBC（**5-39**）に異常があるとき
- ブレーキ液の量が不足しているとき
- パーキングブレーキを解除していないとき

注　意　！

- SBCの異常の場合は、必ずマルチファンクションディスプレイの表示に従ってください。
- ブレーキ液が不足して警告灯が点灯したときはブレーキシステムに漏れがあることが考えられます。安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。
- パーキングブレーキを解除しても警告灯が消灯しないときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

③ ABS / ESP表示灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

ESPの機能を解除したときに点灯します。

また、ABSまたはESPが作動したときに点滅します。

エンジンスイッチを**2**の位置にしても点灯しないときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは（**5-47**）をご覧ください。

知　識

ESPの機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを感知すると、ESP表示灯が点滅しますがESPは作動しません。ただし、このときにブレーキを効かせたときは、ESPは自動的に作動します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

④⑥ 方向指示表示灯

方向指示灯や非常点滅灯を作動させたときに点滅します。

詳しくは **(5-26､27)**をご覧ください。

⑤ 車間距離警告灯＊

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

ディストロニック装備車は、先行車との車間距離が短くなると点灯します。

ディストロニック非装備車は、表示灯 / 警告灯としての機能はありません。

エンジンスイッチを**2**の位置にしても点灯しないときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは（**5-66**）をご覧ください。

⑦ エンジン警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときは、エンジンの制御システムに異常があります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

- エンジン警告灯が点灯するとエンジンがエマージェンシーモードになることがあります。エマージェンシーモードではエンジンの回転数が制限され、アクセルペダルを踏んでもエンジンの回転が上昇しなくなります。この場合、低速で走行できることもありますが、ただちに安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。
- 燃料切れによりエンジン警告灯が点灯したときは、燃料を補給した後にエンジン始動を3～4回繰り返すと、エマージェンシーモードが解除されます。

⑧ ロールバー警告灯

エンジンスイッチを**1**の位置にすると数秒間点灯します。また、**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

数秒後 / エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯または点滅するとき、マルチファンクションディスプレイに "ﾛｰﾙﾊﾞｰ ｱｹﾞﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示されるときは、ロールバーが故障しています。手動でロールバーを上げ、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

ロールバーを手動で上げた状態のときは、ルーフスイッチを操作するとロールバーは自動的に下がり、操作終了時には再び上がります。

⑨ ABS警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときは、ABSに異常があります。通常のブレーキ時の制動能力は確保されますが、ABS、ESP、BASは作動しません。

詳しくは**（5-37）**をご覧ください。

注 意 ！

ABS警告灯が点灯したときはESP、BASも作動を停止します。指定サービス工場で点検を受けてください。

⑩ エアバッグシステム警告灯 SRS

エンジンスイッチを**1**の位置にすると数秒間点灯します。また、**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

数秒後 / エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときは、エアバッグシステムやシートベルトテンショナー、助手席乗員検知機能 / チャイルドセーフティシート検知システムの故障です。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは**（2-10）**をご覧ください。

⑪ 燃料残量警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると黄色に点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に白色に点灯します。

エンジン始動後も黄色に点灯しているとき、またはエンジンがかかっているときに黄色に点灯したときは燃料の残量が少なくなっています。

警告灯が点灯したときの残量は約10リットル（SL 55 AMG / SL 65 AMGは約14リットル）です。

知　識

走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

⑫ 燃料計

燃料の残量を表示します。

燃料タンク容量は約80リットルです。

注　意　！

給油のときはエンジンを停止してください。

⑬⑱ マルチファンクションディスプレイ

各種設定画面や故障 / 警告メッセージなどを表示します。

マルチファンクションディスプレイは以下のときに点灯します。

- 運転席ドアを開いたときや閉じたとき（約30秒後に消灯）
- リセットボタンを押したとき（約30秒後に消灯）
- エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしたとき（エンジンスイッチを**0**の位置にするか、キーを抜いてから、約30秒後に消灯）
- 車外ランプを点灯させたとき（車外ランプが消灯してから約30秒後に消灯）

詳しくは**（4-1～）**をご覧ください。

⑭ タコメーター

1分間あたりのエンジン回転数を表示します。

注　意　！

タコメーターの指針がエンジンの許容回転数を超えて、レッドゾーンに入らないようにしてください。エンジンを損傷するおそれがあります。

環　境

必要以上にエンジン回転数を上げないように走行してください。燃料を不必要に消費し、大気汚染の原因になります。

⑮ シートベルト警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかに指定サービス工場で点検してください。

詳しくは（**2-8**）をご覧ください。

⑯ ハイビーム表示灯

ヘッドランプを上向きで点灯させたときに点灯します。

⑰ メーター照度調節ボタン / リセットボタン

メーター照度調節ボタン

周囲が暗いときに明るさを調整できます。ボタンを時計回りにまわすと明るくなり、反時計回りにまわすと暗くなります。

リセットボタン

トリップメーターや各種設定をリセットするときに使用します。

⑲ スピードメーター

車の走行速度を表示します。

速度の表示単位をマイルに変更することもできますが、マイル表示にするとキロメーター表示に比べ、同じ数字でも約1.6倍の速度になります。速度の出しすぎを防ぐためキロメーター表示にしてください。

表示の切り替えについては**(4-31)**をご覧ください。

知　識

- 1マイルは約1.6km/hです。
- マイル表示を選択すると、マルチファンクションディスプレイの表示もマイル表示になります。

⑳ エンジン冷却水 水温計

エンジンの冷却水温度を表示します。

知　識

- 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約120℃までオーバーヒートを起こしません。
- 暑い日や上り坂が続くときなどに、冷却水温度の表示が120℃付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ**(10-10、15、16)**が表示されない限り、故障ではありません。
- 万一、オーバーヒートが起きたときは、冷却水量・冷却水温度警告灯が赤色に点灯します。

ステアリングスイッチ

	名称
① ②	マルチファンクション ディスプレイ
③	設定スイッチ / 音量スイッチ ＋ − 各種設定の設定グループ選択画面でグループを選択したり、設定項目画面で機能のオン / オフを選択します。 各メイン画面とオーディオ画面表示中に操作すると、音量を調節できます。
④	通話開始 / 終了スイッチ（電話） 電話を受信 / 切断することができます。
⑤	表示切り替えスイッチ メイン画面を選択します。
⑥	スクロールスイッチ 選択したメイン画面内の各画面を切り替えます。

警　告

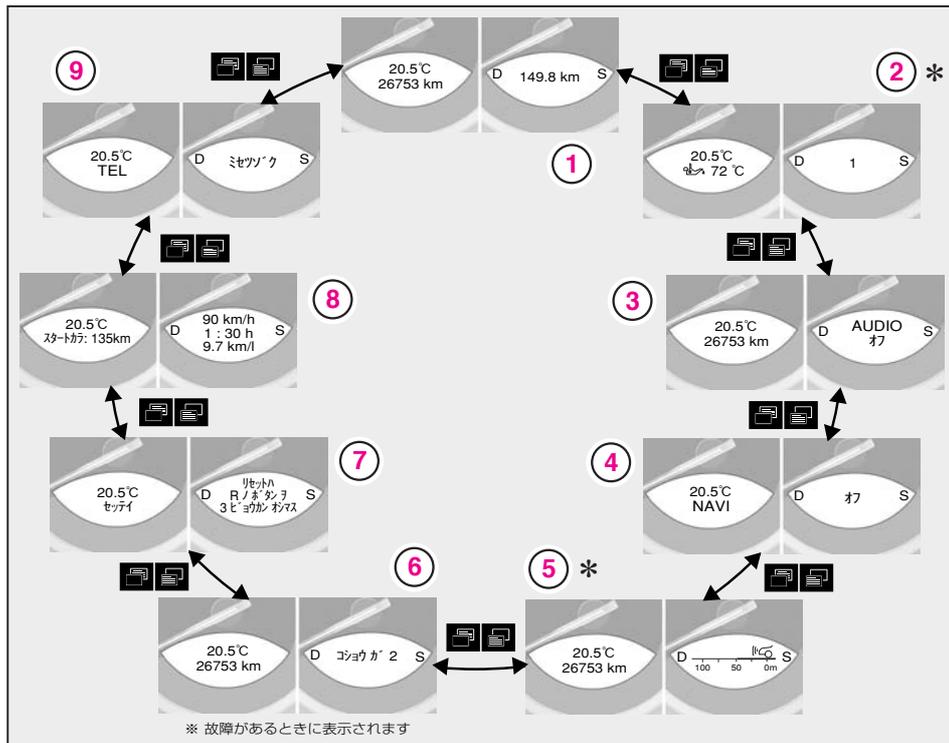
マルチファンクションディスプレイを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。

注　意　！

走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながらスイッチを操作すると、事故を起こすおそれがあります。

※ 電話の操作については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

メイン画面一覧

※ 故障があるときに表示されます

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

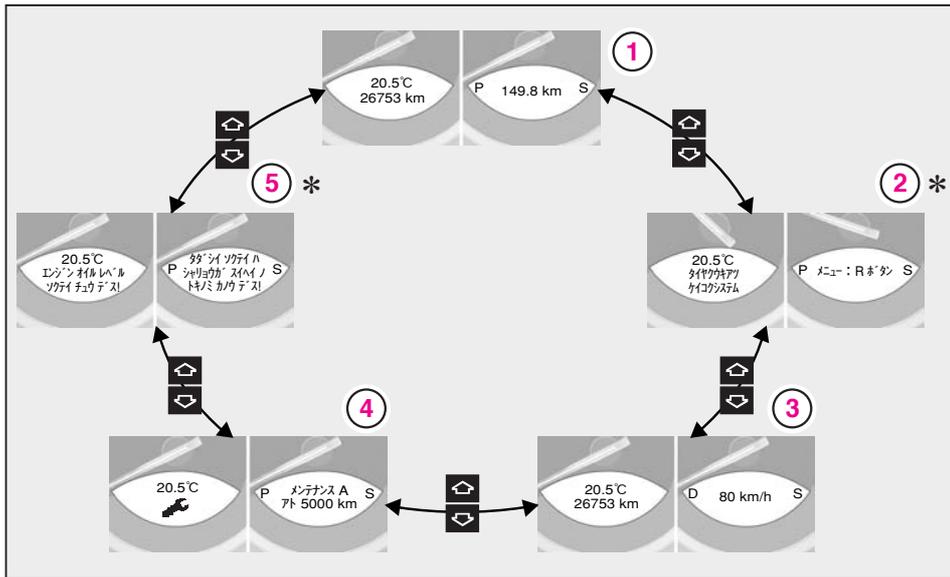
＊オプションまたは仕様により装備が異なります

マルチファンクションディスプレイでは、車の情報や故障の表示および各種の設定をすることができます。

以下のように主要な機能が9種類あります。

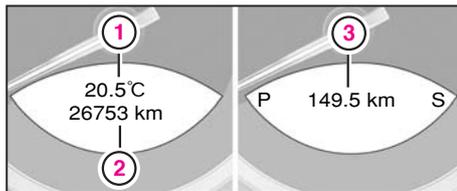
①	車両情報	4-4
②	AMG表示＊	4-15
③	オーディオ	4-23
④	ナビゲーション	4-24
⑤	ディストロニック＊	4-24
⑥	故障表示	4-25
⑦	各種設定	4-27
⑧	トリップコンピューター	4-46
⑨	電話	4-50

車両情報

車両情報

①	車両情報メイン画面	4-5
②	タイヤ空気圧警告システム画面＊	4-6
③	走行速度 / 外気温度表示画面	4-9
④	メンテナンスインジケーター画面	4-10
⑤	エンジンオイル量点検画面＊	4-12

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

車両情報メイン画面（外気温度 / 走行速度表示、オドメーター、トリップメーター ）

① 外気温度 / 走行速度表示
② オドメーター
③ トリップメーター

車両情報メイン画面を表示させる

▶ またはを押して、車両情報メイン画面を表示させます。

外気温度 / 走行速度表示

外気温度または走行速度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の "メータークラスタ" の "車両情報メイン画面の表示設定画面"**（4-32）**で行ないます。

オドメーター

これまでに走行した距離の総合計を表示します。

トリップメーター

リセット後の走行距離を表示します。

トリップメーターをリセットする（0.0に戻す）

▶ リセットボタン**（3-77）**を、表示が0.0になるまで押し続けます。

警　告

温度表示が0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

注　意　！

外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

知　識

温度をフロントバンパー付近で測定しているため、温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

タイヤ空気圧警告システム画面＊

4輪すべてのタイヤの回転速度をモニターし、タイヤ空気圧が低下することにより他のタイヤとの回転速度に差が生じると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況のときは作動しません。

- カーブを曲がっているとき
- 加速または減速をしているとき
- 砂地や舗装されていない地面などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 積雪路や凍結路などを走行しているとき
- スノーチェーンを装着しているとき
- 重い荷物を積んでいるとき

上記に該当しない条件で約20km/h以上の速度で数分間走行した後、異常が検知されると警告が行なわれます。

警　告

- 空気の入れすぎなど、まちがったタイヤ空気圧の調整に対しては警告が行なわれません。燃料給油フラップの裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照し、必ず規定の空気圧に調整してください。
- タイヤ空気圧警告システムは、4本のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。
- 突然の空気圧低下（タイヤに異物が貫通した場合など）に対しては警告を行なうことができません。このときは、急ブレーキや急ハンドルを避け、しっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊車種や仕様により装備が異なります

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- タイヤやホイールを交換したとき
- 新しいタイヤやホイールを装着したとき

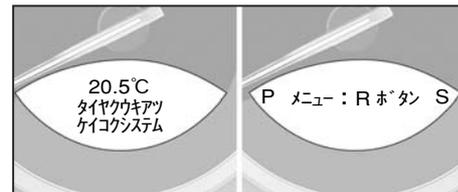
▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップの裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベル（8-18）を参照して、すべてのタイヤが、適正な空気圧に調整されていることを確認してください。

警　告

タイヤ空気圧警告システムは、タイヤ空気圧が適正に調整されていないときは、正常に作動しません。

▶ エンジンスイッチを2の位置にします。

知　識

マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝﾃﾞ ｼﾖｳｶﾉｳ" と表示されたときは、エンジンスイッチを2の位置にしてください。

▶ またはを押して、車両情報メイン画面を表示させます（4-5）。

▶ またはを押して、タイヤ空気圧警告システム画面を表示させます。

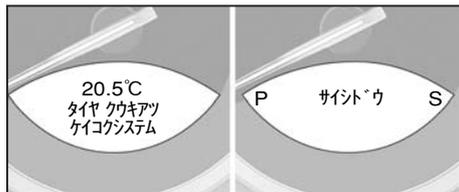
"ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ﾒﾆｭｰ：R ﾎﾞﾀﾝ" と表示されます。

▶ リセットボタンを押します。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両情報

マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ?" と表示されます。

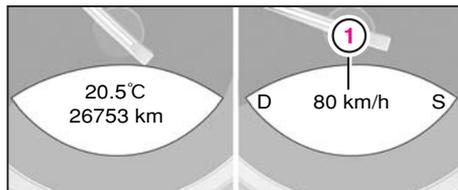
▶ ＋ を押して、"ﾊｲ" を反転表示にします。

マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ" と表示されます。

数秒後に、タイヤ空気圧警告システムが作動を始めます。

知　識

マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ?" と表示されてから、＋ を押さずに約15秒間経過すると、再起動は中断されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行速度 / 外気温度表示画面

① 走行速度 / 外気温度表示

走行速度 / 外気温度表示①は、走行速度または外気温度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の "メータークラスタ" の "車両情報メイン画面の表示設定画面"**(4-32)**で行ないます。

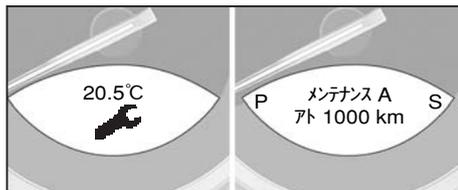
走行速度 / 外気温度表示画面を表示させる

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、車両情報メイン画面を表示させます**(4-5)**。

▶ [▲]または[▼]を押して、走行速度 / 外気温度表示画面を表示させます。

知 識

- 走行速度の表示単位をkm/hまたはmphに切り替えることができます**(4-31)**。
- 車両情報メイン画面の表示**(4-32)**を走行速度に切り替えると、外気温度は右画面に表示されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メンテナンスインジケーター画面

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備の約10日前か約1,000km前になると、エンジンスイッチを**2**の位置にしたときや走行中に、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。

画面は数秒後に表示前の画面に戻ります。

表示中に画面を戻すときは、リセットボタンを押します。

メンテナンスインジケーター画面は、手動でも表示できます。

手動で表示させる

▶ エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にします。

▶ またはを押して、車両情報メイン画面を表示させます（4-5）。

▶ またはを押して、メンテナンスインジケーター画面を表示させます。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。

点検実施前の表示例

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ｱﾄ XX ﾆﾁ"

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ｱﾄ XX ﾆﾁ"

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ｱﾄ XX km"

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ｱﾄ XX km"

点検実施時期になったときの表示例

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ｦ ｳｹﾃｸﾀﾞｻｲ!"

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ｦ ｳｹﾃｸﾀﾞｻｲ!"

点検実施時期を過ぎたときの表示例

実施時期を過ぎたときは、以下のようなメッセージが表示され、警告音が鳴ります。

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A XX ﾆﾁ ｺｴﾃｲﾏｽ"

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B XX ﾆﾁ ｺｴﾃｲﾏｽ"

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A XX km ｺｴﾃｲﾏｽ"

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B XX km ｺｴﾃｲﾏｽ"

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

注 意 !

- メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。
- メーカー指定点検整備を期限までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

知 識

- "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A" "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B" は、次回のメーカー指定点検整備の内容を示すもので、どちらが表示されるかは日頃の運転スタイルや走行距離などにより異なります。詳しくは整備手帳をご覧ください。
- メンテナンスインジケーターが自動的に表示される時期は、運転スタイルや走行距離などにより異なります。

  エンジン回転数を適度に保ち、短距離短時間の運転を避けると、次のメーカー指定点検整備の実施時期までの走行距離が伸びることがあります。
- バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

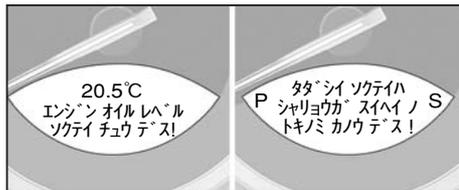
メーカー指定点検整備後に、指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では15,000km、日数では365日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

注 意 !

メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

エンジンオイル量点検画面＊

エンジンオイルの量を点検し、表示します。

注 意 ！

運転前に必ずエンジンオイル量を点検してください。

※ SL 350、SL 550は、エンジンオイルレベルゲージ（8-10）でエンジンオイル量を点検してください。

エンジンオイル量の点検

▶ 安全で水平な場所に停車します。

▶ エンジンを始動して、エンジンオイルを温めます。

▶ エンジンを停止して、約5分間待ちます。

▶ エンジンスイッチを2の位置にします。

▶ または を押して、車両情報メイン画面を表示させます（4-5）。

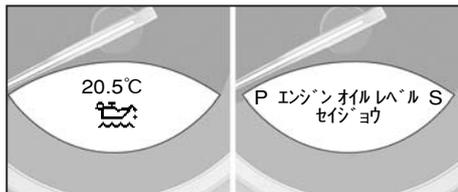
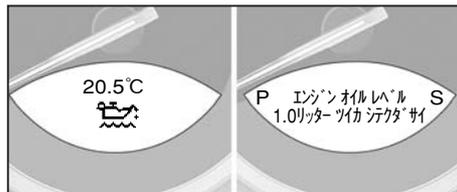
▶ または を押して、エンジンオイル量点検画面を表示させます。

"ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｿｸﾃｲ ﾁｭｳ ﾃﾞｽ! ﾀﾀﾞｼｲ ｿｸﾃｲﾊ ｼｬﾘｮｳｶﾞ ｽｲﾍｲ ﾉ ﾄｷﾉﾐ ｶﾉｳ ﾃﾞｽ!" と表示され、数秒後に以下のいずれかの点検結果が表示されます。

知 識

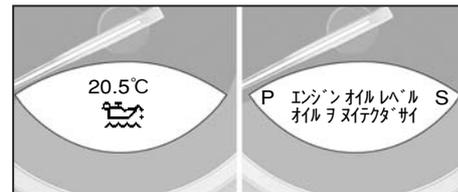
エンジンを停止してからの待ち時間が足りないときは、マルチファンクションディスプレイに "ﾏﾁｼﾞｶﾝ ｦ ﾏﾓｯﾃ ｸﾀﾞｻｲ" と表示されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊車種や仕様により装備が異なります

このときは、エンジンオイル量は適正です。

このときは、エンジンオイル量が不足しています。

表示される数値に従ってエンジンオイルを補給してください。

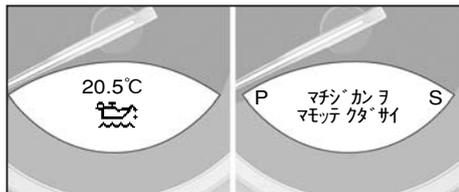
知　識

- 補給するエンジンオイル量に応じて、表示される数値が変わります。
- エンジンオイルの補給については（8-11）をご覧ください。

このときは、エンジンオイル量が多すぎます。

走行しないで、エンジンオイルの量を適正にしてください。

注　意　！

エンジンオイル量が多すぎると、エンジンや触媒を損傷するおそれがあります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

このときは、エンジンオイルレベルが安定していません。

約5分ほど待ってから点検をやり直してください。

再度マルチファンクションディスプレイに "ﾏﾁｼﾞｶﾝ ｦ ﾏﾓｯﾃ ｸﾀﾞｻｲ" と表示されたときは、約30分ほど待ってから点検をやり直してください。

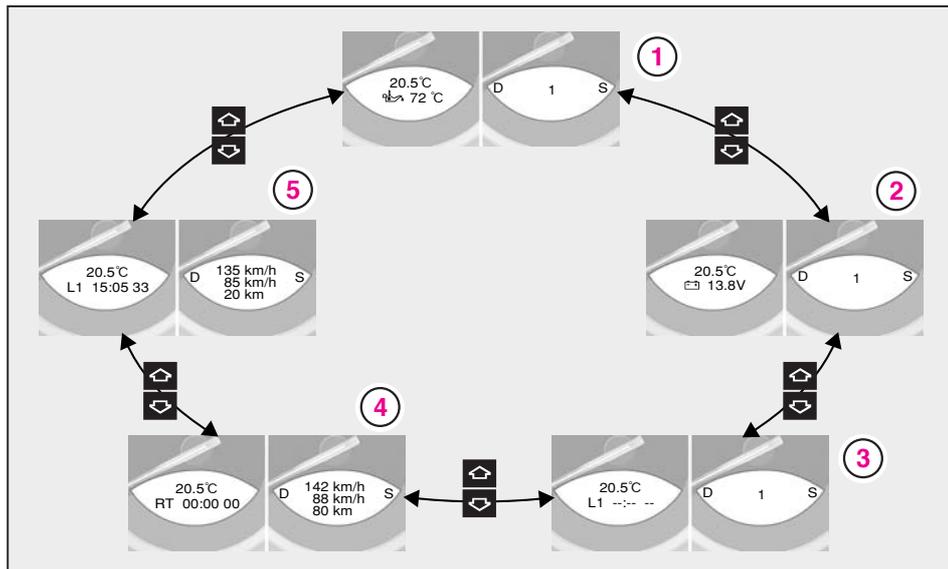
注 意 !

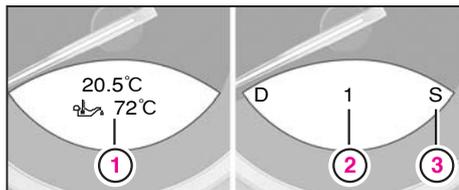
エンジンがかかっているときに、マルチファンクションディスプレイにエンジンオイルに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-17、18）をご覧ください。

知 識

- マルチファンクションディスプレイに "ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｿｸﾃｲ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝ!" と表示されたときは、エンジンスイッチを2の位置にしてください。
- エンジンがかかっているときは、エンジンオイル量を点検できません。マルチファンクションディスプレイに "ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｴﾝｼﾞﾝ ﾃｲｼﾁｭｳ ﾉﾐ!" と表示されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

AMG表示＊

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

油温表示・ギア表示画面

① 油温表示
② ギア表示
③ 走行モード表示

油温表示・ギア表示画面を表示させる

▶ または を押して、油温表示・ギア表示画面を表示させます。

油温表示①は、エンジンオイルの油温を表示します。

注 意 !

油温表示のマークが点滅しているときは、エンジンオイルが温まっていません（油温が約80℃未満になっています）。このときは必要以上にエンジン回転数を上げないように運転してください。

知 識

- エンジンスイッチを**1**の位置から**2**の位置にしたとき、油温表示画面が実際と異なる油温を瞬間的に表示することがありますが、異常ではありません。
- エンジンスイッチが**1**の位置のときは、油温は表示されません。このときは "---℃" が表示されます。

ギア表示②は、トランスミッションの実際のギア位置を表示します。

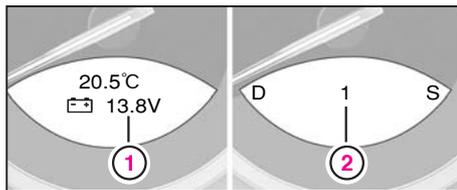
知 識

マニュアルギアシフトを選択してアクセルペダルを踏み込んでいるとき、エンジン回転数が上昇して、シフトアップするタイミングになると、マルチファンクションディスプレイの表示が赤くなり、"up" がギア表示②の右側に表示されます。

また、シフトアップマーク "へ" が走行モード表示③の代わりに表示されます。

※仕様により、マルチファンクションディスプレイのシフトアップマークの表示（**5-15**）とAMG画面の赤い表示は交互に表示されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

電圧表示・ギア表示画面

① 電圧表示
② ギア表示

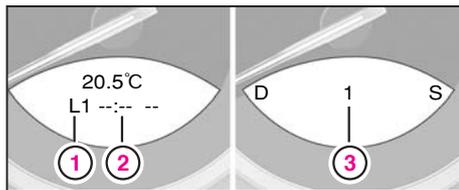
電圧表示①は、バッテリーの電圧を表示します。

ギア表示②は、トランスミッションの実際のギア位置を表示します。

電圧表示・ギア表示画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、油温表示・ギア表示画面を表示させせます(4-16)。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、電圧表示・ギア表示画面を表示させせます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

レースタイマー画面

① ラップ表示
② 計測タイム
③ ギア表示

レースタイマー画面では、サーキットコースなどで周回ごとのラップタイムを計測・記録したり、その結果を一覧表示することができます。

エンジンスイッチが**2**の位置のとき、またはエンジンがかかっているときに使用できます。

レースタイマー画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、油温表示・ギア表示画面を表示させます**(4-16)**。

▶ [▲] または [▼] を押して、レースタイマー画面を表示させます。

知 識

- レースタイマー画面では、計測タイムを1秒単位で表示します。
- レースタイマー画面を表示させているときは、[+] または [−] を押してオーディオなどの音量を調節することはできません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

タイム計測を開始する

▶ ＋を押します。

タイム計測が開始されます。

タイム計測を停止する

▶ タイム計測中に＋を押します。

タイム計測が停止します。

知　識

- タイム計測を停止しているときに＋を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。
- タイム計測中に、停車してエンジンスイッチを**1**の位置にすると、タイム計測が停止します。

  その後、エンジンスイッチを**2**の位置にするかエンジンを始動して＋を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

スプリットタイムを表示する

▶ タイム計測中に－を押します。

スプリットタイムが約5秒間表示されます。

約5秒経過後に、タイム計測の表示に戻ります。

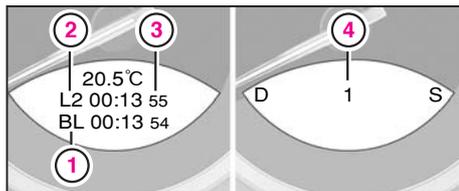
知　識

スプリットタイムを表示しているときに再度－を押すと、スプリットタイムがラップタイムとして記録されます（**4-20**）。

計測したタイムを消去する

▶ タイム計測が停止しているときに－を押します。

計測タイムが消去され、表示が00:00₀₀に戻ります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ラップタイムを記録する

① 最速ラップタイム
② ラップ数
③ 計測タイム
④ ギア表示

最大9件までの計測タイムをラップタイムとして記録することができます。

▶ タイム計測中に ー を押します。

スプリットタイムが約5秒間表示されます。

▶ スプリットタイムが表示されている間に、再度 ー を押します。

スプリットタイムがラップタイムとして記録され、次のラップのタイムが表示されます。

知　識

- ラップタイムが記録されているときは、計測タイム③の下に最速ラップタイム①が表示されます。
- ラップタイムが9件記録されると、それ以上計測ができなくなります。新たにタイム計測を行なうときは、記録したラップタイムを消去してください。

記録したラップタイムを消去する

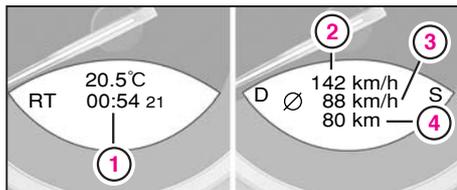
▶ タイム計測が停止しているときに、リセットボタン（3-77）を2回押します。

記録したラップタイムが消去され、表示が00:00₀₀に戻ります。

知　識

- 記録したラップタイムを個別に消去することはできません。
- エンジンスイッチを**0**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約30秒経過すると、計測タイムとラップタイムは消去されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

全ラップの計測結果を確認する

計測結果表示画面（全ラップ）

① 合計時間
② 計測した全ラップでの最高速度
③ 計測した全ラップの平均速度
④ 計測した全ラップの総走行距離

2周以上のラップタイムが記録されているときは、タイム計測後に計測結果を表示できます。

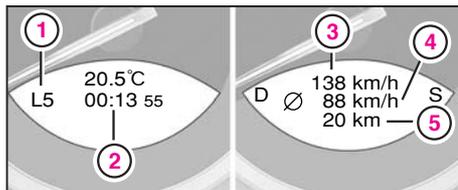
計測結果表示画面（全ラップ）を表示させる

▶ または を押して、油温表示・ギア表示画面を表示させます(4-16)。

▶ または を押して、計測結果表示画面（全ラップ）を表示させます。

知 識

タイムを計測しているときは、全ラップの計測結果は確認できません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ラップごとの計測結果を確認する

計測結果表示画面（ラップ別）

① ラップ表示
② ラップタイム
③ 表示されているラップでの最高速度
④ 表示されているラップの平均速度
⑤ 表示されているラップの走行距離

ラップタイムが記録されているときは、ラップごとの計測結果を表示することができます。

計測結果表示画面（ラップ別）を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、油温表示・ギア表示画面を表示させます (4-16)。

▶ [ボタン] を押して、計測結果表示画面を表示させます。

知　識

2周以上のラップタイムが記録されているときは、全ラップの走行結果表示画面が表示されます。

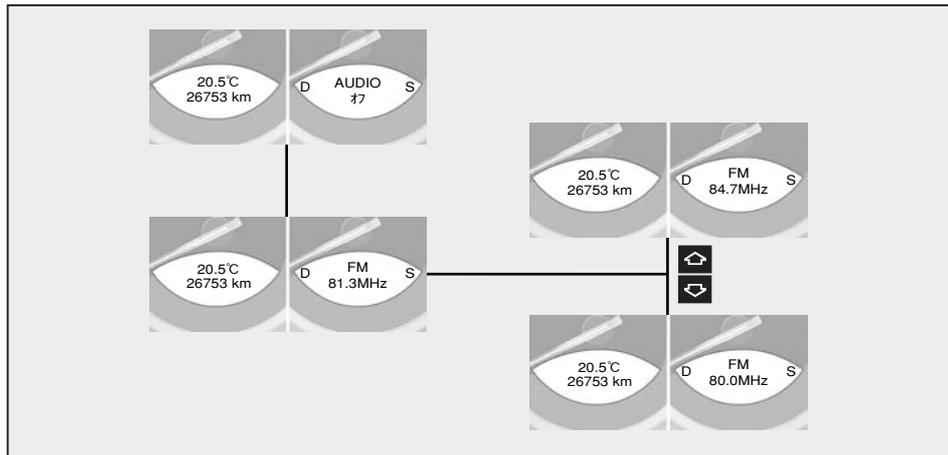
▶ [ボタン] を再度押して、表示させたいラップの計測結果表示画面を選択します。

知　識

- 表示されているラップが最速ラップのときは、ラップ表示①が点滅します。
- タイムを計測しているときは、ラップごとの計測結果は確認できません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

オーディオ

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

オーディオ（ラジオ、ＣＤなど）の使用時にそれぞれの情報を表示します。

オーディオのメイン画面を表示させる

▶ またはを押して、オーディオのメイン画面を表示させます。

オーディオのメイン画面表示中に、またはを押すと、ラジオの選局やCDの選曲などができます。

知　識

ラジオの選局方法を、受信周波数またはプリセット番号順に設定することができます（4-42）。

音量調節

▶ ＋または－を押すと、音量を調節できます。

詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

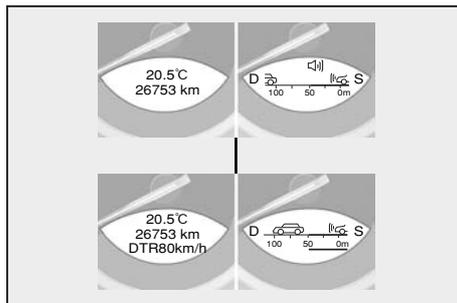
ナビゲーション

マルチファンクションコントローラーのナビゲーション機能で目的地を設定したときに、ルート案内をマルチファンクションディスプレイに表示できます。

ナビゲーションのメイン画面を表示させる

▶ または を押して、ナビゲーションのメイン画面を表示させます。

詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

ディストロニック＊

ディストロニックの設定や作動の確認をすることができます。

車間距離表示画面を表示させる

▶ または を押して、車間距離表示画面を表示させます。

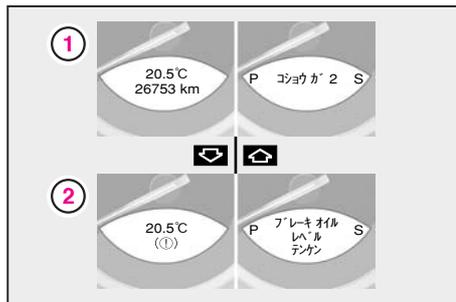
詳しくは(5-59)をご覧ください。

知 識

車間距離表示画面は、ディストロニックを解除しているときも表示させることができます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

故障表示

故障表示画面

①	故障件数画面 （この例では、2件故障があります）
②	故障メッセージ画面の例

故障や異常が起きたとき、車の状況をメッセージで表示します。

知　識

故障がないときは、故障表示画面は表示されません。

自動表示機能

エンジンがかかっているときに故障が起きたときは、故障メッセージ画面が自動的に表示されます。

⇧または⇩を押すと、故障メッセージの表示が消えます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

故障メッセージを手動で確認する

エンジンスイッチが1か2の位置のときに表示されます。

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、故障件数画面①を表示させます。

故障件数が数字で表示されます。

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、故障メッセージ画面②を順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面①に戻ります。

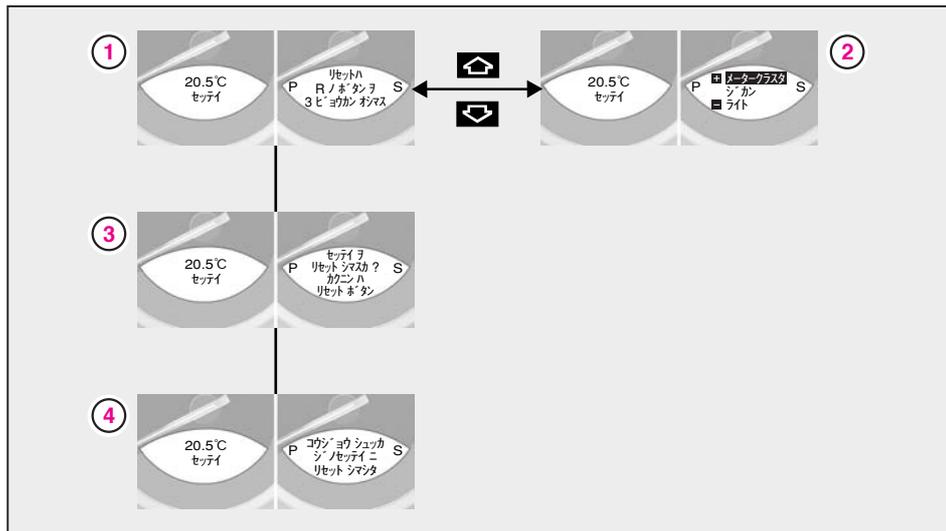
故障表示のリセット

マルチファンクションディスプレイに故障メッセージが表示されているときは、エンジンスイッチを0の位置にすると、故障メッセージの表示が消えます。

ただし、故障状況が変わらない場合は、次にエンジンスイッチを1か2の位置にするか、エンジンを始動したとき、再び故障メッセージが表示されます。

注 意 !

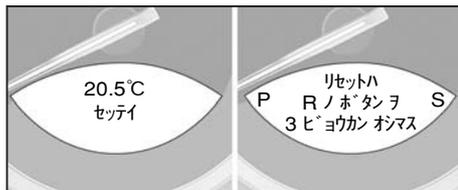
- 表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や異常の表示は運転者を支援するものです。発生した故障に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。
- 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。
- 表示される故障 / 警告メッセージについては（10-2～）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定

①	各種設定メイン画面	4-28
②	設定グループ選択画面	4-28
③	各種設定項目の初期化画面	4-29
④	各種設定項目の初期化完了画面	4-29

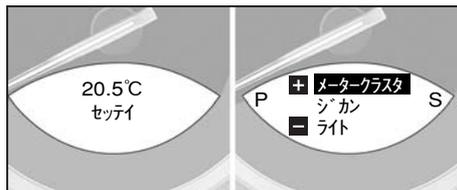
注　意　！

走行中でも設定を変更することができますが、安全のため、必ず停車中に操作してください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定メイン画面

各種設定メイン画面を表示させる

▶ または を押して、各種設定メイン画面を表示させます。

設定グループ選択画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ 各種設定メイン画面表示中に を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

▶ ＋ または － を押して、設定グループを選択します。

▶ 選択したグループ名を確認して、 を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

設定項目画面を選択する

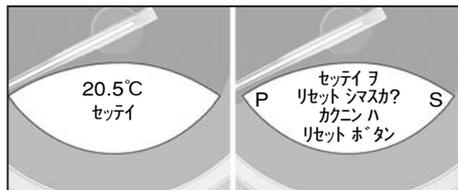
選択した設定項目画面の数値や設定を変更できます。

▶ または を押して、設定項目画面を選択します。

▶ ＋ または － を押して、設定項目を選択したり、機能のオン / オフを選択します。

選択した設定が記憶されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

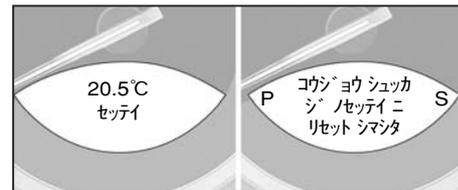
各種設定項目の初期化

初期化画面

各グループ内のすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する（戻す）ことができます。

各種設定項目を初期化する

▶ ▭または▭を押して、各種設定メイン画面を表示させます（4-28）。

▶ リセットボタン（3-77）を約3秒間押し続けます。

左記の初期化画面が約5秒間表示されます。

初期化完了画面

▶ 初期化画面が表示されている間に、再度リセットボタンを押します。

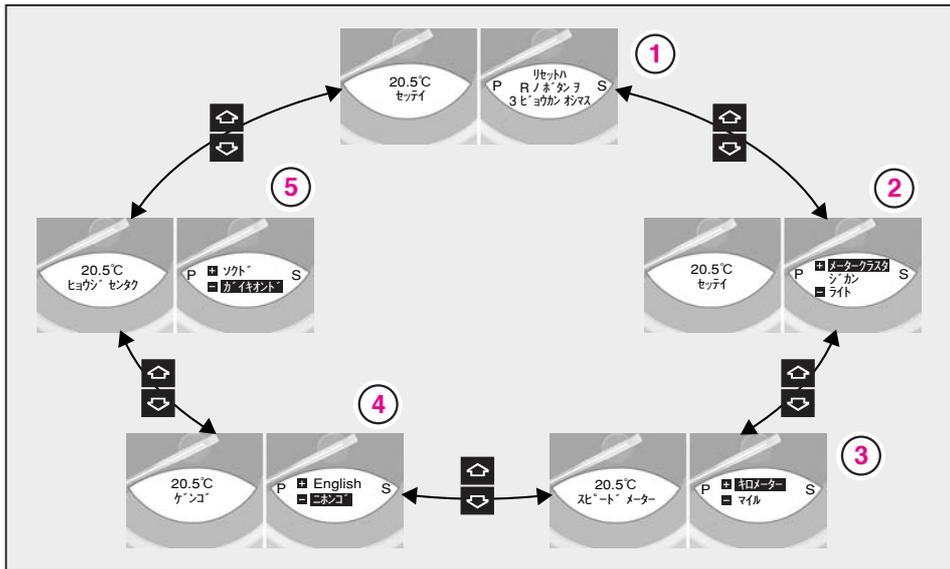
初期化が実行され、上記の初期化完了画面が表示されます。

知　識

- 初期化画面が表示されてから約5秒間リセットボタンを押さずにいると、各種設定メイン画面に切り替わります。
- 各種設定項目を初期化すると、設定グループ選択画面が表示されます。
- 走行中に初期化を行なったときは、安全のため、初期化されない項目があります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定

メータークラスタ

①	各種設定メイン画面	4-28
②	設定グループ選択画面	4-28
③	速度・距離単位設定画面	4-31
④	ディスプレイ言語設定画面	4-32
⑤	車両情報メイン画面の表示設定画面	4-32

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [icon]または[icon]を押して、各種設定メイン画面①を表示させせます（4-28）。

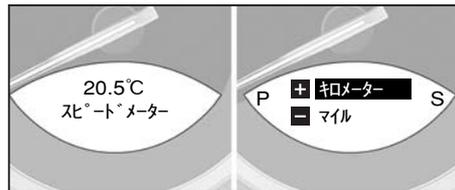
▶ [icon]を押して、設定グループ選択画面②を表示させせます。

設定グループを選択する

▶ ＋または－を押して、"メータークラスタ" を選択します。

▶ [icon]を押します。

メータークラスタの最初の設定項目画面が表示されます。

速度・距離単位設定画面

スピードメーターの単位と、マルチファンクションディスプレイの速度と走行距離の表示単位の設定ができます。

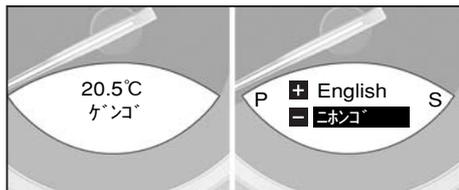
▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｷﾛﾒｰﾀｰ	表示がkm/h、kmになります。
ﾏｲﾙ	表示がmph、ﾏｲﾙ/Miになります。

注　意　！

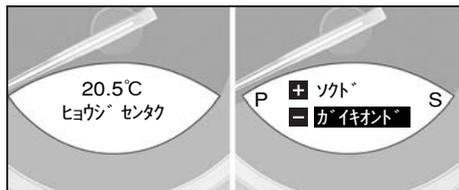
1マイル（mph）は約1.6km/hです。スピードメーターとマルチファンクションディスプレイの表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ずキロメーター表示を選択してください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ディスプレイ言語設定画面

ディスプレイに表示する言語の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

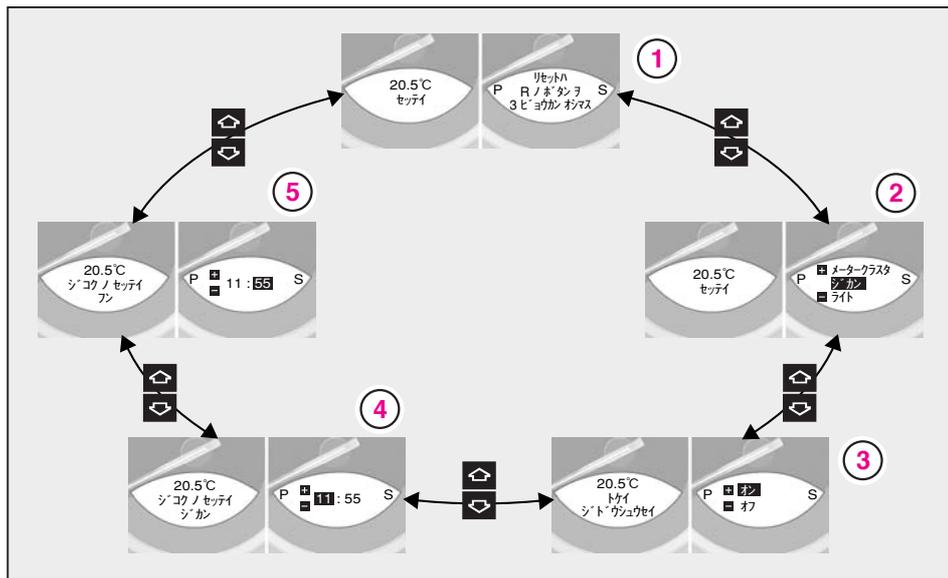
表示	設定内容
English	英語表示になります。
ﾆﾎﾝｺﾞ	日本語表示になります。

車両情報メイン画面の表示設定画面

車両情報メイン画面（4-5）に表示される項目の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｿｸﾄﾞ	マルチファンクションディスプレイ左上の表示が走行速度になります。
ｶﾞｲｷｵﾝﾄﾞ	マルチファンクションディスプレイ左上の表示が外気温度になります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ジカン

①	各種設定メイン画面	4-28
②	設定グループ選択画面	4-28
③	時刻の設定方法選択画面	4-34
④	時刻の設定画面（時）	4-35
⑤	時刻の設定画面（分）	4-35

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ ▭または▭を押して、各種設定メイン画面①を表示させせます（4-28)。

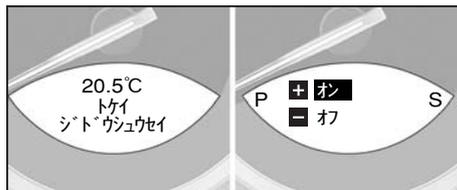
▶ ⌂を押して、設定グループ選択画面②を表示させせます。

設定グループを選択する

▶ ＋または－を押して、"ジカン"を選択します。

▶ ⌂を押します。

ジカンの最初の設定項目画面が表示されます。

時刻の設定方法選択画面

ダッシュボード中央の時計の時刻をマルチファンクションコントローラーの時刻に連動させることができます。

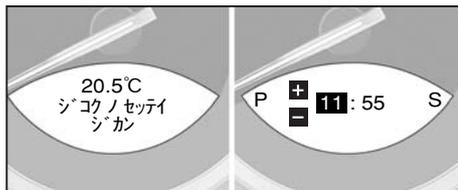
▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｵﾝ	ダッシュボード中央の時計の時刻がマルチファンクションコントローラーの時刻に連動します。
ｵﾌ	ダッシュボード中央の時計の時刻を手動で設定します（画面④～⑤）。

知　識

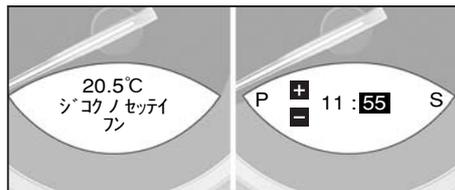
ｵﾝを選択した場合、画面④～⑤は表示されません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

時刻の設定画面（時）

ダッシュボード中央の時計の「時」を設定します。

▶ ＋または－を押して、反転部分の数字を修正します。

続けて「分」を設定するときは、⇧を押します。

時刻の設定画面（分）

ダッシュボード中央の時計の「分」を設定します。

▶ ＋または－を押して、反転部分の数字を修正します。

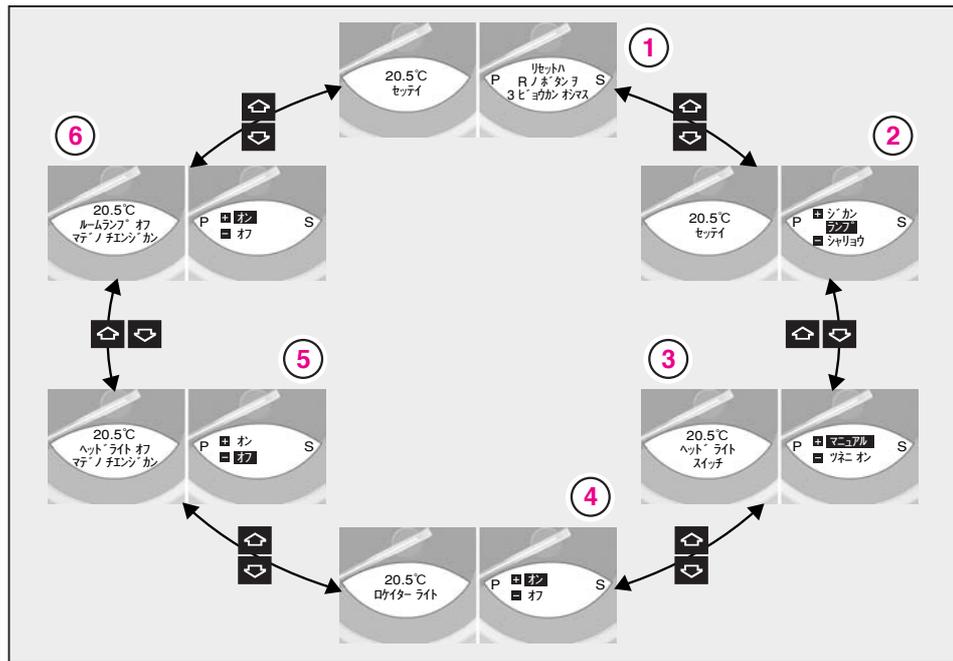
続けて「時」を設定するときは、⇩を押します。

知　識

- マルチファンクションディスプレイに表示される時刻は、ダッシュボード中央の時計の時刻です。
- 各種設定項目を初期化しても、時刻は工場出荷時の設定になりません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定

ランプ

①	各種設定メイン画面	4-28
②	設定グループ選択画面	4-28
③	ヘッドランプ点灯モード設定画面	4-37
④	ロケイターライティング設定画面	4-38
⑤	車外ランプ消灯遅延機能設定画面	4-39
⑥	ルームランプ消灯遅延機能設定画面	4-39

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
※車種や仕様により、"ランプ" の表示が "ライト" と表示されます。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [アイコン]または[アイコン]を押して、各種設定メイン画面①を表示させせます（4-28）。

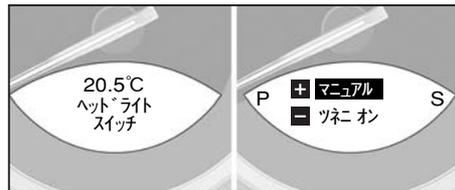
▶ [アイコン]を押して、設定グループ選択画面②を表示させせます。

設定グループを選択する

▶ ＋または－を押して、"ランプ"を選択します。

▶ [アイコン]を押します。

ランプの最初の設定項目画面が表示されます。

ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードの設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ﾏﾆｭｱﾙ	手動点灯モードです。 ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。 日本ではこのモードに設定してください。
ﾂﾈﾆ ｵﾝ	常時点灯モードです。 エンジンを始動すると、ヘッドランプなどが常に点灯します。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
※車種や仕様により、"ランプ" の表示が "ライト" と表示されます。

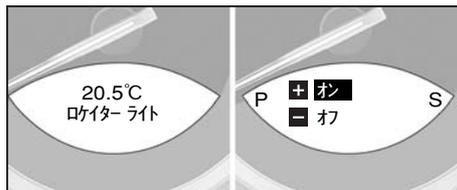
注　意　！

設定が常時点灯モードのときは、安全のため走行中に設定を変更することはできません。

このときは、マルチファンクションディスプレイに "ｾｯﾃｲ ﾊ ﾃｲｼﾞﾁｭｳ ﾉ ﾐ ｶﾉｳﾃﾞｽ" と表示されます。

知　識

- 常時点灯モードは、走行中の常時点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定して使用してください。
- 常時点灯モードで自動的に点灯するランプは、ヘッドランプ、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプです。その他のランプを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

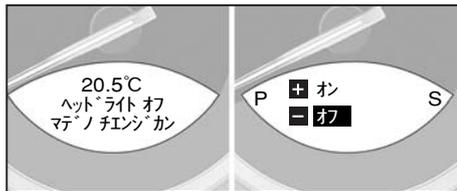
ロケイターライティング設定画面

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｵﾝ	周囲が暗いときに、リモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。
ｵﾌ	ロケイターライティングは作動しません。

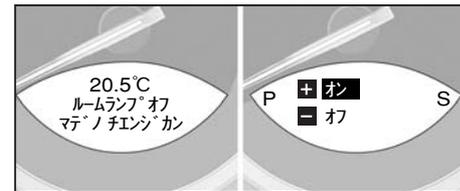
詳しくは（3-9）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車外ランプ消灯遅延機能設定画面

周囲が暗いときにエンジンを停止すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやトランクを開いて閉じた後、約15秒後に消灯します。
オフ	車外ランプ消灯遅延機能は作動しません。

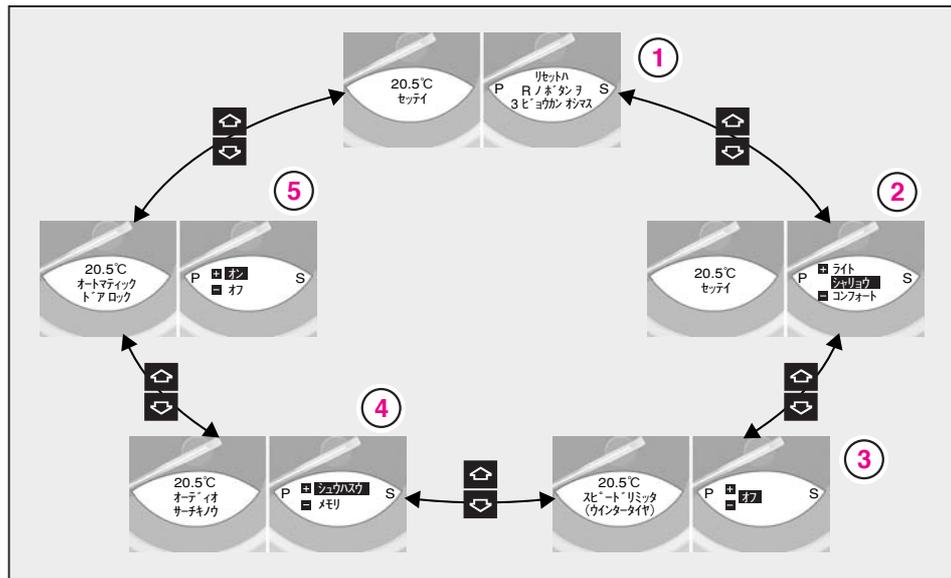
詳しくは（5-25）をご覧ください。

ルームランプ消灯遅延機能設定画面

ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが約10秒間点灯します。
オフ	ルームランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（6-16）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定

シャリョウ

①	各種設定メイン画面	4-28
②	設定グループ選択画面	4-28
③	スノータイヤスピードリミッター設定画面	4-41
④	ラジオの選局方法設定画面	4-42
⑤	車速感応ドアロック設定画面	4-42

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、各種設定メイン画面①を表示させせます（4-28）。

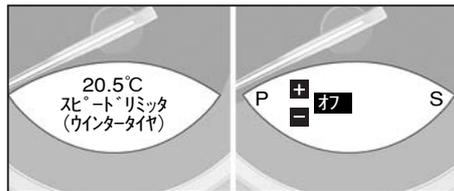
▶ [ボタン]を押して、設定グループ選択画面②を表示させせます。

設定グループを選択する

▶ [+]または[−]を押して、"シャリョウ" を選択します。

▶ [ボタン]を押します。

シャリョウの最初の設定項目画面が表示されます。

スノータイヤスピードリミッター設定画面

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

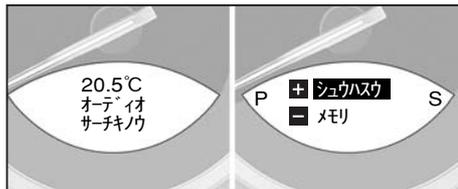
日本仕様でも設定はできますが、法定速度を守って走行してください。

▶ [+]または[−]を押して、設定内容を選択します。

表示	設定内容
ｵﾌ	スノータイヤスピードリミッターは作動しません。
240km/h 230km/h 220km/h 210km/h 200km/h 190km/h 180km/h 170km/h 160km/h	最高速度がそれぞれの速度に設定されます。

知　識

スノータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッター（5-70）で設定できる制限速度は、スノータイヤスピードリミッターの設定速度が上限となります。

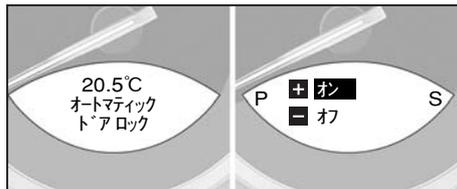
※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ラジオの選局方法設定画面

ラジオの選局方法（受信周波数 / プリセット番号順）の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
シュウハスウ	放送局の受信周波数によって順次選局します。
メモリ	プリセットされた放送局を番号順に選局します。

詳しくは（**4-23**）をご覧ください。

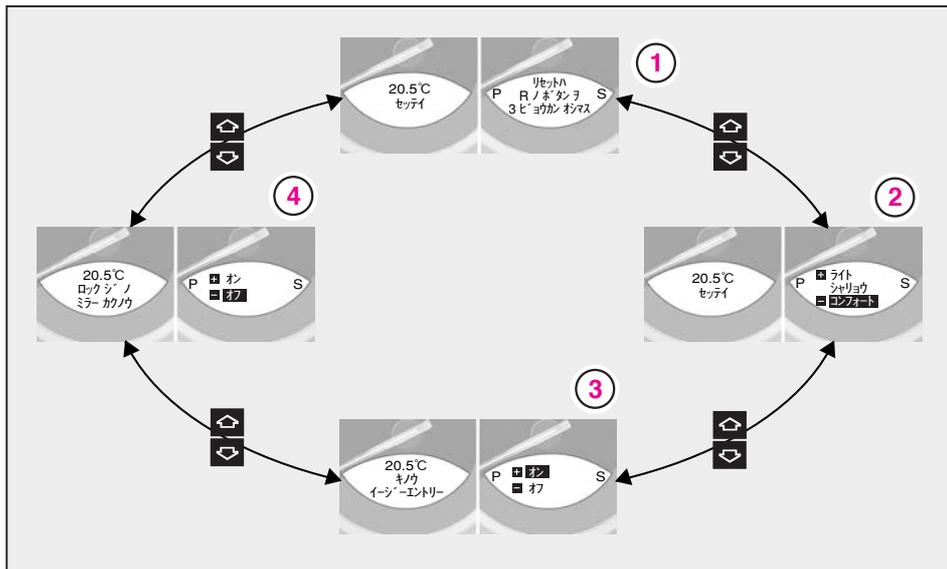
車速感応ドアロック設定画面

走行速度が約15km/h以上になったときに、ドアとトランクを自動的に施錠する機能の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	車速感応ドアロックが作動します。
オフ	車速感応ドアロックは作動しません。

詳しくは（**3-30**）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

コンフォート

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [icon] または [icon] を押して、各種設定メイン画面①を表示させます（4-28）。

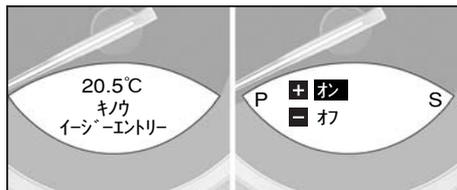
▶ [icon] を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ ＋ または － を押して、"コンフォート" を選択します。

▶ [icon]を押します。

コンフォートの最初の設定項目画面が表示されます。

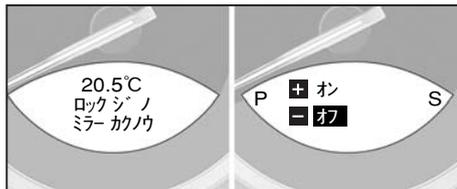
イージーエントリー設定画面

運転席への乗り降りを容易にするイージーエントリーの設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ステアリングが上方に移動します。
オフ	イージーエントリーは作動しません。

詳しくは（3-26）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

施錠時のドアミラー格納設定画面

リモコン操作での施錠時にドアミラーを格納する機能の設定ができます。

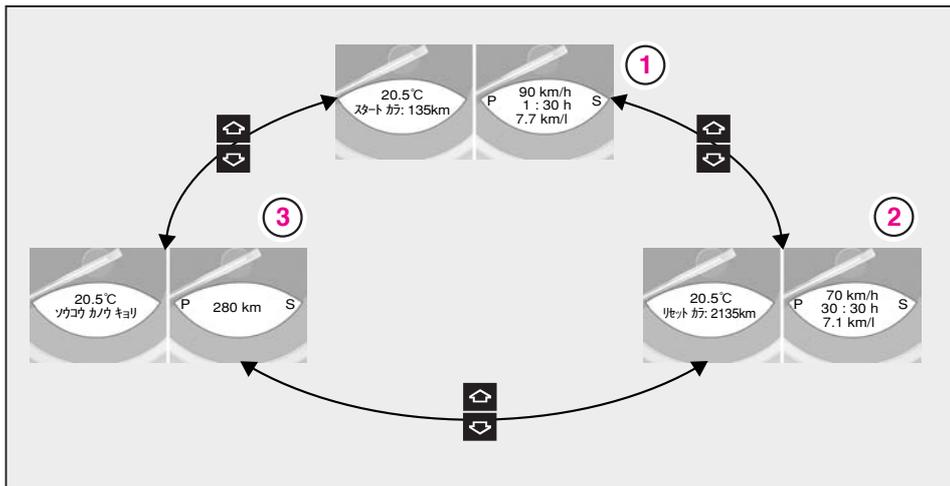
▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

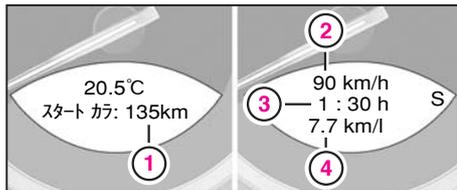
表示	設定内容
ｵﾝ	リモコン操作での施錠時にドアミラーが格納されます。
ｵﾌ	リモコン操作での施錠時にドアミラーは格納されません。

詳しくは（3-9）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

トリップコンピューター

トリップコンピューター

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ショートトリップメーター画面

① エンジン始動からの走行距離（km）
② エンジン始動からの平均速度（km/h）
③ エンジン始動からの経過時間（h）
④ エンジン始動からの平均燃費（km/l）

ショートトリップメーターは、エンジンを始動したときを起点として情報を表示します。

エンジンスイッチを0の位置にしてから、またはキーを抜いてから約4時間経過すると、ショートトリップメーターは自動的にリセットされます。

ショートトリップメーター画面を表示させる

▶ ［▤］または［▤］を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます。

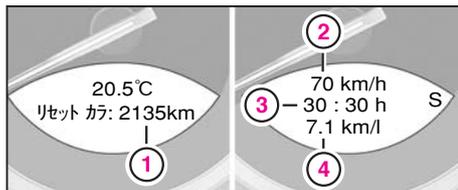
ショートトリップメーターは、手動でもリセットすることができます。

ショートトリップメーターを手動でリセットする

▶ ショートトリップメーター画面が表示されているときに、リセットボタン（3-77）を押し続けて、表示をリセットします。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

トリップコンピューター

ロングトリップメーター画面

① リセットからの走行距離（km）
② リセットからの平均速度（km/h）
③ リセットからの経過時間（h）
④ リセットからの平均燃費（km/l）

ロングトリップメーターは、トリップメーターをリセットしたときを起点として情報を表示します。

ロングトリップメーター画面を表示させる

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます（4-47）。

▶ [ボタン]を押して、ロングトリップメーター画面を表示させます。

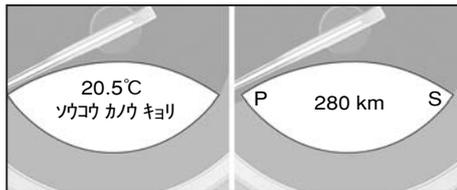
ロングトリップメーターをリセットする

▶ ロングトリップメーター画面が表示されているときに、リセットボタン（3-77）を押し続けて、表示をリセットします。

知　識

ロングトリップメーターは、リセットしてから9,999時間経過後、または99,999km走行後に自動的にリセットされます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行可能距離画面

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。

走行可能距離画面を表示させる

エンジンスイッチが2の位置のときに表示することができます。

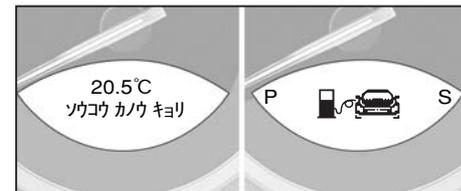
▶ または を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます（4-47）。

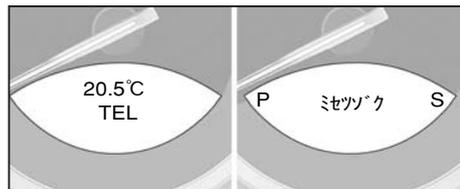
▶ を押して、走行可能距離画面を表示させます。

注 意 ！

走行可能距離は、現在までの平均燃費と残り燃料から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認して、早めに給油してください。

燃料残量が少ないときは、以下のマークが表示されます。

最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

電話

電話画面を表示させる

▶ またはを押して、電話画面を表示させます。

通話する（電話を受信する）

▶ 電話がかかってきたときにステアリングの通話開始スイッチを押します。

電話を受信することができます。

通話を終える（電話を切断する）

▶ ステアリングの通話終了スイッチを押します。

電話を切断することができます。

メモリー番号による電話の発信

メモリーしてある電話番号に電話をかけることができます。

▶ 電話画面表示中に、またはを押して、電話をかける相手先のメモリー番号を選択します。

▶ ステアリングの通話開始スイッチを押します。

電話をかけることができます。

詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

エンジンスイッチ

左ハンドル車

	作動内容
⓪	0：キーを差し込む / 抜く位置
①	1：エンジンを停止したまま電気装備の一部を使用するときの位置
②	2：走行するときの位置 すべての電気装備が使用できます。
③	3：エンジンを始動する位置 エンジンスイッチを③の位置までまわして手を放すと、自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

タッチスタート

エンジンスイッチを③の位置までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

警　告

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

注　意！

- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 車のバッテリーあがりを防止するために、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。
- エンジンスイッチにエマージェンシーキーを差すことはできません。

知　識

- セレクターレバーが P に入っていないときはエンジンスイッチからキーを抜くことができません。
- エンジンスイッチからキーを抜かずに⓪の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差してからまわしてください。
- キーの発信部が覆われていたり汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

エンジンの始動と停止

エンジンを始動するとき

- ▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認してください。
- ▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認してください。
- ▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。
- ▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに3の位置までまわして手を放します。

注 意 !

- エンジンは、セレクターレバーが N に入っているときも始動できますが、安全のため、必ずセレクターレバーを P に入れ、ブレーキペダルを踏んで始動してください。
- 少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

知 識

ランプやエアコンディショナーなど、バッテリーの負担になる装置のスイッチを停止しておくと始動性が良くなります。

エンジンが始動しないとき

- ▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認してください。
- ▶ エンジンスイッチを0か1の位置に戻してから再始動してください。

それでもエンジンを始動できないときは、指定サービス工場に連絡してください。

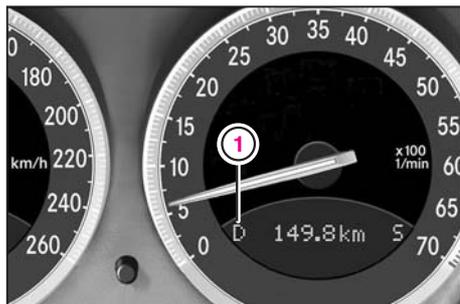
エンジンを停止するとき

- ▶ 完全に停車します。
- ▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、セレクターレバーを P に入れます。
- ▶ エンジンスイッチを0の位置にします。
- ▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

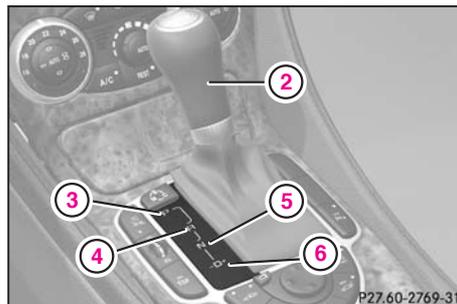
注　意　！

水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

オートマチックトランスミッション

シフト位置表示

① シフト位置表示
（ドライブに入っている状態）

エンジンスイッチを2の位置にすると、マルチファンクションディスプレイにシフト位置①が表示されます。

セレクターレバー

② セレクターレバー

▶ セレクターレバー②を動かして、シフト位置を選択します。

知　識

エンジンスイッチが2の位置で、ブレーキペダルを踏んでいないと、セレクターレバーをPから動かすことはできません。

注　意　！

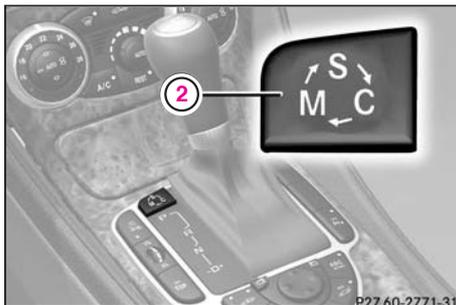
シフト位置を選択するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んで行なってください。

	シフト位置	
③	P パーキング	駐車およびエンジン始動 / 停止の位置
④	R リバース	後退するときの位置
⑤	N ニュートラル	動力が伝わらない位置 押したり、けん引してもらうことで車を移動できます。
⑥	D ドライブ	走行するときの位置 1速〜5速（7G-TRONIC装備車は1速〜7速）の範囲で自動的に変速します。

走行モード

① 走行モード表示

路面の状況や運転に合わせてオートマチックギアシフトの走行モードを切り替えることができます。

マルチファンクションディスプレイに、選択した走行モード①が表示されます。

SL 350 / SL 550 / SL 600
② 走行モード選択スイッチ

走行モードを選択する（SL 350 / SL 550 / SL 600）

▶ 走行モード選択スイッチ②を押します。

Sモード→Cモード→Mモード→Sモードと切り替わります。

SL 55 AMG / SL 65 AMG
③ 走行モード選択スイッチ

走行モードを選択する（SL 55 AMG / SL 65 AMG）

▶ 走行モード選択スイッチ③を押します。

Sモード→Cモード→Mモード→Sモードと切り替わります。

※記載の内容は、取扱説明書作成時のもので、予告なく変更されることがあります。

走行モード	
Sモード	1速から発進します。十分な加速を得たいときに使用します。 セレクターレバーを R に入れたときはCモードより力強く後退します。
Cモード	2速から発進します。Sモードより早めにシフトアップが行なわれます。ゆるやかな運転や滑りやすい路面を走行するときに適しています。 セレクターレバーを R に入れたときはSモードよりゆるやかに後退します。
Mモード	マニュアルでギアシフトすることができます。 詳しくは（5-12）をご覧ください。

警　告

選択したモードにより変速特性が変わります。必ず路面の状況に合ったモードを選択してください。

知　識

- Cモードのときも、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むか、ティップシフトでギアレンジを 1 にしたときは1速から発進します。
- Mモードを選択した状態でエンジンを停止すると、SモードまたはCモードになります。
- エンジンやトランスミッションが暖まっていないときや、走行を開始して間もないときは、Sモードのときも2速から発進することがあります。

ティップシフト

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲を変えることにより不必要に変速しないようにすることができます。

走行モードがCモードかSモードのときにティップシフトにすることができます。

警　告

滑りやすい路面状況やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。低いギアレンジを選択するときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

①　ギアレンジ表示

マルチファンクションディスプレイに、選択したギアレンジ①が表示されます。

レンジ	
D	1速～5速（7G-TRONIC装備車は1速～7速）の範囲で自動的に変速します。
6 ＊	1速～6速の範囲で自動的に変速します。
5 ＊	1速～5速の範囲で自動的に変速します。
4	1速～4速の範囲で自動的に変速します。
3	1速～3速の範囲で自動的に変速します。 緩やかな坂道などを走行するときに使用します。
2	1速～2速の範囲で自動的に変速します。 急な坂道やエンジンブレーキが必要なときに使用します。
1	1速に固定されます。 エンジンブレーキが最大に作用します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

知　識

- ギアレンジ表示の数字は選択したギアレンジを示しており、必ずしも実際のギアを示すものではありません。
- 加速時にタコメーターの指針がエンジンの許容回転数を超えてレッドゾーンに入るようなときは、自動的にシフトアップされ、高いギアレンジが選択されます。
- エンジンが暖まっていないときは、操作を行なっても、選択したギアレンジに変わらないことがあります。

セレクターレバーによる操作

② 低いギアレンジを選択
③ 高いギアレンジを選択

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが D のときにセレクターレバーを②側に操作します。

ティップシフトになり、マルチファンクションディスプレイに選択したギアレンジ①が表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを②側に操作します。

高いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを③側に操作します。

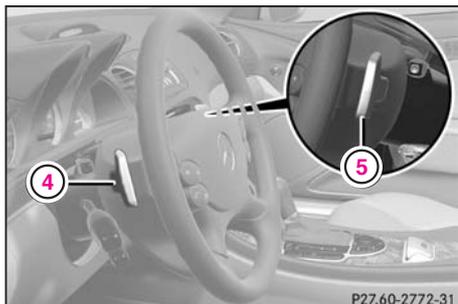
ティップシフトを解除する

▶ セレクターレバーを③側に操作して保持します。

マルチファンクションディスプレイのギアレンジ①に"D" が表示されます。

知　識

- ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数などにより異なります。
- ティップシフトにしていないときに、セレクターレバーを③側に操作すると、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

パドルによる操作

④ 左側パドル
（低いギアレンジを選択）
⑤ 右側パドル
（高いギアレンジを選択）

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが D のときに左側のパドル④を引きます。

ティップシフトになり、マルチファンクションディスプレイに選択したギアレンジ①が表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ 左側のパドル④を引きます。

高いギアレンジを選択する

▶ 右側のパドル⑤を引きます。

ティップシフトを解除する

▶ 右側のパドル⑤を引いて保持します。

マルチファンクションディスプレイのギアレンジ①に"D" が表示されます。

知 識

- ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数などにより異なります。
- ティップシフトにしていないときに、右側のパドル⑤を引くと、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。
- SL 350 / SL 550 / SL 600では、右側のパドルには "+"、左側のパドルには "−" の表示があります。
- SL 55 AMG / SL 65 AMG では、右側のパドルには "UP"、左側のパドルには "DOWN" の表示があります。

※記載の内容は、取扱説明書作成時のもので、予告なく変更されることがあります。

マニュアルギアシフト

セレクターレバーまたはパドルを操作して、マニュアルでギアを選択することができます。

警　告

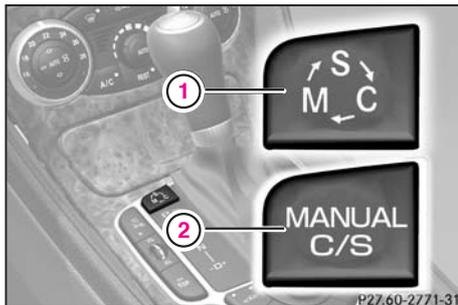
滑りやすい路面状況やカーブを走行しているときは、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。シフトダウンするときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

注　意！

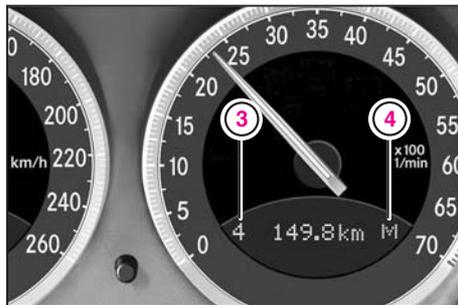
エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

知　識

- マニュアルギアシフトでは、ESPの機能を解除しないで走行することをお勧めします。
- エンジンが暖まっていないときは、選択したギアに変速しないことがあります。

マニュアルギアシフトの選択

① 走行モード選択スイッチ
（SL 350 / SL 550 / SL 600）
② 走行モード選択スイッチ
（SL 55 AMG / SL 65 AMG）

マニュアルギアシフトを選択する

▶ 走行モード選択スイッチ①または②を押して、マルチファンクションディスプレイの走行モード表示④に "M" を表示させます。

③ ギア表示
④ 走行モード表示

ギア表示③には選択されているギアが表示されます。

知　識

- マニュアルギアシフトを選択した状態でエンジンを停止すると、SモードまたはCモードになります。
- マニュアルギアシフトではギア表示③に表示される数字は実際のギアを示しています。運転者のシフトアップ / ダウン操作や、自動的なシフトアップ＊ / ダウンに応じてギア表示③に表示される数字も変わります。

マニュアルギアシフトを解除する

▶ 走行モード選択スイッチ①または②を押して、SモードかCモードを選択します。

※記載の内容は、取扱説明書作成時のもので、予告なく変更されることがあります。
＊オプションまたは仕様により装備が異なります

セレクターレバーによるシフト操作

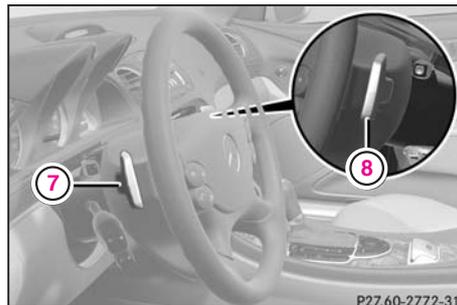
⑤ シフトダウン
⑥ シフトアップ

シフトダウンする

▶ セレクターレバーを⑤の方向に操作します。

シフトアップする

▶ セレクターレバーを⑥の方向に操作します。

パドルによるシフト操作

⑦ 左側パドル（シフトダウン）
⑧ 右側パドル（シフトアップ）

シフトダウンする

▶ 左側のパドル⑦を引きます。

シフトアップする

▶ 右側のパドル⑧を引きます。

知　識

- シフトダウン操作をしなくても、走行速度とエンジン回転数に応じて、自動的にシフトダウンが行なわれます。
- SL 350 / SL 550 / SL600では、加速時にタコメーターの指針がエンジンの許容回転数を超えてレッドゾーンに入るようなときは、自動的にシフトアップされます。このとき、ギア表示の数字も変わります。
- シフトアップ / ダウン操作をしても、選択したギアが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトアップ / ダウンされません。
- 車種や仕様により、停車時に選択できるギアは異なります。
- 停車すると、ギアは1速にシフトされます。

- SL 350 / SL 550 / SL600では、マニュアルギアシフトを選択しているときにキックダウンを行なうことができます。また、キックダウンしているときは、シフト操作はできません。
- SL 55 AMG / SL 65 AMGでは、マニュアルギアシフトを選択しているときにキックダウンを行なうことはできません。
- SL 350 / SL 550 / SL 600では、右側のパドルには "＋"、左側のパドルには "ー" の表示があります。
- SL 55 AMG / SL 65 AMGでは、右側のパドルには "UP"、左側のパドルには "DOWN" の表示があります。
- セレクターレバーを左側に操作して保持するか、左側のパドルを引いて保持すると、そのときの加速に最も適したギアが選択されます。

シフトアップマーク＊

⑨ シフトアップマーク

エンジン回転数が上昇して、シフトアップするタイミングになったときは、マルチファンクションディスプレイに、シフトアップマーク⑨が表示されます。

必要に応じてシフトアップ操作を行なってください。

知　識

- SL 350 / SL 550 / SL600では、シフトアップマークは表示されません。
- SL 55 AMG / SL 65 AMGでは、マルチファンクションディスプレイのAMG画面で右側のマルチファンクションディスプレイがギア表示のときは**(4-16、17、18)**、シフトアップするタイミングになると、シフトアップマーク⑨とともに、"up" が表示され、マルチファンクションディスプレイの表示が赤くなります。

※仕様により、マルチファンクションディスプレイのシフトアップマーク⑨の表示とAMG画面の赤い表示は交互に表示されます。

※記載の内容は、取扱説明書作成時のもので、予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

オートマチック車の運転

運転する前にオートマチック車の特性を理解し、正しい操作をしてください。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーがP、N以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

発進する

▶ エンジンを始動します。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、セレクターレバーをDに入れます。

警　告

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進したり、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

注　意 ！

急な坂道で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで、車が動き出す感触を確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

通常走行

通常はセレクターレバーを D にして走行します。アクセルペダルの踏み加減や走行速度に応じて、自動的に変速が行なわれます。

警　告

走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故の原因になったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

知　識

エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正温度に達します。

素早く加速したいとき

アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンし、素早く加速します。

注　意　！

キックダウン操作は、周囲の状況に注意しながら行なってください。事故を起こすおそれがあります。

上り坂を走行するとき

▶ 坂の勾配などに応じて、ティップシフトで低いギアレンジを選択します。

変速の少ない、なめらかな走行ができます。

下り坂を走行するとき

下り坂を D で走行すると、エンジンブレーキの効きが弱く、速度が出すぎることがあります。

▶ 坂の勾配などに応じて、ティップシフトで低いギアレンジを選択します。

エンジンブレーキの効きを強くして走行することができます。

エンジンブレーキ：走行中にアクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

警　告

- 長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。ブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- 急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

滑りやすい路面を走行するとき

走行モード（5-7）をCモードに切り替え、急加速や急減速を避けた運転を心がけてください。

警　告

滑りやすい路面では、低いギアレンジや低いギアを選択することによる急激なエンジンブレーキを効かせないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

注　意！

タコメーターの指針がエンジンの許容回転数を超えてレッドゾーンに入るおそれがある場合は、低いギアレンジや低いギアを選択することはできません。このときは、ブレーキペダルを踏んで減速してから再度操作し、速度に応じたエンジンブレーキを効かせてください。

狭い場所で転回するとき

▶ ブレーキペダルを踏みながら、車速を調整します。

▶ 後方など周囲の安全を確認し、ゆっくりと転回します。

停車するとき

▶ セレクターレバーを D に入れたままブレーキペダルを踏みます。

やむを得ず停車が長くなるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れます。

警　告

停車中は空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが D か R に入ると、車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

注 意 !

- 急な上り坂などではアクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象(5-16)で車が動かないようにしてください。
- セレクターレバーを P に入れるときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

▶ 完全に停車して、ブレーキペダルを踏み込んだまま、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ セレクターレバーを P に入れます。

▶ エンジンスイッチを0の位置にして、キーを抜きます。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

警 告

駐車時や車を離れるときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。セレクターレバーを P に入れただけでは十分なブレーキ効果が得られず、坂道などで車が動き出すおそれがあります。

注 意 !

- 急な坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをしてください。
- 短時間でも車から離れるときは、子供だけを車内に残さないでください。また、ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフを閉じ、施錠してください。

知 識

輪止めは車載されていません。適切な大きさの木片や石を使用してください。

エマージェンシーモード

トランスミッションに異常が発生し、自動変速ができなくなったときは、自動的にエマージェンシーモードに切り替わることがあります。

この場合、以下の方法でギアを2速かリバースに入れることができるようになり、走行できる場合があります。安全な場所まで移動して指定サービス工場に連絡してください。

エマージェンシーモードでの走行

▶ 安全な場所に停車して、セレクターレバーを P に入れます。

▶ エンジンを停止して、約10秒間待ちます。

▶ エンジンを始動します。

▶ セレクターレバーを D に入れます。

2速ギアに固定され、前進できます。

または

▶ セレクターレバーを R に入れます。

リバースギアに固定され、後退できます。

注 意 !

- 2速ギアやリバースギアに変速できなかったり、変速できても走行できないときは、指定サービス工場に連絡してください。
- エマージェンシーモードで走行するときは、動力性能が大きく制限されます。十分に注意して走行し、指定サービス工場で点検を受けてください。

ランプ

ランプスイッチ

左ハンドル車
① ランプスイッチ
② 車幅灯表示灯
③ フロントフォグランプ表示灯
④ リアフォグランプ表示灯

位置	作動内容
0	すべてのランプが消灯
Auto	周囲の明るさに応じて自動的に点灯 / 消灯
(車幅灯)	車幅灯、テールランプ、ライセンスランプやスイッチなどの照明が点灯し、車幅灯表示灯②が点灯
(ヘッドランプ)	車幅灯などに加え、ヘッドランプが点灯

ヘッドランプ

ヘッドランプは手動または自動的に点灯 / 消灯することができます。

ヘッドランプを手動で点灯する

▶ ランプスイッチ①を (ヘッドランプ) の位置にします。

ヘッドランプを自動で点灯する

▶ ランプスイッチ①を Auto の位置にします。

周囲が暗いとき、エンジンスイッチを 1 の位置にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが自動的に点灯します。

エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドランプも自動的に点灯します。

5

警　告

- ランプの点灯 / 消灯に関する全責任は運転者にあります。ランプの自動点灯機能は運転者を支援する機能です。
- 以下の状況などではランプは自動的に点灯しなかったり、点灯していたランプが消灯して事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でランプを点灯してください。
  - ◇ 霧の中を走行するとき
  - ◇ 対向車のライトなどにより、センサーが正常に作動しないとき
- ランプスイッチを Auto から 〔ヘッドランプ〕 の位置にするときは、必ず停車してください。ランプが一瞬消灯して事故を起こすおそれがあります。

注　意！

- ランプが自動的に点灯しているときは、エンジンスイッチを0の位置に戻して運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ﾗﾝﾌﾟ　ｵﾌ　ﾏﾀﾊ　ｷｰｦ　ﾇｲﾃｸﾀﾞｻｲ"と表示されます。このときはランプスイッチを 0 の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- ランプスイッチを 〔スモールランプ〕 か 〔ヘッドランプ〕 の位置にしたまま、キーを抜いて運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ﾗﾝﾌﾟ　ｦ　ｹｼﾃ　ｸﾀﾞｻｲ!"と表示されます。このときはランプスイッチを 0 の位置にしてください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知　識

- フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。センサー部にステッカーなどを貼付すると、自動点灯機能が働かなくなります。
- ランプスイッチが Auto の位置のときは、トンネルなどの暗い場所や悪天候のときなどに、ランプが自動的に点灯することがあります。

フォグランプ

フロントフォグランプを点灯する

▶ ランプスイッチ①の位置が[symbol]または[symbol]のとき、ランプスイッチ①を1段引きます。

フロントフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯③が点灯します。

フロントフォグランプとリアフォグランプを点灯する

▶ ランプスイッチ①の位置が[symbol]または[symbol]のとき、ランプスイッチ①を2段引きます。

フロントフォグランプとリアフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯③とリアフォグランプ表示灯④が点灯します。

警　告

ランプスイッチがAutoの位置のときは、フォグランプを点灯することはできません。霧の中を走行するときは、あらかじめランプスイッチを[symbol]の位置にしてヘッドランプを点灯してください。

注　意　！

- フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。
- エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

パーキングランプ

暗がりでの駐車時に後続車などに車の存在を知らせるため、車幅灯とテールランプだけを点灯します。

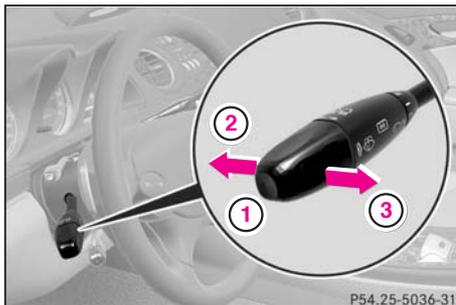
パーキングランプを点灯する

エンジンスイッチが0の位置のとき、またはキーを差し込んでいないときに点灯させることができます。

▶ ランプスイッチを[symbol]または[symbol]の位置にします。

位置	作動内容
P≷→	右側のパーキングランプが点灯
←P≷	左側のパーキングランプが点灯

5

ヘッドランプ下向き / 上向きの切り替え

① 下向き
② 上向き
③ パッシング

ヘッドランプを下向きにする

▶ ヘッドランプが点灯しているときに、コンビネーションスイッチを①の位置にします。

ヘッドランプが下向きになります。

ヘッドランプを上向きにする

▶ ヘッドランプが点灯していて、エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに、コンビネーションスイッチを②の位置にします。

ヘッドランプが上向きになります。

メーターパネルのハイビーム表示灯が点灯します。

パッシングする

▶ エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに、コンビネーションスイッチを③の方向に引きます。

引いている間ヘッドランプが上向きになります。

メーターパネルのハイビーム表示灯が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと①の位置に戻ります。

注 意 ！

対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドランプを上向きにしないでください。

コーナリングランプ＊

以下のときに、方向指示灯の点滅、またはステアリング操作に連動して、フロントフォグランプが点灯します。

- 周囲が暗いとき
- 走行速度が約40km/h以下で、エンジンがかかっているとき
- ヘッドランプを点灯しているとき

方向指示灯の点滅との連動

方向指示灯を点滅させると、点滅させた側のフロントフォグランプが点灯します。

セレクターレバーが R に入っているときは、フロントフォグランプは点灯しません。

ステアリング操作との連動

ステアリングを操作すると、操作した側のフロントフォグランプが点灯します。

セレクターレバーが R に入っているときは、ステアリングを操作した方向と逆側のフロントフォグランプが点灯します。

知　識

- 点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ側のフロントフォグランプが点灯します。
- フロントフォグランプはゆっくり消灯するため、一時的に左右両側のフロントフォグランプが点灯することがあります。
- 方向指示灯を点滅させて点灯したフロントフォグランプは、約3分後に自動的に消灯します。

車外ランプ消灯遅延機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやトランクを開いて閉じた後、約15秒後に消灯します。

この機能の設定と解除については（4-39）をご覧ください。

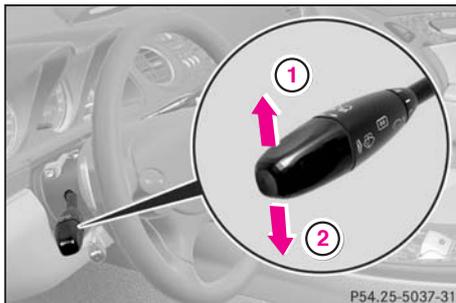
車外ランプ消灯遅延機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止後、エンジンスイッチを**2**の位置にします。

知　識

- エンジンを停止してからドアやトランクを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約60秒後に、ランプは消灯します。
- この機能は、エンジンを停止してから約60秒経過すると作動しなくなります。約60秒以内ならドアやトランクを開くたびにランプが点灯します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

方向指示

① 右側の方向指示灯が点滅
② 左側の方向指示灯が点滅

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに点滅させることができます。

右側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを①の方向に操作します。

左側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを②の方向に操作します。

ステアリングを直進の位置に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

知　識

- コンビネーションスイッチを①または②の方向に軽く操作すると、方向指示灯が3回点滅します。
- 方向指示灯を使用しているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯が優先されます。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。

非常点滅灯

① 非常点滅灯スイッチ

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯を点滅させる

▶ 非常点滅灯スイッチ①を押します。

すべての方向指示灯が点滅し、非常点滅灯スイッチ①と、メーターパネルの方向指示表示灯も同時に点滅します。

非常点滅灯を消灯させる

▶ 再度、非常点滅灯スイッチ①を押します。

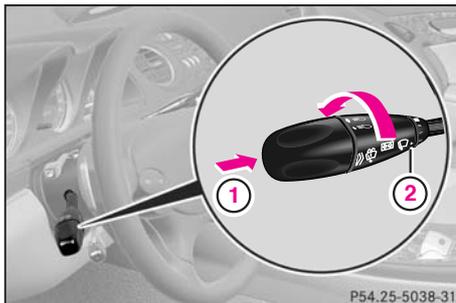
注　意　!

- 非常時以外は使用しないでください。
- エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

知　識

- 非常点滅灯を使用しているときにコンビネーションスイッチを左折または右折方向に操作すると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。

  コンビネーションスイッチを中立の位置に戻すと、再び非常点滅灯に切り替わります。
- エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

ワイパー

① ティップ機能 / ウォッシャーの噴射
② ワイパー作動モードのマーク

ワイパーを作動させる

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに作動します。

▶ コンビネーションスイッチをまわしてワイパー作動モードのマーク②を**I**～**III**に合わせます。

位置	作動内容
0	停止
I	AUTOモード レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度などに応じて、ワイパーの作動を自動的に切り替えます。
II	低速モード
III	高速モード

知　識

- ワイパーがAUTOモードのとき、停車時にドアを開くとワイパーは作動しません。ワイパーは以下のときに作動を再開します。
  - ◇ セレクターレバーが P または N に入っている場合は、ドアを閉じてセレクターレバーを D または R に入れたとき
  - ◇ セレクターレバーが D または R に入っている場合は、ドアを閉じたとき
- コンビネーションスイッチが**II**、**III**の位置のときも、停車時および低速走行時のワイパーの作動は、レインセンサーにより自動調整されます。
- ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。

ワイパーを1回だけ作動させる（ティップ機能）

▶ コンビネーションスイッチを矢印①の方向に軽く押します。

ワイパーが1回だけ作動します。（ウォッシャー液は噴射しません）

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

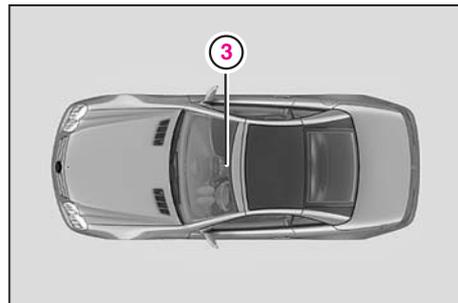
ウインドウウォッシャーを噴射する

▶ エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、コンビネーションスイッチを矢印①の方向にいっぱいに押し続けます。

その間ウォッシャー液が噴射し、ワイパーも作動します。

知　識

- エンジンがかかっていてヘッドランプが点灯しているときに、ウインドウウォッシャーを約15回操作すると、ヘッドランプウォッシャーが自動的に作動します。
- 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

レインセンサー

③ レインセンサー

フロントウインドウの図の位置にレインセンサー③があります。

注　意　！

レインセンサー部にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正常に機能しなくなります。

ワイパー

注 意 !

- ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。
- フロントウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを**0**（停止）の位置にしてください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。
- フロントウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付いたり、ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

  フロントウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャー液を噴射してから使用してください。
- エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチを**0**の位置に戻してください。コンビネーションスイッチが**II**～**III**の位置のままエンジンスイッチを**1**の位置にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャー液の操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- フロントウインドウが濡れていないときも、コンビネーションスイッチを**I**の位置にすると、ワイパーが1回作動します。
- 寒冷時にはワイパーがウインドウに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。
- 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

ヘッドランプウォッシャー

左ハンドル車
① ヘッドランプウォッシャースイッチ

※ 右ハンドル車のヘッドランプウォッシャースイッチは、ランプスイッチの左側にあります。

エンジンスイッチが**2**の位置のときに作動します。

ヘッドランプウォッシャーを作動させる

▶ ヘッドランプウォッシャースイッチ①を押します。

ウォッシャー液がヘッドランプに向けて噴射されます。

知　識

- エンジンがかかっていてヘッドランプが点灯しているときに、ウインドウウォッシャーを約15回操作すると、ヘッドランプウォッシャーが自動的に作動します。
- 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

注　意　！

- ヘッドランプウォッシャーを使用するときは、歩行者などにウォッシャー液がかからないように注意してください。
- ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているので、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ヘッドランプウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

パーキングブレーキ

左ハンドル車
① パーキングブレーキペダル
② ブレーキペダル
③ 解除ハンドル

パーキングブレーキを効かせる

▶ 右足でブレーキペダル②を踏み、左足でパーキングブレーキペダル①をいっぱいまで踏み込みます。

エンジンがかかっているときは、メーターパネルのブレーキ警告灯が点灯します。

パーキングブレーキを解除する

▶ ブレーキペダル②をいっぱいまで踏みながら、解除ハンドル③を手前に引きます。

警　告

- 子供だけを残して車から離れないでください。パーキングブレーキを解除して車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。
- パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

注　意　！

- パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。
- 急な坂道に駐車するときは、後輪の下り側に輪止めをしてください。さらに前輪を歩道方向に向けてください。

知　識

- 輪止めは車載されていません。適切な大きさの木片や石を使用してください。
- パーキングブレーキを解除しないで走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

ブレーキ

警　告

- 長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり停車できなくなるおそれがあります。
- ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

注　意　！

- SBC（センソトロニック・ブレーキ・コントロール）の点検・修理やブレーキパッドの交換などは、必ず指定サービス工場で行なってください。SBCにはブレーキ液を自動的に蓄圧する機能があるため、システムを解除してから作業しないと、ブレーキ液が漏れたり、ブレーキが自動的に作動してけがをしたり、車を損傷するおそれがあります。
- ブレーキが過熱している状態では、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。
- 水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。
- ブレーキシステムを改造したり、スペーサーやブレーキダストシールドなどを使用しないでください。

知　識

- バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が断たれると、次にバッテリーを接続してエンジンを始動したときに、マルチファンクションディスプレイにABSやESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり、ABS警告灯が点灯することがあります。

  このときはステアリングを左右どちらかにいっぱいまでまわし、次に反対方向にいっぱいまでまわすと、故障 / 警告メッセージが消え、警告灯が消灯します。

- ブレーキペダルを踏んでSBCが起動した場合、ブレーキペダルの踏み始めは抵抗が軽く、踏みしろも通常より大きくなります。ブレーキペダルから足を放すと、通常の踏みしろに戻ります。
- ブレーキペダルに脈動が感じられたり、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります。この音はSBCポンプから発生しているもので異常ではありません。
- SBCは以下のときに自動的に解除されます。

  ◇リモコン操作で施錠してから約20秒後

  ◇エンジンスイッチを**0**の位置にするかキーを抜いてから約2分後

- 長い急な下り坂では、ティップシフトで低いギアレンジを選択して、エンジンブレーキを効かせてください。ブレーキの過熱や過度の摩耗を防ぐことができます。
- 急ブレーキなどでブレーキに大きな負担をかけた後は、ブレーキディスクが冷えるまでしばらく走行を続けてください。
- 高速道路を走行しているときなどブレーキをかけずに長時間走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、時々ブレーキを効かせてください。
- ブレーキパッドは、目安として走行距離が数百kmを超えるまでは制動能力を完全には発揮できません。この期間は、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

  また、ブレーキパッドの交換を行なったときも、目安として走行距離が数百kmを超えるまでは注意してください。

(!) ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後もパーキングブレーキを効かせているときは、点灯したままになります。

パーキングブレーキを解除しても消灯しないときや、走行中に点灯したときは、ブレーキ液の量が不足しています。安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。

注 意 ！

マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-13）をご覧ください。

SL 55 AMG、SL 65 AMGのブレーキの注意事項

SL 55 AMGおよびSL 65 AMGの高性能ブレーキシステムは、走行速度やブレーキペダルの踏力、気温や湿度などの外気環境により、ブレーキノイズを発生することがあります。

また、SL 55 AMGおよびSL 65 AMGのブレーキパッドやブレーキディスクなどブレーキシステムを構成する部品は、運転スタイルや走行状況に応じて摩耗度合いが異なってきます。走行距離は摩耗度合いを測る目安にはなりません。負荷の高い運転を行なったときは、摩耗度合いが高くなります。

注 意 ！

SL 55 AMGおよびSL 65 AMGのブレーキシステムに高い負荷を与えるような走行をした後は、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両の操縦を確保する装置です。

警　告

- ABSはブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。
  ABSが適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。
  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

注　意　！

- ABSは制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABSを装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。
  - ◇ 雪の積もった路面や凍結した路面
  - ◇ 砂利道などの荒れた路面
  - ◇ 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
  - ◇ スノーチェーン装着時
- 軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでもABSが作動するときは、路面が滑りやすくなっています。十分注意して走行してください。
- ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなることがあります。
- ABSに異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。

知　識

- ABSは走行速度が約8km/hを超えると作動できるようになります。
- ABSに異常があると、以下のシステムも正しく作動しなくなることがあります。

  ◇ ESP

  ◇ BAS
- ABSに異常があると、ESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されることがあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- バッテリー電圧が低下するとABSの機能が一時的に解除されます。電圧が回復すると、待機状態になります。

(ABS) ABS警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときや走行中に点灯したときは、ABSに異常があります。

通常のブレーキ時の制動力は確保されますが、ABS、ESP、BASは作動しません。

いつもより慎重に運転し、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

注　意　！

マルチファンクションディスプレイにABSに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(**10-4**)をご覧ください。

5

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BASの操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが感知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

BASはブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

警　告

- BASは緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BASが作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BAS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

知　識

- BASに異常があると、ABSも正しく作動しなくなることがあります。
- BASに異常があるときは、マルチファンクションディスプレイにABSに関する故障 / 警告メッセージが表示されますが、通常のブレーキは作動します。
- バッテリー電圧が低下するとBASの機能が一時的に解除されます。電圧が回復すると待機状態になります。

注　意　!

- BASに異常があるときも通常のブレーキは作動しますが、緊急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにABSに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときはBASは作動しません。詳しくは（10-4）をご覧ください。

SBC®

SBC（センソトロニック・ブレーキ・コントロール）は、運転者のブレーキペダル操作をセンサーで感知し、あらかじめ蓄圧されたブレーキ液を各車輪ごとに供給することにより、ブレーキ応答性を高め、運転状況に応じて最適な制動力を発揮させるためのブレーキ制御システムです。

警　告

- SBCはブレーキ操作を補助するシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。SBCが作動しても、制動距離の短縮や制動力の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- SBC作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

SBCは以下のときに待機状態になります。

- リモコン操作で解錠したとき
- ドアを開いたとき
- エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- パーキングブレーキを解除したとき

SBCは以下のときに解除されます。

- リモコン操作で施錠してから約20秒経過したとき
- エンジンスイッチを**0**の位置にするかキーを抜いてから約2分経過したとき

SBCの特徴

SBCの操作は、通常のブレーキと同じですが、以下のような特徴があります。

- ブレーキペダルとブレーキ液圧回路が分離しているため、ABSが作動しても、ペダルに脈動は伝わりません。
- エンジン始動後、最初にブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルの踏みしろが大きくなったり、踏み応えが弱くなることがありますが、ブレーキペダルから足を放すと、通常の踏みしろに戻ります。
- ブレーキペダルに脈動が感じられたり、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります。この音はSBCポンプから発生しているもので異常ではありません。
- 通常、SBCはブレーキペダルとブレーキ液圧回路が分離していますが、SBCに故障が発生すると、エマージェンシーモードとして、ブレーキペダルとブレーキ液圧回路を接続して、前輪ブレーキのみを作動させます。

注 意 !

マルチファンクションディスプレイにブレーキやSBCに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(10-8、13、14)をご覧ください。

警　告

SBCが作動しないときは自走をできるだけ避けて、専門業者に依頼して車両運搬車で搬送してください。やむを得ず自走するときやけん引するときは、以下の注意に従ってください。

【エマージェンシーモード】

バッテリーの電圧低下などでシステムに十分な電力が供給されなかったり、電気システムなどが故障したことによりSBCが作動しないときに、ブレーキペダルを踏んで発生した油圧で直接前輪ブレーキのみを作動させるモードです。マルチファンクションディスプレイにSBCなどに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり、警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

【ブレーキペダルの踏み込み】

エマージェンシーモードでは、ブレーキペダルを通常時より深く（奥に）強く踏み込んでください。また、ブレーキペダルを踏むのに非常に大きな力が必要になり、制動距離も長くなります。

注　意 ！

SBCの点検・修理やブレーキパッドの交換などは、必ず指定サービス工場で行なってください。SBCにはブレーキ液を自動的に蓄圧する機能があるため、システムを解除してから作業しないと、ブレーキ液が漏れたり、ブレーキが自動的に作動してけがをしたり、車を損傷するおそれがあります。

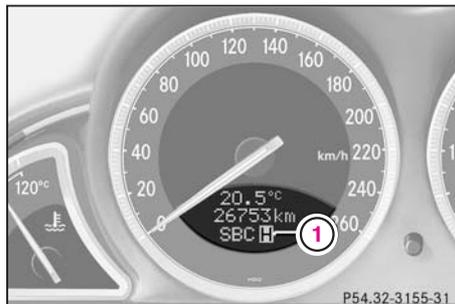
SBC®ホールド

坂道での発進や信号待ちをしているときなどに、車が前進または後退することを防ぐ機能です。ブレーキペダルを踏み続けたり、パーキングブレーキを効かせなくても、通常の路面において、停車した状態を維持できます。

警　告

- 積雪路面や凍結路面、極端な急勾配の道路などタイヤが路面をグリップしない状況では、車が停止した状態を維持できません。SBCホールドを使用しないでください。
- SBCホールド使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- エンジンを停止するときや駐車するとき、車から離れるときは、必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れてください。
- SBCホールドはパーキングブレーキに代わるものではありません。絶対にパーキングブレーキとして使用しないでください。
- SBCホールドが作動している状態で車から降りないでください。他の乗員がペダルなどに触れることにより車が動き出すおそれがあります。
- SBCホールドは、車外から、または運転者以外の同乗者が操作したり解除しないでください。

SBCホールドを作動させる

▶ エンジンがかかっていて、セレクターレバーが D 、 N 、 R のいずれかに入っている状態で停車しているとき、ブレーキペダルを意識的に素早く深く踏み込みます。

① SBCホールドインジケーター

SBCホールドが作動すると、マルチファンクションディスプレイにSBCホールドインジケーター①が表示されます。

ブレーキペダルから足を放しても、停車したままになります。

知 識

- ブレーキペダルを踏んでもSBCホールドが作動しないときは、再度ブレーキペダルを意識的に素早く深く踏み込んでください。
- SBCホールドは次のいずれかのときは作動させることができません。
  - ◇ パーキングブレーキが効いているとき
  - ◇ セレクターレバーが P に入っているとき
  - ◇ 運転席ドアが開いているとき
  - ◇ ボンネットのロックが解除されているとき
  - ◇ エンジンが停止しているとき

警　告

以下のときは、SBCホールドが解除され、車が動き出すおそれがあります。

- アクセルペダルを踏んだときや、ブレーキペダルを一度踏んでから足を放したとき
- エンジンを停止したとき
- システムまたは電力供給に異常（バッテリーあがりなど）があるとき
- バッテリーの接続が断たれたとき
- エンジンルームの電気系システムやヒューズなどが変更されたとき

SBCホールドを解除する

次のいずれかの操作で解除されます。

- セレクターレバーがD、Rのときにアクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏む
- セレクターレバーをPに入れる

SBCホールドを解除すると、マルチファンクションディスプレイのSBCホールドインジケーター①が消灯します。

注　意　！

- SBCホールドを解除したときは、車の動きに十分注意してください。
- セレクターレバーをPに入れてSBCホールドを解除した場合は、パーキングブレーキを効かせるかブレーキペダルを踏んで、確実に停車してください。

知　識

- セレクターレバーがNのときにアクセルペダルを踏んでも、SBCホールドは解除されません。
- SBCホールドが作動して停車しているときにパーキングブレーキを効かせても、SBCホールドは解除されません。
- エンジンスイッチを**0**か**1**の位置にしたときは、SBCホールドを解除するまではエンジンを始動することはできません。

注　意　！

- SBCホールドが作動している状態で車から降りないでください。
- SBCホールドが作動しているときにブレーキペダルを深く踏み込まずに以下の操作をすると、警告が行なわれます。

  ◇ボンネットのロックを解除したとき

  このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ｾﾚｸﾀ ﾚﾊﾞｰ P ﾆ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と警告メッセージが表示され、ホーンが鳴ります。

  ◇エンジンスイッチを**0**か**1**の位置にしたとき

  このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ｾﾚｸﾀ ﾚﾊﾞｰ P ﾆ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と警告メッセージが表示されます。さらにこの状態で運転席ドアを開くか、ボンネットのロックを解除するとホーンが鳴ります。

  ◇運転席の乗員がシートベルトを着用していないときに運転席ドアを開くか、運転席ドアを開いて運転席の乗員がシートベルトを外したとき

  このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ｾﾚｸﾀ ﾚﾊﾞｰ P ﾆ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と警告メッセージが表示されます。さらにこの状態でエンジンスイッチを**0**か**1**の位置にするか、ボンネットのロックを解除するとホーンが鳴ります。

  ◇運転席の乗員がシートベルトを着用し運転席ドアを開いた状態で、エンジンスイッチを**0**か**1**の位置にするか、ボンネットのロックを解除したとき

  このときはマルチファンクションディスプレイに "ｾﾚｸﾀ ﾚﾊﾞｰ P ﾆ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と警告メッセージが表示され、ホーンが鳴ります。

  また、システムや電力供給に異常が発生したときも警告が行なわれます。

- 警告メッセージが表示されたり、ホーンが鳴ったときは、ただちにセレクターレバーを **P** に入れて、パーキングブレーキを確実に効かせてください。ブレーキペダルを深く踏むことでも、警告メッセージは消えてホーンも鳴り止みますが、セレクターレバーの位置によっては車が動き出すおそれがあります。
- SBCホールドを作動させると、ブレーキペダルを踏んでいなくても車にはブレーキがかかっています。けん引などで車を動かすときは、SBCホールドを解除してください。

ESP®

ESP（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

警　告

- ESPは車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESPが作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ESP作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

知　識

- エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイにESPに関する故障 / 警告メッセージが表示され、ABS / ESP表示灯やABS警告灯が点灯することがあります。

  このようなときは、安全な場所に停車して、エンジンスイッチを0の位置に戻し、エンジンを再始動してください。しばらく走行すると、メッセージや表示灯、警告灯は消灯します。
- 指定のサイズで4輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESPが作動することがあります（走行中にABS / ESP表示灯が点滅したままになります）。
- ABSが故障したときは、ESPの機能も解除されます。
- バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が断たれると、次にバッテリーを接続してエンジンを始動したときに、マルチファンクションディスプレイにESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されることがあります。このときはステアリングを左右どちらかにいっぱいまでまわし、次に反対方向にいっぱいまでまわすと、故障 / 警告メッセージが消え、機能が回復します。

注 意 !

- 車輪を上げてけん引されるときは、エンジンスイッチを**2**の位置にしないでください。ESPが作動し、接地している車輪のブレーキが作動します。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。
- ESPが故障すると、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。
- ダイナモメーターを使用してパーキングブレーキをテストするときは、エンジンスイッチを**2**の位置にしないでください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

⚠ ABS / ESP表示灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

発進時または走行中に点滅したときは、ESPが作動しています。

ESPオフスイッチでESPの機能を解除 **(5-49)** しているときは、点灯したままになります。

知 識

ABS警告灯 (ABS) が点灯しているときは、ESPも作動しません。指定サービス工場で点検を受けてください。

警 告

ABS / ESP表示灯が点滅したときは、車輪が空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ
- ESPの機能の解除

注 意 !

マルチファンクションディスプレイにESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは **(10-6)** をご覧ください。

トラクションコントロールシステム

トラクションコントロールシステムはESPの機能の一部です。
滑りやすい路面などでタイヤが空転したときに、個々の車輪にブレーキを効かせて、駆動力を確保しようとします。

知 識

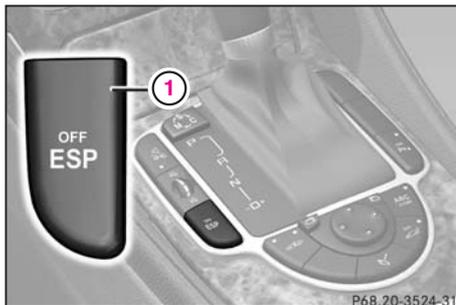
ESPオフスイッチでESPの機能を解除したときも、トラクションコントロールシステムの機能は解除されません。

警 告

- トラクションコントロールシステムは駆動力を確保し操縦安定性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。トラクションコントロールシステムが適切に作動しても、駆動力の確保には限界があります。
- トラクションコントロールシステム作動時の安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。

ESPオフスイッチ

警 告

- ESPオフスイッチでESPの機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。
  - ◇ 急ハンドル
  - ◇ 急ブレーキ
  - ◇ 急発進、急加速
  - ◇ 急激なエンジンブレーキ
- ESPの機能を解除する必要がなくなったときは、ESPを待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、操縦安定性や走行安定性を確保することができません。

① ESPオフスイッチ

ESPオフスイッチは、ESPの機能を解除するためのスイッチです。

深い雪や砂、砂利などの上を走行するときや、スノーチェーンを装着しているときなどは、ESPの機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

ESPの機能を解除する

▶ エンジンがかかっているときに、ESPオフスイッチ①を押します。

ESPの機能が解除され、メーターパネルのABS / ESP表示灯が点灯したままになります。

ESPを待機状態にする

▶ エンジンがかかっているときに、再度ESPオフスイッチ①を押します。

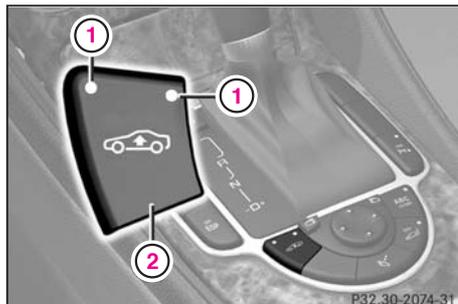
ESPが待機状態になり、メーターパネルのABS / ESP表示灯が消灯します。

知 識

- エンジンを始動したとき、ESPは常に待機状態になります。
- ESPオフスイッチでESPの機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを感知すると、ESP表示灯が点滅しますが、ESPは作動しません。

  ただし、このときにブレーキを効かせたときは、ESPは自動的に作動します。

ABC＊

車高の調整

① 表示灯
② 車高レベル選択スイッチ

悪路を走行するときやスノーチェーンを装着して走行するときなどは、車高を上げることができます。

エンジンがかかっているときに操作することができます。

車高レベルを選択する

▶ 車高レベル選択スイッチ②を押します。

スイッチを押すごとに点灯する表示灯①の数が変わり、車高レベルが設定されます。

表示灯の点灯数	車高レベル	作動内容
0	レベル0	通常走行時の車高です 速度が上がると車高が最大で約15mm低くなり、速度が下がると車高もレベル0に戻ります。
1	レベル1	荒れた路面を走行するときや、スノーチェーンを装着して走行するときの車高です。 車高がレベル0より約25mm高くなります。 速度が上がると車高が最大で約25mm低くなり、速度が下がると車高もレベル1に戻ります。
2	レベル2	凹凸のある場所を通過するときや、スノーチェーンを装着するときなどの車高です。 車高がレベル0より約50mm高くなります。 速度が上がると車高が最大で約50mm低くなり、速度が下がると車高もレベル2に戻ります。

※上記の数値は本国仕様車のものであり、日本仕様とは異なる場合があります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

警　告

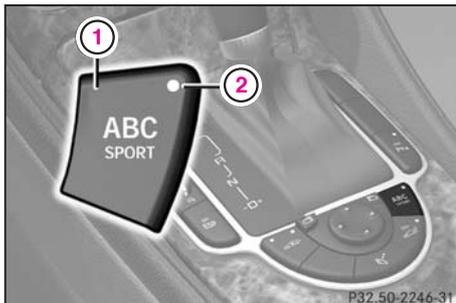
- 車高を調整するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。身体が挟まれるおそれがあります。
- SL 55 AMGとSL 65 AMGは、レベル0またはレベル1のときにエンジンを停止すると、フロント部で最大約15mm、リア部で最大約10mm車高が下がります。

  整備などでエンジンを停止するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいたり物がないことを確認してください。身体や物が挟まれるおそれがあります。また、車体の下方に十分な空間があることを確認してください。

注　意　!

- 必要なとき以外は、車高レベルをレベル1またはレベル2にしないでください。車両操縦性が変化します。また、燃料消費率が悪化します。
- エンジンルーム内の温度が極端に上がると、車高が自動的に上下することがありますが、走行を開始すると、車高は正常に戻ります。
- スノーチェーンを装着して走行するときは、必ず車高をレベル1に設定してください。
- マルチファンクションディスプレイにABCに関する警告メッセージが表示されたときは**(10-3)**をご覧ください。

知　識

- エンジンスイッチからキーを抜いても、選択した車高レベルは記憶されます。
- 車高の調整量は小さいため、変化がわかりにくいことがあります。

サスペンション制御

① サスペンションモード選択スイッチ
② 表示灯

運転スタイルや路面状況、荷物の積載状況によってサスペンションを自動制御します。

また、運転スタイルに合わせて、サスペンションモードを選択することができます。

サスペンションモードを選択する

エンジンがかかっているときに選択することができます。

▶ サスペンションモード選択スイッチ①を押します。

スイッチを押すごとに表示灯②が点灯 / 消灯して、サスペンションモードが変更されます。

表示灯の状態	作動内容
消灯	通常走行用のコンフォートモードです。
点灯	スポーティな走行用のスポーツモードです。

知　識

エンジンスイッチからキーを抜いても、選択したモードは記憶されます。

クルーズコントロール

クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏まなくても、設定した速度を自動的に維持して走行できます。

設定できる速度は約30km/h以上です。

警　告

- 車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
  - ◇ 急な下り坂、急カーブ、曲がりくねった道路
  - ◇ 加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路
  - ◇ 雨で濡れた路面や積雪路、凍結路などの滑りやすい路面
  - ◇ 降雨時や降雪時、濃霧時など視界が確保できない場合

注　意　！

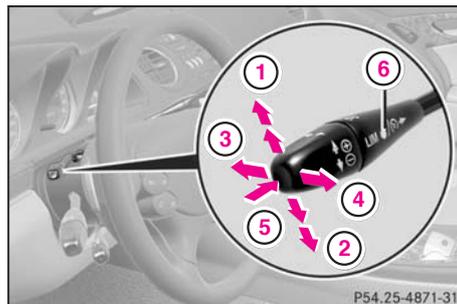
- クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。
- 指定のサイズで4輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-9）をご覧ください。
- 急な上り坂では、クルーズコントロールが速度を維持するためにシフトダウンしますが、設定した速度を維持できないことがあります。このようなときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

注　意　!

- 急な下り坂などエンジンブレーキだけでクルーズコントロールが設定した速度を維持できないときは、自動的にSBCが作動してブレーキが効きます。

  それでも設定速度を維持できないときは、ブレーキペダルを踏んで減速してください。

- 長い下り坂などでは、ティップシフトで低いギアレンジを選択して、エンジンブレーキの効きを強くして走行してください。ただし、路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

クルーズコントロールの使いかた

①〜⑤ レバーの操作方法
⑥ 表示灯

可変スピードリミッター（5-71）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときに、クルーズコントロールを操作できます。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯⑥が消灯し、クルーズコントロールを操作できる状態に切り替わります。

クルーズコントロールを設定する

▶ レバーの表示灯⑥が消灯していることを確認します。

点灯しているときは、レバーを⑤の方向に押して、表示灯を消灯させます。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを①または②の方向に操作します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

- 速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

⑦ クルーズコントロールインジケーター
⑧ 設定速度

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

左側のマルチファンクションディスプレイに設定速度が、右側のマルチファンクションディスプレイに "ｸﾙｰｽﾞｺﾝﾄﾛｰﾙ" と数秒間表示されます。

また、数秒後に左側のマルチファンクションディスプレイに、クルーズコントロールインジケーター⑦と設定速度⑧が表示されます。

警　告

記憶されている速度に再度設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速して事故を起こすおそれがあります。

注　意　！

そのときの速度に設定したときは、走行状況により、高めの速度に設定されることがあります。必要に応じて、設定速度を変更してください。

クルーズコントロール

知　識

- クルーズコントロールの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。
- 約30km/h以下の速度で走行しているときやESPオフスイッチでESPの機能を解除してあるときはクルーズコントロールを設定することはできません。このときは、左側のマルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間表示されます。
- クルーズコントロールの設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを一度0か1の位置にすると、記憶された速度は消去されます。

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に上げて保持すると加速します。

希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを②の方向に下げて保持すると減速します。

希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

知　識

- レバーを①か②の方向にごく短時間操作すると、1km/h単位で速度の設定ができます。
- レバーを②の方向に下げて減速しているときには、自動的にブレーキを効かせたり、シフトダウンすることがあります。

一時的に速度を上げる

追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

クルーズコントロールの設定を解除する

▶ レバーを③の方向に押します。

次の操作をしたときも解除されます。

- ブレーキペダルを踏んだとき
- レバーを⑤の方向に押したとき(5-54)。

  レバーの表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

知　識

- クルーズコントロールを解除する前の設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを一度0か1の位置にすると、記憶された速度は消去されます。
- クルーズコントロールは以下のとき自動的に解除されます。

  ◇走行速度が約30km/h以下になったとき
  ◇ESPが作動したとき
  ◇ESPオフスイッチでESPの機能を解除したとき
  ◇セレクターレバーを N に入れたとき

  このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾌ"と数秒間表示されます。
  また、パーキングブレーキを効かせたときもクルーズコントロールは解除されます。

警　告

クルーズコントロールはセレクターレバーを N に入れても解除されますが、走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

5

ディストロニック＊

ディストロニックは、設定した速度を自動的に維持して走行するクルーズコントロール機能に、センサーによる車間距離感知機能と車間距離警報、自動ブレーキ機能を組み合わせたシステムです。

先行車を感知すると、設定した速度から自動的に速度の調整を行ないながら、車間距離を維持するように走行します。

設定できる速度は約30km/hから約180km/hの間です。

知 識

- 前方に車両がいないときは、ディストロニックはクルーズコントロール（5-53）と同じ働きをします。
- ディストロニックが自動的にブレーキを効かせたときは、ブレーキランプも点灯します。

警 告

- ディストロニックは先行車への追突を回避するような自動操縦システムではありません。
- 車の走行速度や先行車との車間距離の確保、適切なブレーキ操作など、ディストロニック使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- ディストロニックによるブレーキは最大制動力の約20%程度のため、運転者はこのシステムだけに頼らず、常に先行車との車間距離や周囲の状況を確認し、必要に応じてブレーキを操作してください。
- 積雪路や凍結路など滑りやすい路面では、ディストロニックを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- ディストロニックは、以下のようなものには反応しません。

  ディストロニックを使用しているときも、常に周囲の状況に注意を払ってください。

  ◇ 歩行者

  ◇ 停車中の車両

  ◇ 対向車

  ◇ 道路を横切る車両

  ◇ オートバイなど横幅の狭い車両

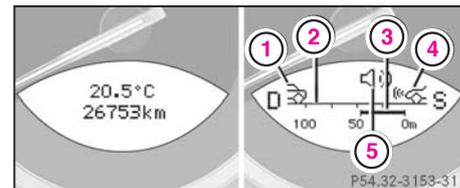
  ◇ 異なる車線を走行している車両

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

- 以下のような場合はディストロニックを使用しないでください。急加速して先行車との車間距離を維持できず、事故を起こすおそれがあります。
  - ◇ 急な下り坂や急カーブ、曲がりくねった道路を走行するとき
  - ◇ ETCゲートを通過するとき
  - ◇ 走行速度の速い車線に車線変更するとき
  - ◇ 交通量の多い道路や、工事中区間など頻繁に車線変更を行なう区間を走行するとき
- みぞれやひょう、霧や豪雨、吹雪などの悪天候のときや、ディストロニックセンサーが汚れているときは、ディストロニックを使用しないでください。先行車との車間距離を正確に計測できず、事故を起こすおそれがあります。

注 意 !

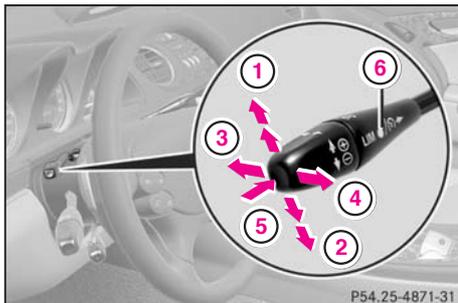
- マルチファンクションディスプレイにディストロニックに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-9）をご覧ください。
- ディストロニックは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。
- 長い下り坂などでは、ティップシフトで低いギアレンジを選択して、エンジンブレーキの効きを強くして走行してください。ただし、路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

車間距離表示画面

① 先行車（先行車を感知した場合）
② 先行車と自車とのおよその車間距離
③ 先行車と自車との設定した車間距離
④ 自車
⑤ 車間距離警告音マーク

マルチファンクションディスプレイに車間距離表示画面を表示させると（4-24）、先行車との距離などを表示することができます。

知 識

- 車間距離表示画面は、ディストロニックを解除しているときも表示させることができます。
- 道路や交通の状況により、先行車との距離を正確に表示できないことがあります。

ディストロニックの使いかた

①〜⑤ レバーの操作方法
⑥ 表示灯

可変スピードリミッター（5-71）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときに、ディストロニックを操作できます。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯⑥が消灯し、ディストロニックを操作できる状態に切り替わります。

ディストロニックを設定する

▶ レバーの表示灯⑥が消灯していることを確認します。

点灯しているときは、レバーを⑤の方向に押して、表示灯を消灯させます。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを①または②の方向に操作します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

- 速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

先行車がいるときは、設定した車間距離（5-65）を維持するように、速度を調整しながら走行します。

⑦ ディストロニックインジケーター
⑧ 設定速度

左側のマルチファンクションディスプレイに、ディストロニックインジケーター⑦と設定速度⑧が表示されます。

マルチファンクションディスプレイに車間距離表示画面を表示していないときは、右側のマルチファンクションディスプレイに車間距離表示画面が数秒間表示されます。

車間距離表示画面を表示させるには**（4-24）**をご覧ください。

知　識

ディストロニックは以下のときには設定することはできません。このときは、設定速度⑦に "--- km/h" が数秒間表示されます。

- 走行速度が約30km/h以下のときや約180km/h以上のとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- パーキングブレーキを効かせているとき
- ESPオフスイッチでESPの機能を解除しているとき
- セレクターレバーが P 、N 、R に入っているとき

また、エンジンを始動してから約2分間経過していないときは、設定できないことがあります。

- ディストロニックの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。
- ディストロニック作動中にアクセルペダルを踏んで速度を上げると、マルチファンクションディスプレイに "DTR ﾊﾟｯｼﾌﾞ" と表示され、ディストロニックによる速度調整が一時的に解除されます。
- ディストロニックの設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを一度**0**か**1**の位置にすると、記憶された速度は消去されます。

警　告

記憶されている速度に設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速して事故を起こすおそれがあります。

設定速度を変更する

▶ レバーを①の方向に操作します。

設定速度が10km/h単位で上がります。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

設定速度が1km/h単位で上がります。

または

▶ レバーを②の方向に操作します。

設定速度が10km/h単位で下がります。

注　意 ！

設定速度を上げるときは、周囲の状況に注意してください。レバーから手を放した後も、設定した速度と車間距離に到達するために車が加速します。

知　識

設定速度を下げているときに、自動的にブレーキを効かせたり、シフトダウンすることがあります。

一時的に速度を上げる

▶ 追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。

アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

知　識

ディストロニック作動中にアクセルペダルを踏んで速度を上げると、マルチファンクションディスプレイに"DTR ﾊﾟｯｼﾌﾞ" と表示され、ディストロニックによる速度調整が一時的に解除されます。

ディストロニックを解除する

▶ レバーを③の方向に押します(5-60)。

または

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを⑤の方向に押します(5-60)。

レバーの表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターの操作ができる状態に切り替わります。

ディストロニックが解除されると、マルチファンクションディスプレイに "DTR オフ" と数秒間表示されます。

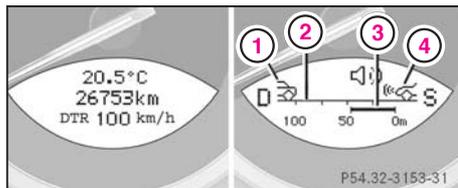
知　識

- ディストロニックを解除する前の設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを**0**か**1**の位置にすると、記憶された設定速度は消去されます。
- ディストロニックは以下のとき自動的に解除されます。
  - ◇ 走行速度が約30km/h以下になったとき
  - ◇ ESPが作動したとき
  - ◇ ESPオフスイッチでESPの機能を解除したとき
  - ◇ セレクターレバーを N に入れたとき
  - ◇ パーキングブレーキを効かせたとき

  このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "DTR オフ" と数秒間表示されます。

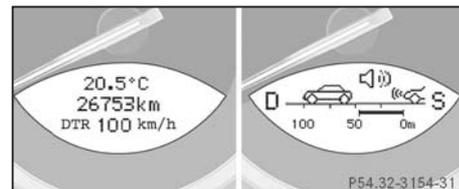
警　告

- 以下のようなときはディストロニックを解除してください。
  - ◇ 急な下り坂や急カーブ、曲がりくねった道路にさしかかったとき。
  - ◇ 設定速度よりも低い速度で走行している先行車への追従走行から、車線を変更するとき。
  - ◇ 合流車線や分岐車線を走行するとき。

  これらの場合にディストロニックを作動させていると、設定した速度までシステムが自動的に加速・減速を行ない、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中はセレクターレバーを N に入れてディストロニックを解除しないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

先行車を感知したとき

① 先行車（先行車を感知した場合）
② 先行車と自車とのおよその車間距離
③ 先行車と自車との設定した車間距離
④ 自車

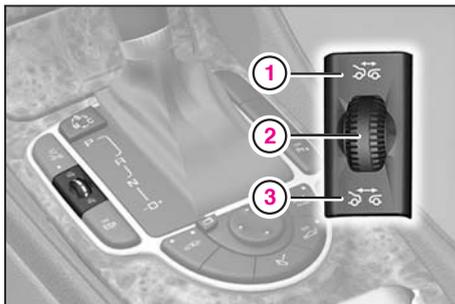
前方に走行している車を感知すると、車間距離表示画面に先行車①が表示されます。

自車の走行速度より遅い速度で走行しているときは、車間距離が詰まるにつれ、先行車の表示が左から右へ移動します。

速度に応じた設定車間距離に達すると、先行車への追従走行を開始します。

車間距離の設定

走行しているとき、先行車との車間距離を1秒から2秒の範囲で設定することができます。

車間距離の1秒間とは、ある速度のとき1秒間で走行する距離のことで、約100km/hで走行しているときの1秒の車間距離は約28mになります。

設定した車間距離はマルチファンクションディスプレイに表示されます。

① 車間距離を短くする
② 車間距離調整ダイヤル
③ 車間距離を長くする

車間距離を長くする

▶ ダイヤル②を③の方向にまわします。

車間距離を短くする

▶ ダイヤル②を①の方向にまわします。

走行速度と車間距離の関係

走行速度（km/h）	設定できる車間距離（m）
40	11〜22
60	17〜33
80	22〜44
100	28〜56

※車間距離はおよその距離です

知　識

設定される車間距離は走行速度によって変わります。

警　告

車間距離を設定するときは、先行車との安全が確保できる距離に設定してください。先行車が急ブレーキをかけたときなどに、事故を起こすおそれがあります。

車間距離警告

ディストロニックが作動しているとき、先行車に近付きすぎると、車間距離警告灯と車間距離警告音による警告が行なわれ、運転者にブレーキ操作を促します。

知　識

- 道路幅の狭い道やカーブなどを走行しているときは、車道脇に設置された静止物やガードレールのリフレクターなどを感知して、車間距離警告音が鳴ることがあります。
- 減速が必要なときは、必ずブレーキペダルを踏んでください。ディストロニックが作動しているときは、ティップシフトでシフトダウンを行なっても、エンジン回転数が速度に応じて変化するだけで、エンジンブレーキは効きません。

警　告

- 走行中に車間距離警告灯が赤色点灯して、車間距離警告音が鳴ったときは、大幅な減速が必要になります。ブレーキペダルを踏んで減速するか、回避操作を行なってください。前車や前方の障害物に衝突するおそれがあります。
- 車間距離警告灯が頻繁に点灯したり、車間距離警告音が鳴るようなときは、ディストロニックを使用しないでください。
- 周囲の状況によっては、先行車がいても車間距離警告が行なわれなかったり、先行車がいないときに車間距離警告が行なわれることがあります。運転者は車間距離警告だけに頼らず、常に先行車との車間距離や周囲の状況を確認し、必要に応じてブレーキを操作してください。

車間距離警告灯

① 車間距離警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると車間距離警告灯①が点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

走行中は、前方に自車よりも低い速度で走行している車両を感知すると、車間距離警告灯①が白色に点灯します。

先行車との距離が設定車間距離よりも短くなると、車間距離警告灯①は赤色の点灯に変わり、設定車間距離が確保されると白色の点灯に変わります。

前方に車両がいなくなり、設定速度まで加速すると車間距離警告灯①は消灯します。

車間距離警告音の設定

① 車間距離警告音スイッチ
② 表示灯

車間距離警告音を解除することができます。

車間距離警告音を解除する

▶ 車間距離警告音スイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

また、マルチファンクションディスプレイの車間距離表示画面から、車間距離警告音マーク（5-59）が消えます。

車間距離警告音を待機状態にする

▶ 再度、車間距離警告音スイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

また、マルチファンクションディスプレイの車間距離表示画面に、車間距離警告音マーク（5-59）が表示されます。

注　意　！

車間距離警告音を解除すると、先行車に近付きすぎても、車間距離警告灯（5-66）による警告しか行なわれません。

車間距離警告音を待機状態にして走行してください。

知　識

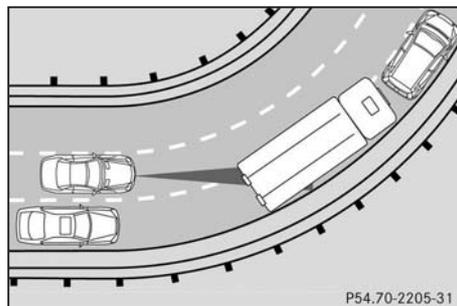
- ディストロニックを解除しているときでも、先行車との車間距離は測定されています。先行車に近付きすぎると、車間距離警告灯と車間距離警告音による警告を行ないます。

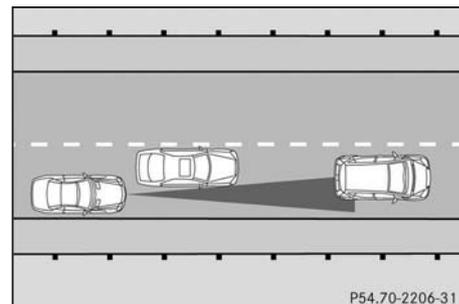
  ただし、車間距離警告音を解除しているときは、車間距離警告音は鳴りません。
- 道路や交通の状況により、ディストロニックが先行車との距離を正確に認識できない場合があります。

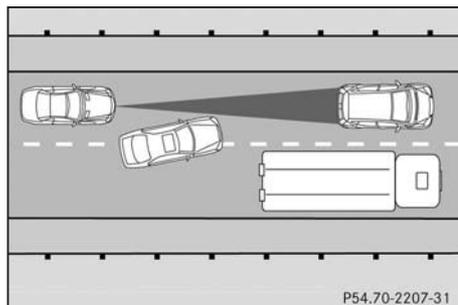
ディストロニックを使用して走行するときの注意

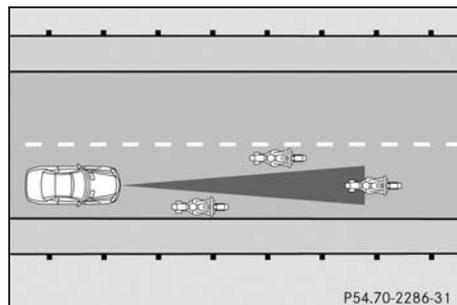
ディストロニックを使用するときに、特に注意が必要な道路と交通の状況を、以下に記載しています。

このような状況下では、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。ディストロニックが解除されます。

カーブを走行するときやカーブに入るとき、カーブを抜けるとき

カーブでは、ディストロニックが先行車を感知できなかったり、感知が早すぎることがあります。その結果、車が加速したり、ブレーキを効かせることがあります。

異なるライン上を走行しているとき

ディストロニックは、同一車線でも異なるライン上を走行している先行車を感知できないことがあります。その結果、先行車に接近しすぎることがあります。

先行車との間に割り込みがあったとき

前方に割り込んできた車がディストロニックの感知範囲内に入らないことがあります。その結果、割り込んできた車に接近しすぎることがあります。

先行車の横幅が狭いとき

ディストロニックは、同一車線の端を走行している横幅の狭い先行車（オートバイなど）を感知できないことがあります。その結果、先行車に接近しすぎることがあります。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターは、制限速度を設定すると、アクセルペダルを踏み込んでいても、設定した速度を超えないように走行することができます。

設定できる制限速度は30km/hから249km/hまたは250km/hまでの間です。

ただし、車の最高速度以上に制限速度を設定しても、車の最高速度以上の速度で走行することはできません。

※車種や仕様により設定できる制限速度が異なる場合があります。

※設定できる速度は予告なく変更されることがあります。

警　告

- 走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した制限速度を伝えてください。

  可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。
- 可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。
- 可変スピードリミッターは設定した制限速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

注　意　!

- 可変スピードリミッターの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。
- 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

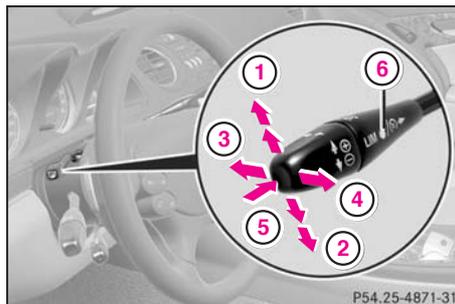
  このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして減速してください。

  ただし、路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

- マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-9）をご覧ください。

知　識

- スノータイヤスピードリミッター（4-41）を設定しているときは、可変スピードリミッターで設定できる制限速度は、スノータイヤスピードリミッターの設定速度が上限になります。
- 設定した速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ﾘﾐｯﾄ ｺｴﾏｼﾀ!" と表示されることがあります。

可変スピードリミッターの使いかた

①〜⑤ レバーの操作方法
⑥ 表示灯

クルーズコントロール（5-54）、ディストロニック＊（5-60）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときに、可変スピードリミッターを操作できます。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときは、クルーズコントロール、またはディストロニック＊の操作ができる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

可変スピードリミッターを設定する

▶ レバーの表示灯⑥が点灯していることを確認してください。

消灯しているときは、レバーを⑤の方向に押して、表示灯を点灯させます。

▶ レバーを①か②の方向に操作します。

- 走行速度が30km/h以上のときは、そのときの速度に設定されます。
- 走行速度が30km/h以下のときは、30km/hに設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に操作します。

- 速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 速度が記憶されていないときで、走行速度が30km/h以上のときは、そのときの速度に設定されます。
- 速度が記憶されていないときで、走行速度が30km/h以下のときは、30km/hに設定されます。

⑦ スピードリミッターインジケーター
⑧ 設定速度

可変スピードリミッターが設定されます。

左側のマルチファンクションディスプレイには設定速度が、右側のマルチファンクションディスプレイには"ﾘﾐｯﾄ"と数秒間表示された後に、左側のマルチファンクションディスプレイにスピードリミッターインジケーター⑦と設定速度⑧が表示されます。

注　意　!

- 可変スピードリミッターを設定するときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。
- そのときの速度に設定したときは、走行状況により、高めの速度に設定されることがあります。必要に応じて、設定速度を変更してください。

知　識

- 可変スピードリミッターの設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを一度**0**か**1**の位置にすると、記憶された速度は消去されます。
- アクセルペダルを踏んでキックダウンしているときは、可変スピードリミッターを設定することはできません。

設定速度を変更する

▶ レバーを①の方向に操作します。

設定速度が10km/h単位で上がります。

または

▶ レバーを④の方向に操作します。

設定速度が1km/h単位で上がります。

または

▶ レバーを②の方向に操作します。

設定速度が10km/h単位で下がります。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを③の方向に押します。

次の操作をしたときも解除されます。

▶ レバーを⑤の方向に押します。

レバーの表示灯⑥が消灯し、クルーズコントロールまたはディストロニック＊の操作ができる状態に切り替わります。

知　識

次の操作をしたときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき。

  このときは確認音が鳴ります。

  ただし、設定速度より約20km/h以上低い速度までは、一時的にキックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。

- エンジンを停止したとき。

注　意　！

可変スピードリミッターを解除しても、設定速度は記憶されています。記憶されている速度が走行速度よりも低い場合、記憶されている速度に再度設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

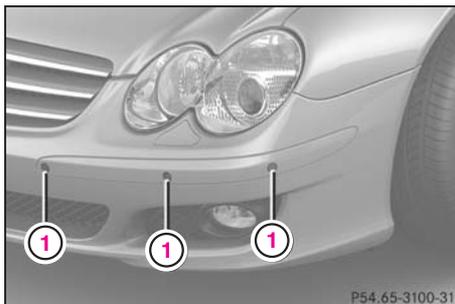
＊オプションまたは仕様により装備が異なります

パークトロニック

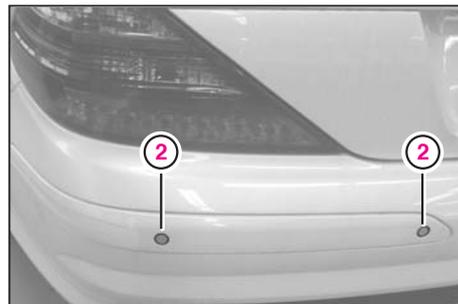
パークトロニックは、フロントとリアのバンパーにあるセンサーで障害物などを感知し、車と障害物とのおよその距離を、インジケーターと警告音で運転者に知らせます。

注 意 !

パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックセンサー

フロント
① センサー

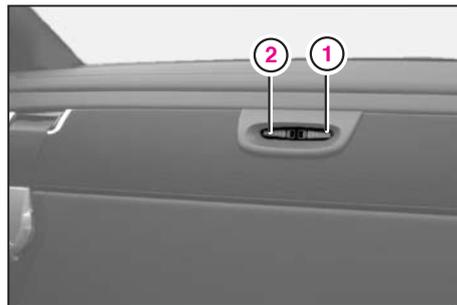
リア
② センサー

フロントバンパーの6個のセンサーとリアバンパーの4個のセンサーが車の周辺の障害物などを感知します。

注 意 !

センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着した状態のときは正しく作動しないことがあります。このときは赤色インジケーターが点灯します。センサーを損傷しないよう注意して、定期的に清掃（8-32）をしてください。

インジケーター

フロント
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター

フロントのインジケーターはダッシュボード上の図の位置にあります。

リア
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター

リアのインジケーターはシート後方の図の位置にあります。

フロント、リアともに右側インジケーター②は車の右側を、左側インジケーター①は車の左側を感知した状況を表示します。

バンパーと障害物などとのおよその距離を、インジケーターの点灯数で示します。

注 意！

赤色インジケーターだけが点灯して警告音が鳴ったときは、システムに異常があり、機能が解除されることがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチ（5-80）の表示灯が点灯します。

知 識

エンジンスイッチを2の位置にすると、すべてのインジケーターと作動表示灯が一瞬点灯します。

パークトロニックの作動条件

エンジンスイッチが2の位置でパーキングブレーキが解除されているとき、シフト位置に応じて以下のように作動します。

シフト位置	作動内容
D	フロントのセンサーが作動し、フロントのインジケーター外周部の作動表示灯が点灯します。
R N	フロントとリアのセンサーが作動し、フロントとリアのインジケーター外周部の作動表示灯が点灯します。
P	パークトロニックは作動しません。

知 識

- パークトロニックが作動したとき、センサーの感知範囲に障害物などがあると、その距離に応じて表示灯が点灯し、警告音も鳴ります。
- パークトロニックは、速度が約18km/h以下のときに作動します。速度が約18km/h以上になると作動を停止します。

パークトロニックの作動

フロントのセンサー感知範囲に障害物が入ったとき

フロントのセンサー感知範囲 **(5-79)** に障害物が入ると、黄色インジケーターが1個点灯します。

障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色インジケーターに加えて1個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が断続的に約3秒間鳴ります。

最短感知距離（約20～15cm）になると、上記のインジケーターに加えて2個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に約3秒間鳴ります。

リアのセンサー感知範囲に障害物が入ったとき

リアのセンサー感知範囲 **(5-79)** に障害物が入ると、黄色インジケーターが1個点灯して、断続的に警告音が鳴ります。

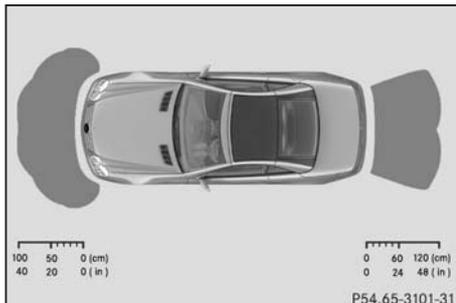
障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていき、警告音の間隔が短くなります。

障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色インジケーターに加えて1個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音の間隔がさらに短くなります。

最短感知距離（約20～15cm）になると、上記のインジケーターに加えて2個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に鳴ります。

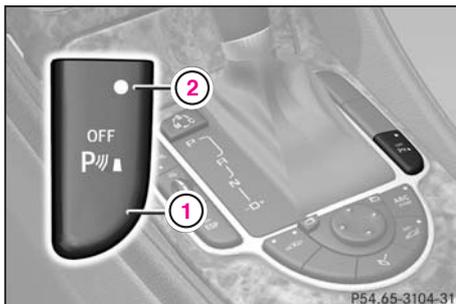
注　意　！

障害物との距離がセンサーの最短感知距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなくなり、パークトロニックが正常に作動しなくなることがあります。

センサーの感知範囲

フロントバンパー側	センサー感知範囲
中央	約100cm～20cm
コーナー	約60cm～15cm

リアバンパー側	センサー感知範囲
中央	約120cm～20cm
コーナー	約80cm～15cm

注 意 ！

- 車の中央でバンパーから約20cm以内、コーナーでバンパーから約15cm以内にある障害物は感知できません。
- センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。
- 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。
- センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。
- 電波を発する物が近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。
- 大型車の排気ブレーキや工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。
- 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックオフスイッチ

① パークトロニックオフスイッチ
② 表示灯

パークトロニックの機能を解除できます。

パークトロニックの機能を解除する

▶ エンジンスイッチが**2**の位置のとき、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

パークトロニックを作動させる

▶ 再度、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

注　意　！

システムが故障するとパークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯し、警告音が鳴って作動を停止します。指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

パークトロニックオフスイッチで機能を解除しても、次にエンジンスイッチを**2**の位置にしたとき、パークトロニックは自動的に作動します。

エアコンディショナー

エアコンディショナーは、設定温度や外気温度、日射の強さなどに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

環　境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒R134aを使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ず指定サービス工場で行なってください。

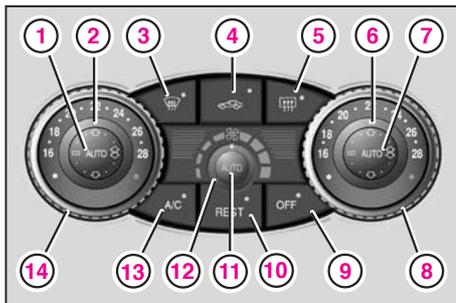
注　意　！

- 送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になることがあります。火傷をするおそれがありますので十分に注意してください。
- 送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。
- 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。
- 車内が高温になっているときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。
- ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。
- 送風口や車内の吸排気口が覆われないようにしてください。

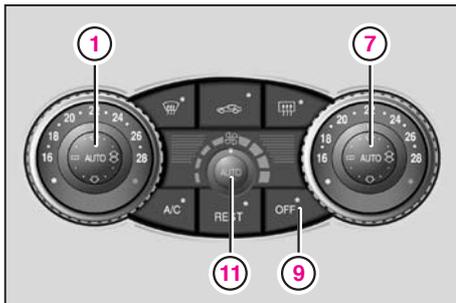
知　識

- ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフが開いていると、設定温度を維持することができません。
- ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフが閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。
- 一度に大幅に設定温度を変更しても、希望する温度に達するまでの時間はあまり変わりません。
- エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。
- 除湿された水分は車体下方に排水されます。
- エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

  フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減るおそれがあります。

コントロールパネル

①	AUTOスイッチ (左側送風口選択)
②	送風口選択ダイヤル（左側）
③	デフロスタースイッチ
④	内気循環スイッチ
⑤	リアデフォッガースイッチ
⑥	送風口選択ダイヤル（右側）
⑦	AUTOスイッチ (右側送風口選択)
⑧	送風温度調整ダイヤル（右側）
⑨	オフスイッチ
⑩	余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑪	AUTOスイッチ(送風量調整)
⑫	送風量調整ダイヤル
⑬	ACスイッチ
⑭	送風温度調整ダイヤル（左側）

※エアコンのスイッチ類の絵柄などは、イラストと異なる場合があります。

通常の使いかた（AUTOモード）

① AUTOスイッチ（左側送風口選択）
⑦ AUTOスイッチ（右側送風口選択）
⑨ オフスイッチ
⑪ AUTOスイッチ（送風量調整）

エアコンディショナーを作動させる

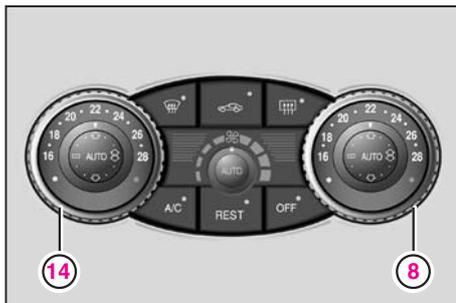
▶ オフスイッチ⑨を押して、オフスイッチの表示灯を消灯させせます。

▶ AUTOスイッチ①⑦⑪を押し込んでAUTO表示を点灯させせます。

送風口の組み合わせと送風量が、設定温度に合わせて自動的に調整されるようになります。

知　識

AUTOスイッチや送風温度調整ダイヤルなどを操作してもエアコンディショナーは作動します。

送風温度の調整

⑧ 送風温度調整ダイヤル（右側）
⑭ 送風温度調整ダイヤル（左側）

送風温度を上げる

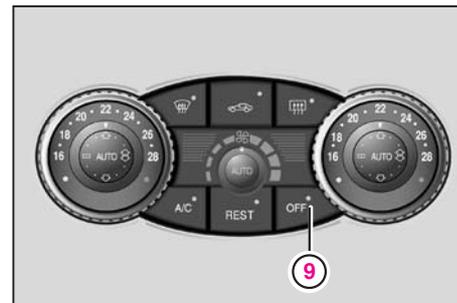
▶ 送風温度調整ダイヤル⑧または⑭を時計回りにまわします。

送風温度を下げる

▶ 送風温度調整ダイヤル⑧または⑭を反時計回りにまわします。

知　識

- 送風温度は左右別々に設定できます。
- 通常は22℃に設定することをお勧めします。
- ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフが開いていると、設定温度を維持できません。

エアコンディショナーの停止

⑨ オフスイッチ

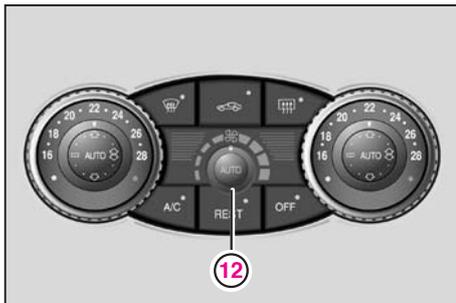
エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ⑨を押します。

エアコンディショナーが停止し、スイッチの表示灯が点灯します。

知　識

ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフが閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

送風量の調整

⑫ 送風量調整ダイヤル

送風量を手動で調整することができます。

送風量を上げる

▶ 送風量調整ダイヤル⑫を押して、ダイヤルをポップアップさせます。

▶ 送風量調整ダイヤル⑫を時計回りにまわします。

送風量インジケーターの点灯数が増えます。

送風量を下げる

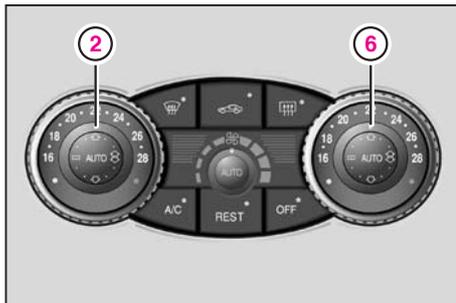
▶ 送風量調整ダイヤル⑫を押して、ダイヤルをポップアップさせます。

▶ 送風量調整ダイヤル⑫を反時計回りにまわします。

送風量インジケーターの点灯数が減ります。

知　識

- エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに送風量調整ダイヤルを押すと、送風量調整のAUTOモードが解除され、AUTO表示が消灯します。
- エアコンディショナーが停止しているときに、送風量調整ダイヤルを操作すると、エアコンディショナーが作動します。

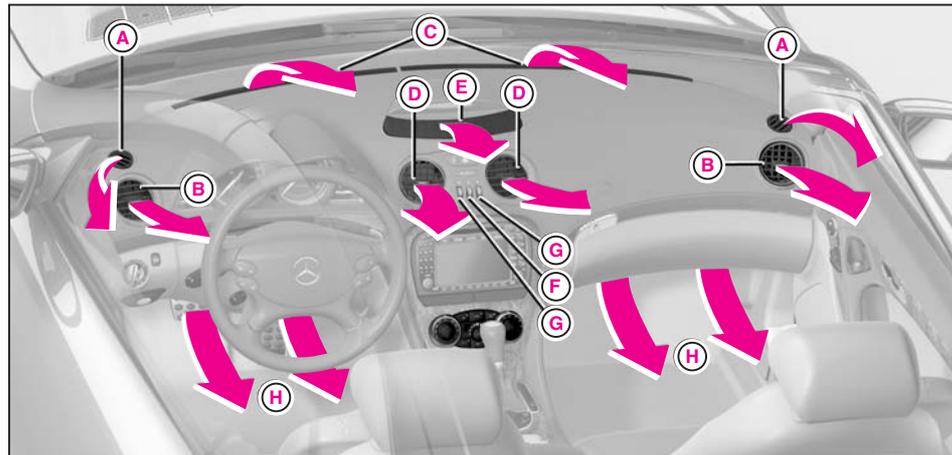
送風口の選択

② 送風口選択ダイヤル（左側）
⑥ 送風口選択ダイヤル（右側）

送風口の組み合わせを手動で選択することができます。

送風口を選択する

▶ 送風口選択ダイヤル②または⑥を押して、ダイヤルをポップアップさせます。

送風口マーク ▭ ⇧ ⇩ ⇳ が点灯します。

▶ 送風口選択ダイヤル②または⑥をまわして、選択する送風口マークに合わせます。

左ハンドル車

送風口マーク	主に送風される送風口
▭	中央送風口Ⓓ 上部中央送風口Ⓔ サイド送風口Ⓑ
⇧	フロントウインドウ送風口Ⓒ ドアウインドウ送風口Ⓐ 中央送風口Ⓓ 上部中央送風口Ⓔ サイド送風口Ⓑ
⇩	足元送風口Ⓗ 中央送風口Ⓓ 上部中央送風口Ⓔ サイド送風口Ⓑ
⇳	フロントウインドウ送風口Ⓒ ドアウインドウ送風口Ⓐ 中央送風口Ⓓ 上部中央送風口Ⓔ サイド送風口Ⓑ 足元送風口Ⓗ

知　識

- 送風口は左右別々に選択できます。
- ダイヤルをマークの中間に合わせると、組み合わせた送風口から送風することができます。
- エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに送風口選択ダイヤルを押すと、送風口選択のAUTOモードが解除され、AUTO表示が消灯します。
- エアコンディショナーが停止しているときに、送風口選択ダイヤルを操作すると、エアコンディショナーが作動します。
- 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。
- 車外の湿度が高いときにウインドウの外側が曇るときは、ウインドウに冷気が当たらないように調整すると、ウインドウの外側の曇りを軽減できます。

送風口の開閉

サイド / 中央送風口

送風口を開く

▶ サイド送風口の開閉ダイヤルⓖまたは中央送風口の開閉ダイヤルⓕを上側にまわすと、徐々に各送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ サイド送風口の開閉ダイヤルⓖまたは中央送風口の開閉ダイヤルⓕを下側にまわすと、徐々に各送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを止まるまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

知　識

送風口開閉ダイヤルを止まるまで下側にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

上部中央送風口

送風口を開く

▶ 中央送風口の開閉ダイヤル Ⓕ を止まるまで上側にまわします。

上部中央送風口 Ⓔ が開きます。

送風口を閉じる

▶ 中央送風口の開閉ダイヤル Ⓕ を、止まるまで上側にまわっている状態から少し下側にまわします。

上部中央送風口 Ⓔ が閉じます。

開閉ダイヤル Ⓕ をさらに下側にまわしても、上部中央送風口は閉じたままになります。

送風口の風向き調整

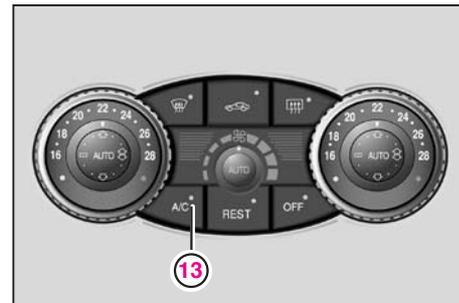
サイド送風口 Ⓑ と中央送風口 Ⓓ は風向きを調整することができます。

風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

知　識

換気効率を上げるため、各送風口の風向きを中央にすることをお勧めします。

ACモード

⑬ ACスイッチ

ACモードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

環　境

ACモードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

ACモードを解除する

▶ ACスイッチ⑬を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

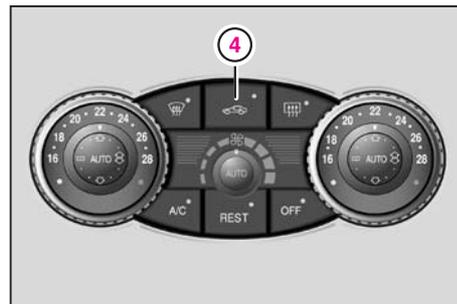
ACモードにする

▶ 再度ACスイッチを押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

知 識

- 除湿 / 冷房された空気はエンジンがかかっているときに送風されます。
- ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフが閉じているときにACモードを解除すると、ウインドウが曇りやすくなります。
- エアコンディショナーの冷媒が減っているときにACスイッチを押すと、表示灯が点滅もしくは消灯したままになり、除湿 / 冷房された空気は送風されません。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- ACモードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風されることがあります。

内気循環モード

④ 内気循環スイッチ

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウとリアクォーターウインドウを開閉することができます。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ④を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

内気循環スイッチ④をそのまま約2秒以上押し続けると、開いているドアウインドウやリアクォーターウインドウが閉じます。

スイッチから手を放すと、ドアウインドウやリアクォーターウインドウはそのときの位置で停止します。

内気循環モードに設定されているときも、一定時間を経過すると自動的に外気導入をはじめます。

条件	時間
外気温度が約5℃以上のとき	約30分後
外気温度が約5℃以下のとき	約5分後
ACモードを解除しているとき	約5分後

知　識

外気温度が約26℃以上のときに内気循環モードに設定したときは、自動的に外気導入に切り替わらないことがあります。

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 内気循環モードのときに内気循環スイッチ④を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

内気循環スイッチ④をそのまま約2秒以上押し続けると、ドアウインドウは前回開いていた位置まで開きます。

スイッチから手を放すと、ドアウインドウはそのときの位置で停止します。

リアクォーターウインドウは、前回開いていた場合は自動で全開します。

注 意 !

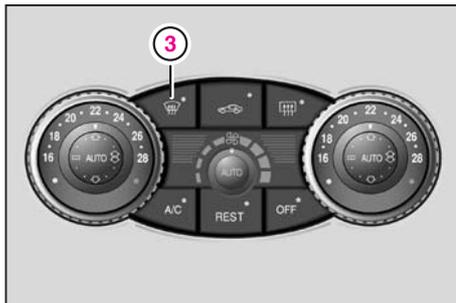
- 内気循環スイッチでドアウインドウやリアクォーターウインドウを閉じているときに、身体などが挟まれそうになったときは、ただちにスイッチから手を放してください。
- 内気循環スイッチでドアウインドウやリアクォーターウインドウを開いているときは、ウインドウに身体を寄りかけないでください。ウインドウとボディのすき間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

知 識

- ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフを閉じているときに内気循環モードにするとウインドウが曇りやすくなります。
- 外気温度が非常に高いときや、トンネル内などで一定量の一酸化炭素（CO）や窒素酸化物（NOx）をセンサーが感知したときは、自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このとき内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。

  約30分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

  ただし、ACモードを解除しているときや外気温度が5℃以下のときは、内気循環モードになりません。
- ACモードを解除するかデフロスターモードにしたとき、または送風口選択ダイヤルを押し込んでAUTOモードにしたときは、外気導入モードになります。
- 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやリアクォーターウインドウを別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやリアクォーターウインドウを内気循環モードの解除操作と連動して開くことはできません。

デフロスターモード

③ デフロスタースイッチ

フロントウインドウやドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ③を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

エアコンディショナーの送風量が上がり、送風温度が高くなります。

フロントウインドウ送風口、ドアウインドウ送風口、サイド送風口から送風されます。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ③を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

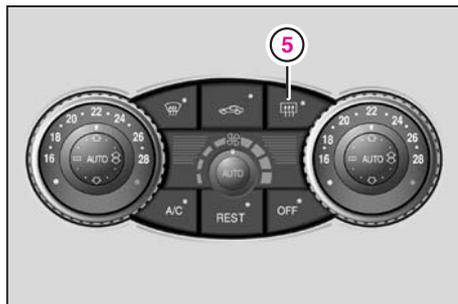
エアコンディショナーの送風量や送風温度、送風口の選択が元の設定に戻ります。

知　識

- 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。
- デフロスターモードに設定すると、送風口選択ダイヤルと送風量調整ダイヤルのAUTO表示が点灯します。
- デフロスターモードに設定しているときは、送風温度の調整はできません。
- デフロスターモードに設定しているときは、送風口選択ダイヤルを操作すると、デフロスターモードが解除されます。
- デフロスターモードに設定しているときも、送風量調整ダイヤルをまわすと送風量を調整できます。
- デフロスターモードを解除すると、自動的に外気導入モードになります。また、ACモードになります。

ウインドウの外側が曇るとき

車外の湿度が高いときなどに、ウインドウの外側が曇ることがあります。このときは、ウインドウに冷気が当たらないように送風口を調整すると、外側の曇りを軽減できます。

また、フロントウインドウ外側の曇りを取るときには、ワイパーを作動させてください。

リアデフォッガー

⑤ リアデフォッガースイッチ

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

エンジンスイッチが**2**の位置のときに使用できます。

リアデフォッガーを使用する

▶ リアデフォッガースイッチ⑤を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ⑤を押します。

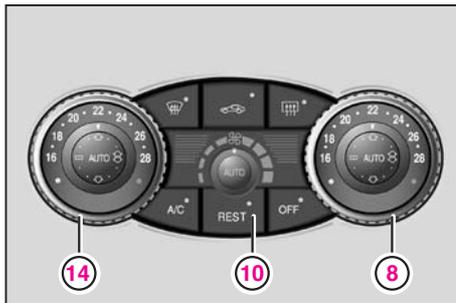
スイッチの表示灯が消灯します。

外気温度と走行速度により、一定時間が経過すると、リアデフォッガーは自動的に停止します。

注　意　！

- ウインドウに雪や氷が付着しているときは、走行前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。
- 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

知　識

- バリオルーフが完全に閉じていないときは、リアデフォッガーは作動しません。スイッチを押すと表示灯が点灯または点滅しますが、数秒後に消灯します。
- リアデフォッガーは、バッテリーの電圧が低くなると自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を始めます。

余熱ヒーター・ベンチレーション

⑧ 送風温度調整ダイヤル（右側）
⑩ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑭ 送風温度調整ダイヤル（左側）

エンジン停止後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

エンジンスイッチが**0**か**1**の位置のとき、またはキーを抜いているときに使用できます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑩を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、エアコンディショナーコントロールパネルの照明が点灯します。

▶ 送風温度調整ダイヤル⑧または⑭で好みの温度に設定します。

設定温度や外気温度により、送風口の組み合わせは自動的に調整されます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 再度、余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑩を押します。

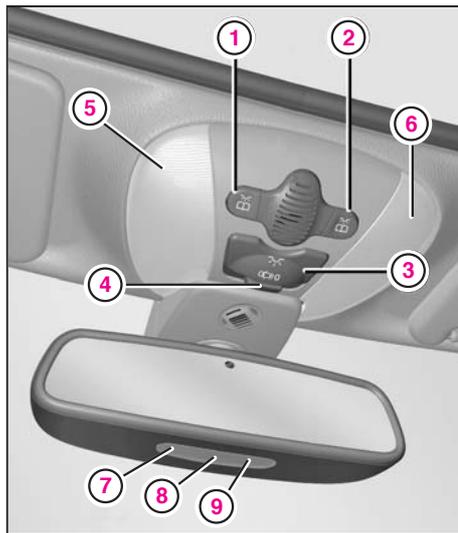
スイッチの表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションが自動的に停止します。

- エンジンスイッチを**2**の位置にしたとき
- 約30分経過したとき
- バッテリーの電圧が低下したとき

知　識

- エンジン冷却水の温度が低いときや外気温度が高いときは、暖気の送風は行なわれません。
- 送風量は弱の設定で一定に保たれます。

ルームランプ

① 読書灯（左側）スイッチ
② 読書灯（右側）スイッチ
③ ルームランプスイッチ
④ 点灯モード選択スイッチ
⑤ ルームランプ（左側）
⑥ ルームランプ（右側）
⑦ 読書灯（左側）
⑧ センターコンソールランプ
⑨ 読書灯（右側）

ルームランプの点灯モードの選択

自動点灯モードにする

▶ 点灯モード選択スイッチ④を左にスライドさせます。

周囲が暗いときに以下の操作をするとルームランプが点灯 / 消灯します。

- ドアを開くとルームランプが点灯します。

  ◇エンジンスイッチが**2**の位置のときは、ドアを閉じるとただちに消灯します。

  ドアを開いたままのときは消灯しません。

  ◇エンジンスイッチが**0**か**1**の位置のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアを閉じると約10秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは約5分後に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、約10秒後に消灯します。

  この機能の設定と解除については**（4-39）**をご覧ください。

- リモコン操作で解錠すると点灯し、約30秒後に消灯します。

注　意　！

車を施錠したときは、ルームランプが消灯することを確認してください。

知　識

自動点灯モードになっていても、周囲が明るいときはルームランプが点灯しないことがあります。

常時消灯モードにする

▶ 点灯モード選択スイッチ④を右にスライドさせます。

以下のいずれかの操作をしても、ルームランプは点灯しません。

- ドアを開く
- エンジンスイッチからキーを抜く
- リモコン操作で解錠する

ルームランプの点灯 / 消灯

ルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ ルームランプスイッチ③を押します。

ルームランプ⑤⑥が点灯 / 消灯します。

読書灯

読書灯を点灯 / 消灯する

▶ 読書灯スイッチ①または②を押します。

読書灯⑦または⑨が点灯 / 消灯します。

ルームランプ

乗降用ランプ

ドアの下部にあり、乗降時に足元を照らします。

ルームランプが自動点灯モード（6-16）になっていて、周囲が暗いときにドアを開くと点灯します。

- エンジンスイッチが**2**以外の位置のときは、ドアを開いたままにすると約5分後に消灯します。
- エンジンスイッチが**2**の位置のときは、ドアを開いたままにすると消灯しません。

フットウェルランプ

ダッシュボード下にあり、乗降時に足元を照らします。

ルームランプの点灯モードに関係なく、周囲が暗いときに以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- エンジンスイッチを**2**の位置にすると低い照度で点灯します。

  エンジンスイッチを**0**か**1**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜くと約7秒後に消灯します。
- リモコン操作で解錠すると低い照度で点灯し、約30秒後に消灯します。
- リモコン操作で施錠するとただちに消灯します。

ルームランプが自動点灯モード（6-16）になっていて、周囲が暗いときにドアを開くと点灯し、ドアを閉じると消灯します。

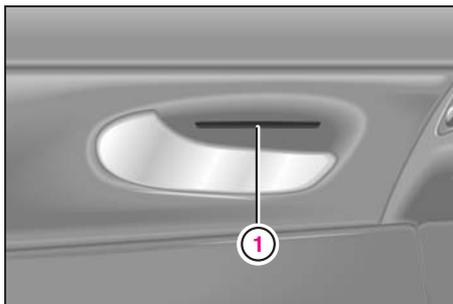
- エンジンスイッチが**2**以外の位置のときは、ドアを開いたままにすると約5分後に消灯します。
- エンジンスイッチが**2**の位置のときは、ドアを開いたままにすると消灯しません。

センターコンソールランプ

ルームミラーの下部にあります。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに点灯し、センターコンソールを照らします。

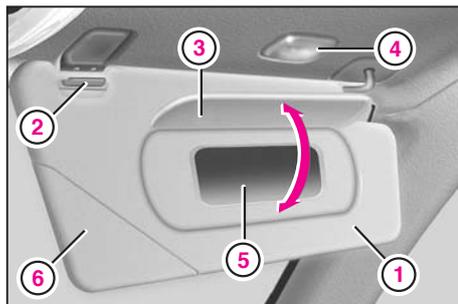
※車種や仕様により、リモコン操作で解錠すると点灯し、リモコン操作で施錠すると約20秒後に消灯します。

ドアレバーランプ

① ドアレバーランプ

車幅灯を点灯するか、ランプスイッチがAUTOの位置（**5-21**）になっていて車外ランプが自動点灯したときに点灯し、ドアレバー周辺を照らします。

車幅灯を消灯したとき、または車外ランプが自動消灯したときは、約5分後に消灯します。

サンバイザー

サンバイザー

① サンバイザー
② フック
③ バニティミラーカバー
④ 照明
⑤ バニティミラー
⑥ カードホルダー

知　識

サンバイザーの裏面にはカードホルダー⑥があります。

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー①を下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー①を下げます。

▶ サンバイザー①をフック②から外します。

▶ サンバイザー①を横にまわします。

注　意　!

- サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバーを閉じてください。ルーフ内張りやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。
- バリオルーフを閉じるときは、必ずサンバイザーをフックに戻してください。フックから外した状態でバリオルーフを閉じると、バリオルーフとサンバイザーが当たり、損傷するおそれがあります。

バニティミラー

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザー①を下げます。

▶ バニティミラーカバー③を上方に開きます。

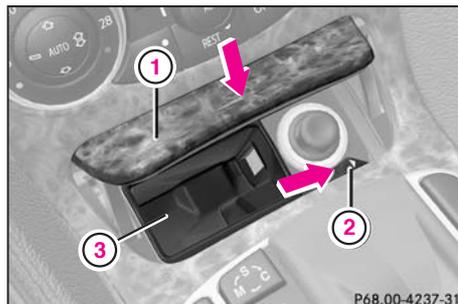
照明④が点灯します。

注　意　!

眩惑を防ぐため、走行中はカバーを閉じてください。

知　識

サンバイザーをフックから外すと照明は点灯しません。

灰皿

① カバー
② ノブ
③ 灰皿

灰皿を開く

▶ カバー①の下部を軽く押します。

灰皿を閉じる

▶ カバー①を下方に押して閉じます。

注 意 ！

- 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。
- 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。
- 使用後は確実にカバーを閉じてください。

灰皿を取り外す

▶ ノブ②を矢印の方向にスライドします。

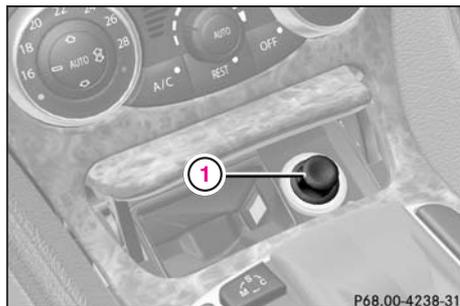
▶ 灰皿③を取り外します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿③を押してロックさせます。

注 意 ！

灰皿を取り外すときは、必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキを確実に効かせてください。

ライター

① ライター

エンジンスイッチが1か2の位置のときに使用できます。

ライターを使用する

▶ ライター①を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

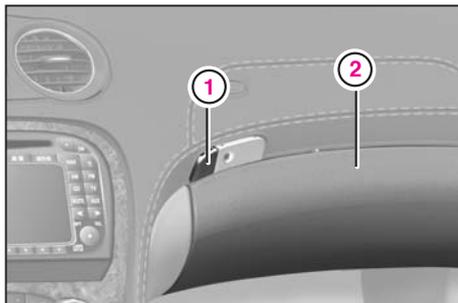
警　告

ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

注　意！

- 安全のため、子供を乗せるときはライターを抜き取ってください。
- ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。ライターを損傷するおそれがあります。
- 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。ライターやセンターコンソールを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。
- ライターが戻らなくなったときは、エンジンスイッチを0の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、指定サービス工場に連絡してください。
- アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、最大消費電力180W以下の規格にあった電気製品を使用してください。

グローブボックス

グローブボックスの開閉

左ハンドル車
① ボタン
② カバー

グローブボックスを開く

▶ ボタン①を押します。

カバー②が開きます。

グローブボックスを閉じる

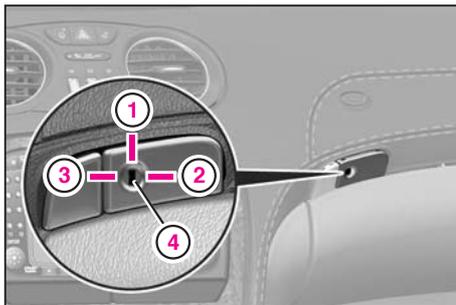
▶ カバー②を押してロックします。

注 意 ！

走行中は必ずグローブボックスのカバーを閉じてください。急ブレーキ時や万一の衝突時に収納物が飛び出して、乗員がけがをするおそれがあります。

知 識

グローブボックス内部には外部音声入力端子（AUX）が装備されています。

グローブボックスと小物入れの独立施錠 / グローブボックスのみの解錠

左ハンドル車
① 連動位置
② 独立施錠位置
③ グローブボックス解錠位置
④ キーシリンダー

※ 右ハンドル車は②と③が逆になります。

グローブボックスと小物入れの独立施錠

車が解錠された状態でも、グローブボックス、アームレストの小物入れ、シート後方の小物入れを独立して施錠することができます。

独立施錠する

▶ キーシリンダー④にエマージェンシーキー（3-10）を差し込んで、独立施錠位置②にまわします。

グローブボックス、アームレストの小物入れ、シート後方の小物入れが施錠されます。

知　識

駐車場などでキーを預ける場合に、この機能を使用してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外して、携帯してください。

注　意　!

貴重品はグローブボックスやアームレストの小物入れ、シート後方の小物入れ内に保管しないでください。

独立施錠を解除する

▶ キーシリンダー④にエマージェンシーキーを差し込んで、連動位置①にまわします。

リモコン操作による車の施錠 / 解錠に連動して、グローブボックス、アームレストの小物入れ、シート後方の小物入れが施錠 / 解錠します。

グローブボックスのみを解錠する

車が施錠されているときにグローブボックスのみを解錠することができます。

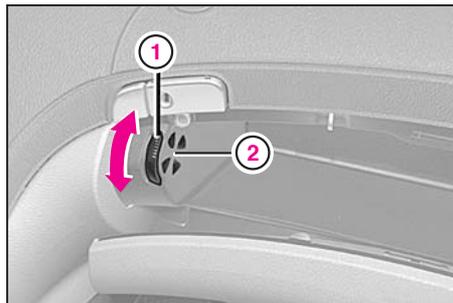
▶ リモコン操作で車が施錠されているときに、キーシリンダー④にエマージェンシーキーを差し込んで、グローブボックス解錠位置③にまわします。

グローブボックスのみが解錠されます。

このときグローブボックスを開くと、盗難防止警報が作動します。警報を停止するには、キーをエンジンスイッチに差し込むか、キーの🔓か🔒を押します。

知　識

エマージェンシーキーが③の位置のときは、キーシリンダーからエマージェンシーキーを抜くことはできません。

グローブボックスへの送風

左ハンドル車
① ダイヤル
② 送風口

グローブボックスへ送風する

▶ ダイヤル①をまわして◯が見えるようにします。

グローブボックスへの送風を停止する

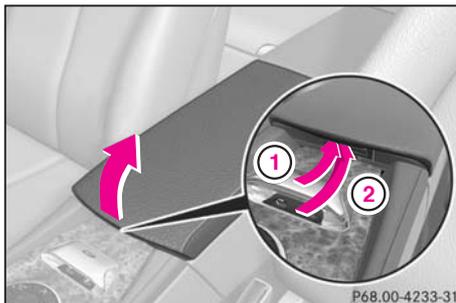
▶ ダイヤル①をまわして●が見えるようにします。

注　意　！

エアコンディショナーの送風温度を高くするときは、グローブボックスへの送風を停止してください。エアコンディショナーの設定によっては、グローブボックス内が高温になることがあり、ガスライターやボンベなどが入っていると爆発するおそれがあります。

知　識

- 送風温度や送風量は、エアコンディショナーの設定により自動的に調整されます。
- エアコンディショナーが作動していて外気温度が非常に高いときは、グローブボックスへの送風は冷風になります。

小物入れ

アームレストの小物入れ

① 上部小物入れのレバー
② 下部小物入れのレバー

アームレストには上部と下部に小物入れがあります。

上部の小物入れを開く

▶ レバー①を引いて、アームレストを引き上げます。

上部の小物入れを閉じる

▶ アームレストを下げてロックします。

下部の小物入れを開く

▶ レバー②を引いて、アームレストを引き上げます。

下部の小物入れを閉じる

▶ アームレストを下げてロックします。

注　意　！

走行中は必ずアームレストを閉じてください。急ブレーキ時や万一の衝突時に収納物が飛び出して、乗員がけがをするおそれがあります。

注　意　！

- アームレストが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。アームレストや収納物を損傷するおそれがあります。
- 小物入れには食料品を収納しないでください。

知　識

- 車が解錠された状態でも、独立して施錠することができます(6-24)。
- 上部の小物入れにはコインホルダーがあります。
- 下部の小物入れにはランプがあります。車幅灯に連動して点灯 / 消灯します。

携帯電話の接続

アームレスト上部の小物入れには携帯電話用のコネクターが装備されています。

コネクターに携帯電話を接続すると、電話の発信 / 受信ができます。

携帯電話を取り付ける

▶ 携帯電話の外部端子をコネクターに接続します。

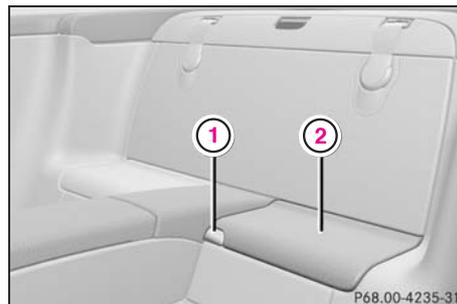
携帯電話を取り外す

▶ コネクター左右のロック解除ボタンを押しながら、携帯電話をコネクターから取り外します。

注 意 ！

携帯電話がコネクターに接続できないときは、無理に取り付けないでください。

※電話の操作については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

シート後方の小物入れ

① ボタン
② カバー

左右のシート後方に小物入れがあります。

シート後方の小物入れを開く

▶ ボタン①を押してカバーを開きます。

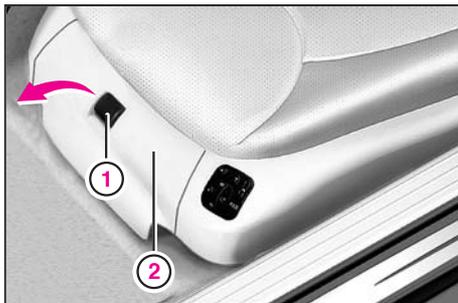
シート後方の小物入れを閉じる

▶ カバー②を下げてロックします。

知 識

- 車が解錠された状態でも、独立して施錠することができます(6-24)。
- 左側のシート後方の小物入れには、CDチェンジャーが装備されています。

小物入れ

運転席シート下部の小物入れ

左ハンドル車
① ノブ
② カバー

運転席シート下部の小物入れを開く

▶ ノブ①を引いて、カバー②を前方に開きます。

運転席シート下部の小物入れを閉じる

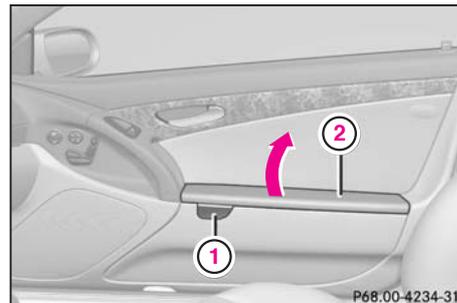
▶ カバー②を後方に押してロックします。

注 意 !

- 重い荷物は収納しないでください。
- 走行するときは、カバーが確実に閉じていることを確認してください。

知 識

助手席シート下の小物入れには救急セットが収納されています。

ドアポケット

① ボタン
② カバー

ドアポケットを開く

▶ ボタン①を押してカバー②を開きます。

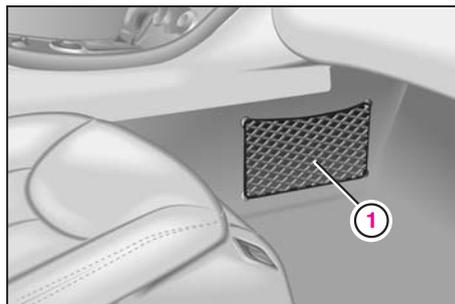
ドアポケットがシート側に少し出てきます。

ドアポケットを閉じる

▶ カバー②を下げてロックします。

知　識

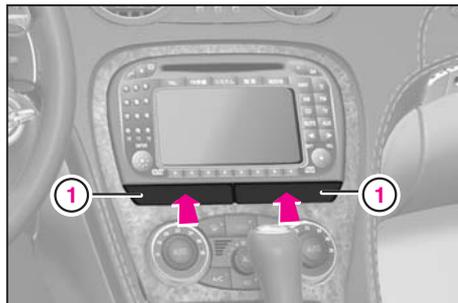
ドアポケットは施錠することができません。

収納ネット

左ハンドル車
① 収納ネット

助手席の足元に新聞や雑誌などを収納できるネットを備えています。

注　意　!

- 収納ネットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。
- 収納ネットから収納物がはみ出さないようにしてください。

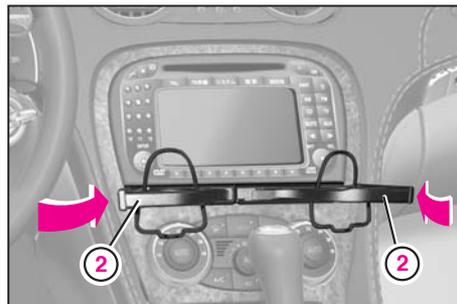
カップホルダー

左ハンドル車
① カバー

カップホルダーを使用する

▶ カバー①を押します。

カップホルダー②がポップアップします。

知　識

右ハンドル車には、右側のカップホルダーは装備されません。

左ハンドル車
② カップホルダー

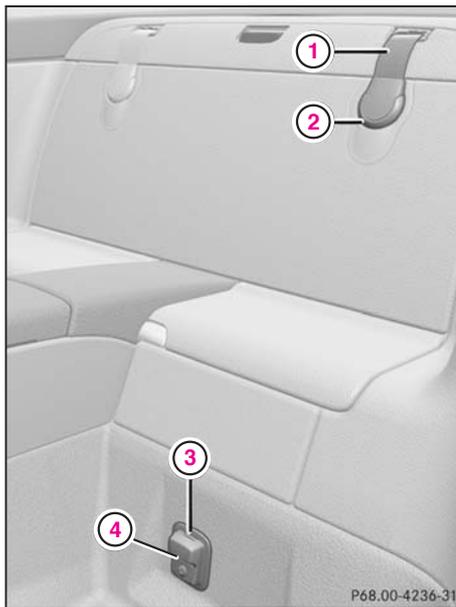
カップホルダーを収納する

▶ カップホルダー②を矢印の方向に押して収納します。

注　意　！

- 火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。
- カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。
- 走行中はカップホルダーを使用しないでください。
- カップホルダーに飲み物を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

  スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

ラゲッジストラップ＊

① ストラップ
② プレート
③ キャッチ
④ ロック解除ボタン

シート後方のスペースに荷物を積むときに荷物を固定できます。

ラゲッジストラップを使用する

▶ プレート②を持ってホルダーから外し、ストラップ①を引き出します。

▶ 確実に荷物にストラップ①をかけ、プレート②をキャッチ③に差し込みます。

ストラップを外す

▶ プレート②をしっかり持ちながらキャッチ③のロック解除ボタン④を押してロックを外します。

▶ プレート②をホルダーに戻します。

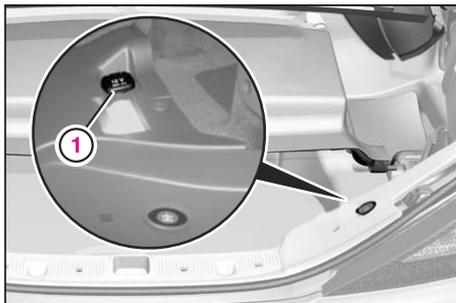
警　告

絶対にシート後方のスペースに人を乗せて走行しないでください。

注　意　！

- 重い荷物を固定しないでください。
- 荷物を確実に固定しないと、急ブレーキなどのときに荷物が飛び出し、乗員がけがをするおそれがあります。
- 大きな荷物などを、無理にシート後方のスペースに積み込まないでください。事故やけがにつながるおそれがあります。
- プレートをキャッチから外すときは、ストラップをしっかり保持してください。ストラップが巻き取られる際に、プレートが身体や物に当たるおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

12V電源ソケット

① カバー

トランクルーム右側、トランクランプの下側に電源ソケットを装備しています。電気製品などの電源として使用します。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときのときに使用できます。

12V電源ソケットを使用する

▶ カバー①を開き、電気製品の電源コネクターに確実に差し込みます。

注 意 !

- 必ずDC12V、最大消費電流15A以下（最大消費電力180W以下）の規格に合った電気製品を使用してください。規格外の製品や規格以上の大きな容量の製品を使用するとヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。
- 電源ソケットにライターを差し込まないでください。
- ソケット内に指などを入れないでください。感電するおそれがあります。
- エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障の原因になることがあります。

事故・故障のとき

警　告

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

以下の処置をとってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

セレクターレバーを N に入れて、パーキングブレーキを解除し、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

セレクターレバーを N に入れられないときは、乗員を安全な場所に避難させて、続発事故を防いでください。

注　意　！

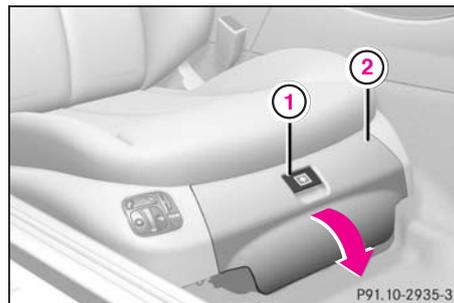
踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具を使用してください。

非常信号用具

懐中電灯をダッシュボードの助手席側下部に備えています。

知 識

- 新車時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。
- 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

救急セット

左ハンドル車
① ノブ
② カバー

救急セットは助手席シート下部の小物入れに収納されています。

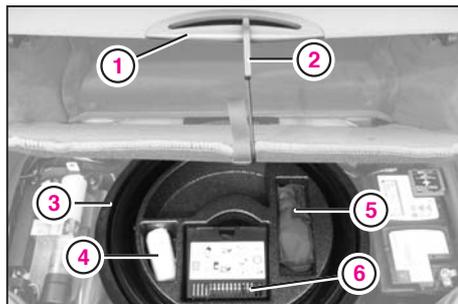
救急セットを取り出す

▶ ノブ①を引きながら、カバー②を矢印の方向に開きます。

▶ 救急セットを取り出します。

知 識

- 救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。
- 走行するときは、カバーが確実に閉じていることを確認してください。

車載工具

車載工具

① ハンドル
② フック
③ 応急用スペアタイヤ
④ タイヤ収納カバー
⑤ 車載工具
⑥ 電動エアポンプ

車載工具を取り出す

▶ バリオルーフがトランクに収納されているときは、イージーパックスイッチを押してルーフを上昇させます（3-36）。

▶ ラゲッジカバーを開きます（3-52）。

▶ トランクフロアボードを引き上げ、トランクフロアボード裏面にあるフック②をラゲッジカバーのハンドル①にかけます。

▶ 車載工具⑤を取り出します。

車載工具には以下のものが収納されています。

- ガイドボルト
- けん引フック
- 六角レンチ
- ヒューズ配置表（英文）
- 手袋
- アダプター＊

ジャッキ / ホイールレンチ

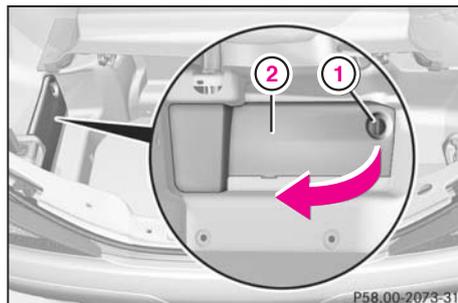
応急用スペアタイヤを取り出した状態
⑦ ジャッキ
⑧ ホイールレンチ

ジャッキ / ホイールレンチを取り出す

▶ 応急用スペアタイヤ③を取り出します（7-7）。

▶ ジャッキ⑦またはホイールレンチ⑧を取り出します。

※電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。
使用方法がわからないときは、指定サービス工場におたずねください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

停止表示板

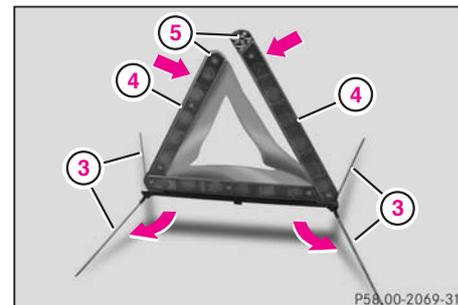
① ノブ
② カバー

停止表示板はトランク内左側のカバー内部に収納されています。

停止表示板を取り出す

▶ ノブ①を垂直の位置にまわします。

▶ 矢印の方向にカバー②を開きます。

▶ 停止表示板ケースを取り出します。

③ スタンド
④ 反射板
⑤ フック

停止表示板を組み立てる

▶ 停止表示板ケースから停止表示板を取り出します。

▶ スタンド③を引き出して、地面に立てます。

▶ 反射板④を開いて三角形をつくり、頂点のフック⑤をかみ合わせます。

※停止表示板の形状が異なる場合があります。

パンクしたとき

警　告

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。
- 停車したときは、非常点滅灯を点滅させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。

注　意　！

- 車速感応ドアロック（3-30）を設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを0の位置にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ ステアリングを直進の位置にして、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れます。

▶ エンジンを停止して、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろし、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

知　識

高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

▶ ガイドボルト、電動エアポンプを準備します（7-4）。

▶ 交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

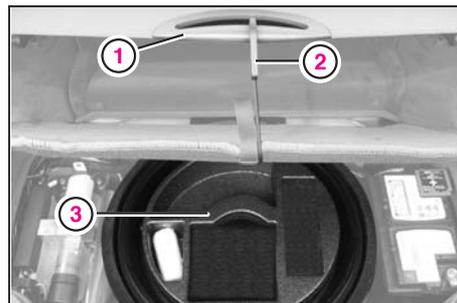
やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、以下のように輪止めをします。

◇ 前輪のいずれかを交換するときは、左右の後輪の下り側に輪止めをします。

◇ 後輪のいずれかを交換するときは、左右の前輪の下り側に輪止めをします。

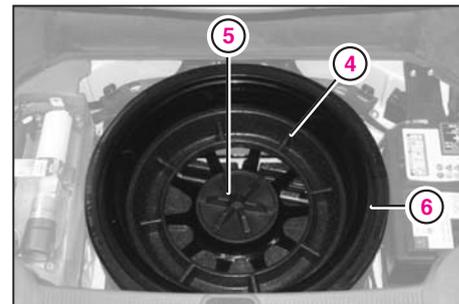
知 識

輪止めは車載されていません。適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

応急用スペアタイヤを取り出す

① ハンドル
② フック
③ トレイ

▶ バリオルーフを閉じます（3-56）。

▶ トランクフロアボードを引き上げ、トランクフロアボード裏面にあるフック②をラゲッジカバーのハンドル①にかけます。

▶ トレイ③を取り出します。

④ スペーサー
⑤ スクリュー
⑥ 応急用スペアタイヤ

▶ SL 600、SL 55 AMG、SL 65 AMGは、トレイの下にあるスペーサー④も取り外します。

▶ スクリュー⑤を反時計回りにまわして取り外し、応急用スペアタイヤ⑥を取り出します。

▶ ジャッキとホイールレンチも取り出します（7-4）。

注　意　！

応急用スペアタイヤを取り出すときは、周辺にあるバッテリーや補器類などを損傷しないように注意してください。

知　識

SL 65 AMGは、応急用スペアタイヤに装着してあるストラップを持って、応急用スペアタイヤを取り出します。

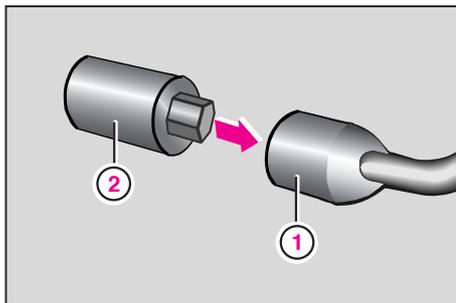
応急用スペアタイヤを取り出した後、ストラップを取り外します。

警　告

- 応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず80km/h以下で走行してください。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、ESPオフスイッチでESPの機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤは短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行性能が大きく変化します。十分注意して走行してください。

注　意　！

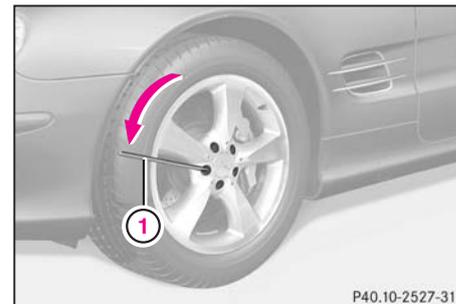
- トレイや応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。
- 応急用スペアタイヤを2本以上装着して走行しないでください。
- 応急用スペアタイヤは各車種専用です。他車のものは使用しないでください。

ジャッキアップ

① ホイールレンチ
② アダプター

アダプターの取り付け＊（SL 350）

▶ ホイールレンチ①の先端に車載工具内のアダプター②を取り付けます。

注　意　！

SL 350は、必ずホイールレンチにアダプターを取り付けて使用してください。ホイールを損傷するおそれがあります。

① ホイールレンチ

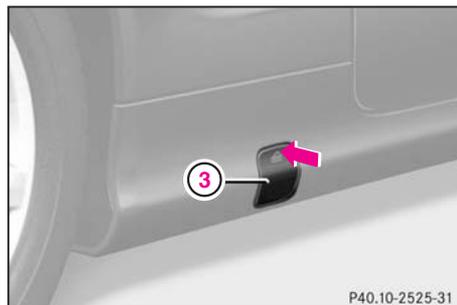
▶ ホイールレンチ①で、交換するタイヤのホイールボルト（5本）を約1回転ほどゆるめます。

この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

注 意 !

ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

③ カバー

▶ 交換するタイヤの近くのジャッキサポートのカバー③のマークを押しながら、カバーを開きます。

SL 350 AMG スポーツパッケージ、SL 550、SL 55 AMG、SL 65 AMGは、カバーの下部にドライバーなどを差し込んで、カバーを開いてください。

知 識

ジャッキサポートは前輪の後方、後輪の前方のボディ下部に計4カ所設けられています。

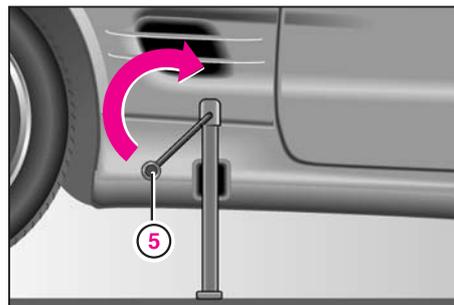
④ ジャッキアーム
⑤ ジャッキハンドル

▶ ジャッキアーム④をジャッキサポートに止まるまで差し込みます。

▶ ジャッキの下端が地面に着くまで、ジャッキハンドル⑤を時計回りにまわします。

▶ 側面から見て、ジャッキが車に対して直角になっていることを確認します。

注 意 !

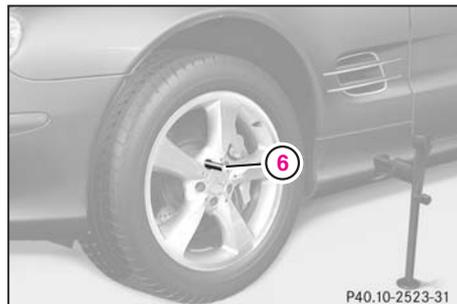
- ジャッキアップする前に乗員や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキアームがジャッキサポートに完全に差し込まれていることを確認してください（ジャッキアームが奥まで差し込まれていれば、ジャッキの下端は車の正面から見て、車の内側を向きます）。
- やむを得ず傾斜地でジャッキアップを行なうときは、地面に対して垂直になるように取り付けます。
- ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。

⑤ ジャッキハンドル

▶ ジャッキが抜けてこないように、ジャッキを押し込むようにしながらジャッキハンドル⑤を矢印の方向にまわし、タイヤが地面から離れるまで、ジャッキアップします。

警 告

車が車載のジャッキだけで支えられているときは、絶対に車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

注 意 !

- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやトランクを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。
- ジャッキアップしたときのタイヤの高さは、地面から3cm以内にしてください。

⑥ ガイドボルト

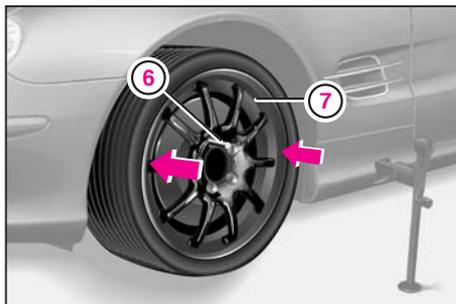
▶ 上側のホイールボルトを1本外します。

▶ そのネジ穴に、車載工具内のガイドボルト⑥をねじ込みます。

▶ 残りのホイールボルトを外して、タイヤを取り外します。

注 意 !

- ホイールボルトに砂や泥を付けないように注意してください。
- タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。
- ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

応急用スペアタイヤの取り付け

⑥ ガイドボルト
⑦ 応急用スペアタイヤ

▶ 応急用スペアタイヤのホイールおよびハブの接合面に砂や汚れなどがないことを確認します。

▶ ガイドボルト⑥に合わせて応急用スペアタイヤ⑦を取り付けます。

▶ 4本のホイールボルトを取り付け、対角線の順番に軽く締め付けます。

▶ ガイドボルトを取り外し、5本目のホイールボルトを取り付け、軽く締め付けます。

警　告

- ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。
- ホイールボルトは、ホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故につながるおそれがあります。

注　意　!

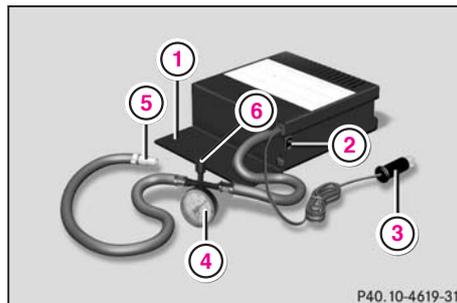
- ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ボルトがゆるむおそれがあります。
- ホイールハブのネジ山が損傷しているときは走行しないで、指定サービス工場に連絡してください。
- 応急用スペアタイヤの取り付けには、標準タイヤのホイールボルトを使用します。異なるボルトを使用するとホイールを十分に固定することができず、走行中にタイヤが外れるおそれがあります。
- 応急用スペアタイヤ専用の短いホイールボルトが車載されているときは、そのホイールボルトを使用してください。

応急用スペアタイヤに空気を入れる

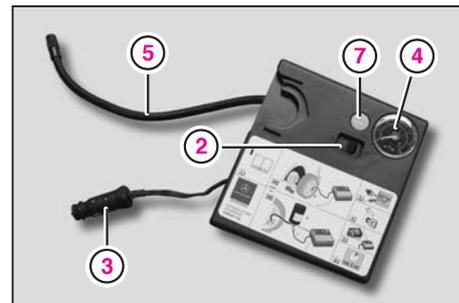
車種や仕様により車載されている電動エアポンプが異なります。

警　告

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。必ず規定の空気圧を守ってください。

空気圧ゲージ別体型

① フラップ
② 電源スイッチ
③ 電源プラグ
④ 空気圧ゲージ
⑤ エアホース
⑥ 空気圧調整バルブ

▶ フラップ①を開いて電源プラグ③とエアホース⑤を取り出し、空気圧調整バルブ⑥が閉じていることを確認します。

空気圧ゲージ一体型

② 電源スイッチ
③ 電源プラグ
④ 空気圧ゲージ
⑤ エアホース
⑦ 空気圧調整ボタン

▶ 電動エアポンプの裏面から電源プラグ③とエアホース⑤を取り出します。

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。
使用方法がわからないときは、指定サービス工場におたずねください。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース⑤を応急用スペアタイヤのバルブに取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ②を**O**（オフの位置）にします。

▶ ライターのソケット**（6-22）**か、トランクルーム内の12V電源ソケット**（6-32）**に、電源プラグ③を差し込みます。

▶ エンジンスイッチを**1**の位置にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ②を**I**（オンの位置）にします。

電動エアポンプが作動して、応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。

▶ 規定の空気圧になったら電動エアポンプの電源スイッチ②を**O**（オフの位置）にします。

知　識

応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールに貼付されているラベルまたはタイヤに記載されています。

▶ 規定の空気圧を超えたときは、空気圧調整バルブ⑥をゆるめるか、空気圧調整ボタン⑦を押して空気を抜いて調整します。

▶ ライターソケットまたは12V電源ソケットから電源プラグ③を抜き、応急用スペアタイヤのバルブからエアホース⑤を取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを取り付けます。

注　意！

- 電動エアポンプを作動させるときは、電動エアポンプに記載されている取扱方法も参考にしてください。
- 応急用スペアタイヤを取り付ける前に、応急用スペアタイヤに空気を入れないでください。
- 電動エアポンプを作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。

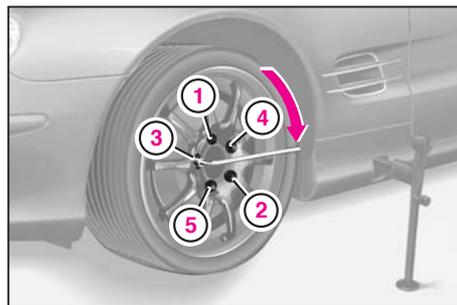
  ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

  連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。
- 電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。
- 電動エアポンプを作動させているときはエンジンを始動しないでください。
- 電動エアポンプやエアホースは作動中に金属部分などが熱くなります。必ず手袋をして作業してください。

ジャッキダウン

▶ ジャッキハンドルを反時計回りにまわし、ゆっくりボディを下げてタイヤを接地させます。

▶ ジャッキを外します。

▶ ジャッキサポートのカバーを取り付けます。

▶ 図の順番でホイールボルトを均一に締め付けます。

ホイールボルトの締め付けトルクは13 kg-m（130Nm）です。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、車載工具などとともに元の位置に戻します。

▶ 外したタイヤはタイヤ収納カバー**（7-4）**に入れて、トランクルーム内に収納します。

注 意 ！

- ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。
  - ◇ ホイールレンチを確実に差し込んでください
  - ◇ 足で踏んでまわさないでください
  - ◇ 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください

    また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。
- 応急用スペアタイヤの収納場所にパンクしたタイヤを収納することはできません。

- パンクしたタイヤをトランク内に収納して走行する場合は、速度を落とし十分注意して走行してください。収納したタイヤが動き、トランク内を損傷するおそれがあります。

警 告

- 応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず80km/h以下で走行してください。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、ESPオフスイッチでESPの機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤは短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行性能が大きく変化します。十分注意して走行してください。

応急用スペアタイヤを元に戻す

パンクしたタイヤを修理して、応急用スペアタイヤを元に戻すときは、以下の手順に従って下さい。

この作業は指定サービス工場に依頼することをお勧めします。

▶ バルブキャップを取り外します。

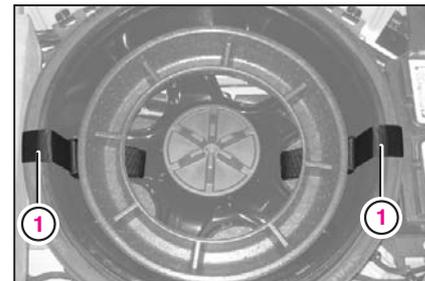
▶ 以下の方法でタイヤ内の空気を抜きます。

- バルブ内中央にあるピンを押し込みます。

または

- バルブに電動エアポンプを取り付け、空気圧調整バルブをゆるめるか、空気圧調整ボタンを押します。

▶ バルブキャップを取り付けます。

知 識

① ストラップ

SL 65 AMGでは、応急用スペアタイヤを元の収納場所に戻すときは、ストラップ①を装着してタイヤを締め付け、タイヤの外周を小さくしてから収納してください。そのとき、ストラップ①の位置が左右になるようにしてください。

注 意 !

応急用スペアタイヤは、十分に乾燥させてからトランク内に収納してください。

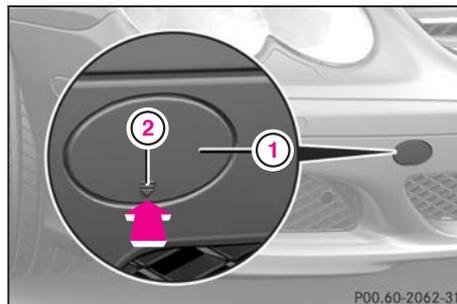
けん引

警　告

SBCが作動しない場合、ブレーキペダルを踏むのに非常に大きな力が必要になり、制動距離も長くなります。速度を落とし、ブレーキペダルを強く踏んでください。

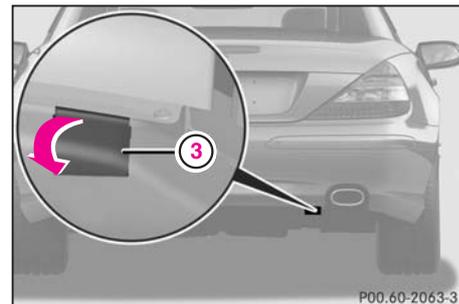
注　意　！

- けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。
- やむを得ず、他車にけん引してもらうときは以降に記載する説明に従ってください。

けん引フックの取り付け

フロント（SL 350 / SL 600）
① カバー
② マーク部

フロントの取り付け位置

フロントバンパーの向かって左側にあります。

▶ マーク部②を押して、カバー①を外します。

リア
③ カバー

リアの取り付け位置

リアバンパーの向かって右側にあります。

▶ カバー③上部を手前に引いて開きます。

けん引フックを取り付ける

▶ 車載工具からけん引フックを、応急用スペアタイヤの下部からホイールレンチを取り出します（7-4）。

▶ けん引フック取り付け部内部のネジ穴にけん引フックをねじ込み、止まるまで手で締め込みます。

▶ さらに、ホイールレンチの柄の部分をけん引フックのリング部分に差し込み、確実に締め付けます。

けん引する

エンジンを始動できるとき

▶ エンジンを始動して、セレクターレバーを N に入れます。

エンジンを始動できないとき

▶ エンジンスイッチを2の位置にして、ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーを N に入れます。

フロントまたはリアをつり上げてけん引するとき

▶ セレクターレバーを N に入れます。

▶ エンジンスイッチを0の位置にします。

注　意　！

フロントまたはリアをつり上げてけん引するときは、必ずエンジンスイッチを0の位置にしてください。ESPが作動して接地しているタイヤにブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

注　意！

- SBCホールドを作動させていると、パーキングブレーキを効かせていなかったり、ブレーキペダルを踏んでいなくても車にはブレーキがかかっています。けん引で車を動かすときは、SBCホールドを解除してください。
- けん引されるときは、けん引防止警報機能＊を解除してください（**3-46**）。
- けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください（**4-42**）。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- エンジンがかかっていないときは、ステアリングの操作に、非常に大きな力が必要になります。

- 一般道では30km/h以下の速度で、距離は50km以内に限り、けん引走行することができます。

  距離が50kmを超えるときは、車両運搬車で移送するか、プロペラシャフトを取り外す、またはリアをつり上げてけん引してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- オートマチックトランスミッションを損傷しているときは、専門業者に作業を依頼し、プロペラシャフトを取り外してけん引してください。
- 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

- けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。
  - ◇ ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。
  - ◇ ロープの長さは5m以内とし、ロープの中央に白布（30cm×30cm以上）を付けて2台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
  - ◇ ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
  - ◇ けん引フック以外にはロープをかけないでください。
  - ◇ ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
  - ◇ 走行中はロープをたるませないように、前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときは、以下のいずれかの症状があらわれます

- 水温計の針が約120度以上を示している
- マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示される
- エンジンルームから蒸気が出ている

警　告

- エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止して、冷えるまで車から離れてください。漏れた冷却水が発火して火災が発生するおそれがあります。
- 水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

注　意　！

- マルチファンクションディスプレイに、冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-10、15、16）をご覧ください。
- オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。
- オーバーヒートしたときは必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

エンジンファンが停止しているときや冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却します。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、エンジンファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足しているときは補給します（8-8）。

注　意　！

冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

バッテリーがあがったとき

エンジンルームにあるエンジン始動用バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。容量の大きい太めのブースターケーブルを使用してください。

注　意！

バッテリーがあがっているときは、ドアを開いたときにドアウインドウやリアクォーターウインドウは下降しません。

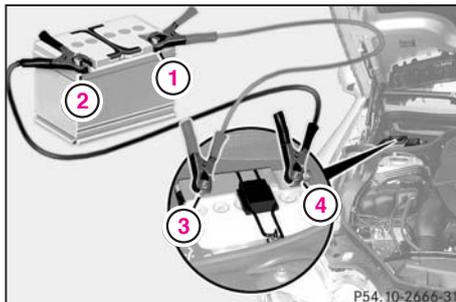
このときは、無理にドアを閉じないでください。ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、ドアやシール部などを損傷するおそれがあります。

警　告

- 作業を始める前に必ず以降に記載する説明を読んでください。説明を守らないと、電気装備を損傷したり、バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
- トランクルーム内に装備されている電気装備用バッテリーは、他車のバッテリーを電源とするエンジン始動には使用できません。絶対に他車のバッテリーを接続しないでください。また、電気装備用バッテリーの接続を外さないでください。
- たばこなどの火気を近付けたり、火花を発生させたりしないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。爆発したときに、けがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーを傾けないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

知　識

バッテリーあがりなどでリモコン操作で解錠できないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠します（**3-28**）。

始動の方法

左ハンドル車
① 救援車の⊕端子
② 救援車の⊖端子
③ 自車の⊕端子
④ 自車の⊖端子

注　意　！

救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。

▶ バッテリー電圧が同じ(12V)で、バッテリー容量が同程度の救援車を用意します。

▶ 自車と救援車が接触していないことを確認します。

▶ パーキングブレーキを効かせて、セレクターレバーを P に入れます。

▶ 救援車のエンジンを停止します。

▶ 両車の電気装備をすべて停止します(エンジンスイッチを0の位置にします)。

▶ 救援車のバッテリーの⊕端子①に赤色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車の⊕端子カバーを取り外します。

▶ 自車のバッテリーの⊕端子③に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動して、アイドリング状態にします。

▶ 救援車のバッテリーの⊖端子②に黒色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車のバッテリーの⊖端子④に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 自車のエンジンを始動します。

注　意　！

電気回路を守るため、エンジンを始動したら、ただちにエアコンディショナーやリアデフォッガーなどの電気装備を作動させてください。ただし、ランプは点灯させないでください。

▶ 取り付けたときと逆の手順でケーブルを外します。

▶ 必要のない電気装備を停止します。

バッテリーがあがったとき

注 意 !

- 急速充電器などを接続してエンジンを始動しないでください。車の電気装備を損傷します。
- 触媒装置の損傷を避けるため、以下の点に注意してください。
  ◇「押しがけ」や下り勾配を利用してエンジンを始動しないでください。
  ◇エンジンが暖まっているときは、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動しないでください。
  ◇エンジン始動を2〜3回試みても始動できないときは、時間をおいてから、再度始動してください。それでも始動しないときは指定サービス工場へ連絡してください。
- エンジンを始動できたときも、すみやかに指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。
- ブースターケーブルは、十分な容量（太さ）のケーブルを使用してください。
  ◇ケーブル部分や絶縁部分が損傷しているものは使用しないでください。
  ◇ケーブルがエンジンファンやVベルトなどに巻き込まれないようにしてください。

知 識

- 放電したバッテリー液は、約−10℃で凍結します。凍結しているときは、火気を近付けずに50℃以上にならないようにバッテリー全体を暖め、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。

- バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が一時的に断たれると、次にバッテリーを接続してエンジンを始動したときに、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されることがあります。このときは、以下の手順で再設定してください。

  ▶ 安全な場所に停車して、エンジンを再始動します。

  ▶ ステアリングをいずれかの方向に止まるまでまわし、次に反対側へ止まるまでまわします。

  また、以下の作業が必要になることがあります。

  ◇マルチファンクションコントローラーの再設定
  ◇ドアウインドウのリセット（3-49）
  ◇ドアミラーのリセット（3-65）

ヒューズの交換

電気装備が作動しないときはヒューズが切れていることが考えられます。

ヒューズが切れているときは、ヒューズを交換してください。

警　告

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズなどを使用しないでください。火災などが発生するおそれがあります。

注　意！

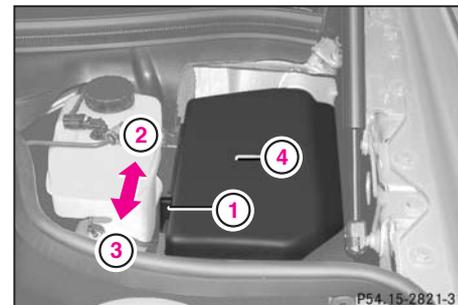
以下のようなときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

- ヒューズを交換してもすぐに切れるとき
- ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

ヒューズの位置

注　意！

- ヒューズボックスのカバーは、ヒューズボックスに密着するように取り付けてください。ほこりや湿気が入り、故障の原因となるおそれがあります。
- ヒューズボックスのカバーを取り外したときに、ヒューズボックスの内部に水などが入らないようにしてください。
- トランク内の電気装備用バッテリーの前部にも、ヒューズがあります。

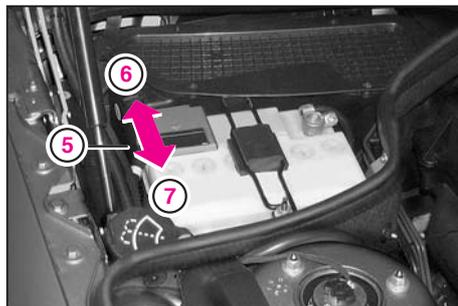
エンジンルーム内運転席側のヒューズボックス

左ハンドル車
① ノブ
② 開く位置
③ 閉じる位置
④ カバー

▶ ノブ①を開く位置②に動かしてロックを解除します。

▶ カバー④を開きます。

カバーを閉じるときは、カバー④をヒューズボックスに取り付けてから、ノブ①を閉じる位置③に動かしてロックします。

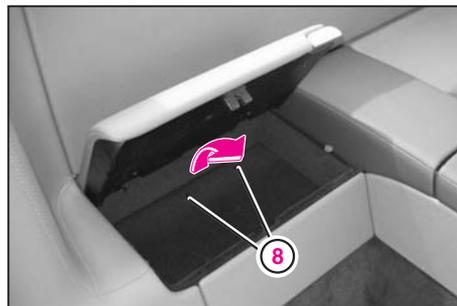
ヒューズの交換

エンジンルーム内助手席側のヒューズボックス

左ハンドル車
⑤ ノブ
⑥ 開く位置
⑦ 閉じる位置

▶ ノブ⑤を開く位置⑥に動かしてロックを解除します。

▶ カバーを開きます。

カバーを閉じるときは、カバーをヒューズボックスに取り付けてから、ノブ⑤を閉じる位置⑦に動かしてロックします。

右側シート後方の小物入れ下部のヒューズボックス

⑧ ノブ

▶ 小物入れ底面のノブ⑧を引きながらカバーを開きます。

ヒューズを交換する

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ヒューズ一覧（**9-6**）を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ ヒューズリムーバーなどを使用して該当ヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検し、心線部が切れている（溶断）ときは同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

知　識

車載工具内（**7-4**）にヒューズ配置表（英文）があります。

電球の交換

電球が切れてランプが点灯しないときは、同規格・同容量の電球と交換してください。

LEDやキセノンヘッドランプ、リアランプ類はユニット交換になるため、必ず指定サービス工場に作業を依頼してください。その他の電球の交換も、指定サービス工場に作業を依頼することをお勧めします。

やむを得ずお客様ご自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

電球一覧は(9-5)をご覧ください。

警　告

- エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが**2**の位置のときは、キセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。
- キセノンヘッドランプのバルブ交換は、必ず指定サービス工場で行なってください。

マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ

マルチファンクションディスプレイにランプに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(10-16)をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

知　識

- ドアミラーの方向指示灯やテールランプ / ブレーキランプ、ハイマウントストップランプは、すべてのLEDが切れたときに、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されます。
- 方向指示灯の電球が切れたときは、マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに加えて、メーターパネルの方向指示表示灯の点滅と作動音の間隔が短くなります。

スタンバイランプ機能

方向指示灯やブレーキランプ、テールランプなどの電球が切れると、他の電球が代替として点灯することがあります。

電球の取り扱い

電球を交換するときは、以下の点に注意してください。

- 電球を交換するときは、手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。

  電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。
- 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になるおそれがあります。
- 電球が熱くなっているときは、電球に触れたり、電球を取り外さないでください。電球には圧力のかかったガスが封入されているため、破裂するおそれがあります。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

- ダイムラー・クライスラー社指定の点検整備

  ダイムラー・クライスラー社の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

- 1年および2年点検整備

  1年、2年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

  次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

  詳しくは指定サービス工場におたずねください。

メンテナンスインジケーター

メーカー指定点検整備の時期を知らせる目安として、メンテナンスインジケーターが装備されています(4-10)。

整備手帳

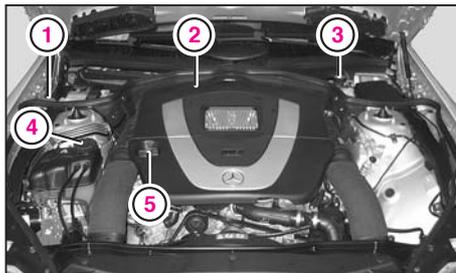
車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときに、お客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかに点検を受けてください。

エンジンルーム

SL 350（左ハンドル車）

①	ウォッシャー液 リザーブタンク	8-15
②	エンジンオイル レベルゲージ	8-10
③	ブレーキ液 リザーブタンク	8-13
④	冷却水リザーブタンク	8-7
⑤	エンジンオイル フィラーキャップ	8-11

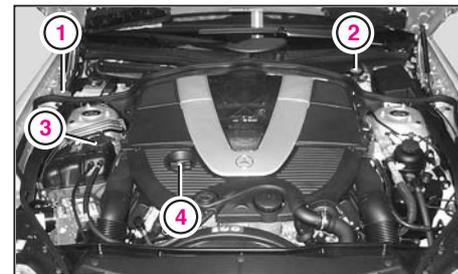
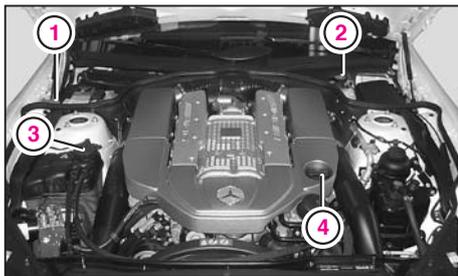
※右ハンドル車の①と③は左右対称の位置にあります。

SL 550

①	ウォッシャー液 リザーブタンク	8-15
②	エンジンオイル レベルゲージ	8-10
③	ブレーキ液 リザーブタンク	8-13
④	冷却水リザーブタンク	8-7
⑤	エンジンオイル フィラーキャップ	8-11

SL 600

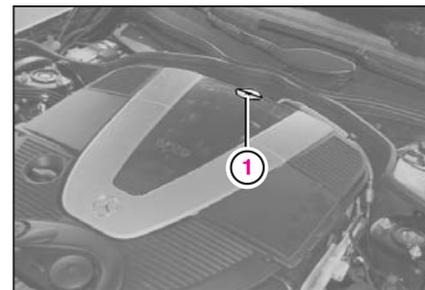
①	ウォッシャー液 リザーブタンク	8-15
②	ブレーキ液 リザーブタンク	8-13
③	冷却水リザーブタンク	8-7
④	エンジンオイル フィラーキャップ	8-11

※仕様により、部品の形状などがイラストと異なることがあります。

エンジンルーム

SL 55 AMG

①	ウォッシャー液 リザーブタンク	8-15
②	ブレーキ液 リザーブタンク	8-13
③	冷却水リザーブタンク	8-7
④	エンジンオイル フィラーキャップ	8-11

SL 65 AMG

①	ウォッシャー液 リザーブタンク	8-15
②	ブレーキ液 リザーブタンク	8-13
③	冷却水リザーブタンク	8-7
④	エンジンオイル フィラーキャップ	8-11

注　意　！

SL 600 / SL 65 AMGは、エンジン上部後方にあるキャップ①を絶対に開かないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

知　識

SL 350、SL 550を除く車種にはエンジンオイルレベルゲージはありません。マルチファンクションディスプレイのエンジンオイル量点検画面（**4-12**）で点検し、必要に応じて規定量のオイルを補給してください。

エンジンルーム内の点検

エンジンルーム内の各所を点検するときは以下の事項を厳守してください。

警　告

- イグニッションシステムやキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線には、高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。
- エンジンスイッチからキーを抜いているときでも、冷却水の温度が高い場合にはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

環　境

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルード類の交換および廃棄は、指定サービス工場で行なってください。

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電をしないように注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

注　意　！

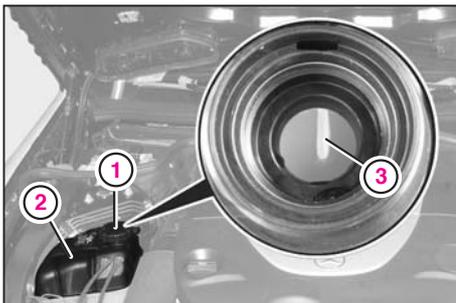
- エンジンや補器類の熱や動きに十分注意してください。火傷やけがをするおそれがあります。
- ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。
- 作業は安全な場所で行なってください。
- 適切な工具を使用してください。
- 部品や工具をエンジンの上など、エンジンルーム内に置かないでください。中に落とすおそれがあります。
- 油脂類（オイルなど）やフルード類（ブレーキ液、バッテリー液、冷却水など）は、十分注意して取り扱ってください。万一目に入った場合は、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、すぐに石けんで洗い流してください。放置すると皮膚に障害を起こすおそれがあります。
- 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

Vベルト

自動調整式なので、調整の必要はありません。

亀裂や損傷がないか点検してください。

冷却水

冷却水の量を点検する

① キャップ
② リザーブタンク
③ バー

冷却水はリザーブタンクで点検と補給を行ないます。

▶ 水平な場所に停車します。

▶ 冷却水が冷えていることを確認します。

▶ リザーブタンク②のキャップ①を反時計回りにゆっくり約1回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ①をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面がリザーブタンク②内のバー③の上面に達していれば適量です。

知　識

水温が高いときは、液面が約15mmほど高くなります。

警　告

- 水温が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。
- 不凍液をエンジンルームにこぼさないようにしてください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

注　意　!

冷却水の減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水量・冷却水温度警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると赤色に点灯し、エンジン始動後に白色の点灯に戻ります（点灯しないときは警告灯が故障しています）。

エンジンがかかっているときに赤色に点灯したときは、冷却水量が減少しているか、冷却システムに異常があります。

冷却水が不足している場合は補給方法に従いリザーブタンクに補給してください。頻繁に点灯する場合は冷却システムの漏れが考えられます。指定サービス工場で点検を受けてください。

走行中に赤色に点灯し、警告音が鳴ったときは、冷却水温度が約120℃以上になり、オーバーヒートしています。ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して冷却してください。

詳しくは、オーバーヒートしたとき**（7-21）**をご覧ください。

注　意　！

冷却水量が正常なときに、冷却水量・冷却水温度警告灯が赤色に点灯するときは、エンジンファンが故障している可能性があります。エンジンファンが故障している場合はオーバーヒートなどのおそれがあります。指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、冷却水が冷えているときにリザーブタンクに補給します。

- ▶ リザーブタンク②のキャップ①を反時計回りにゆっくり約1回転までまわして、圧力を抜きます。
- ▶ 圧力が抜けたら、キャップ①をさらに反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

  通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

  車を使用する地域（最低気温）によって濃度を変えます。

不凍液の濃度

不凍液混合率	凍結温度
約50%	−37℃
約55%	−45℃

注　意　!

- 冷却水の補給は、冷却水が冷えてから行なってください。
- 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。
- 不凍液の濃度は50%から55%の間にしてください。濃度を55%以上にすると、冷却性能が低下します。
- 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。

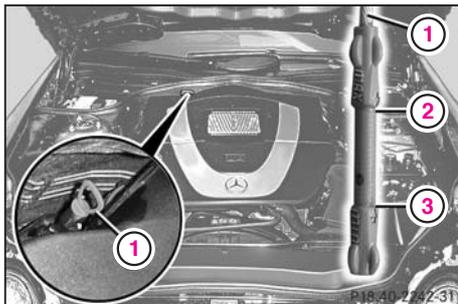
- 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すぐに水で洗い流してください。
- マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

エンジンオイル

エンジンオイルの量を点検する

SL 350
① エンジンオイルレベルゲージ
② 上限（max）
③ 下限（min）

知　識

SL 350、SL 550を除く車種にはエンジンオイルレベルゲージはありません。マルチファンクションディスプレイのエンジンオイル量点検画面で点検を行なってください（4-12）。

▶ 水平な場所に停車します。

▶ エンジンを始動して、エンジンオイルを温めます。

▶ エンジンを停止して、5分ほど待ちます。

エンジンオイルが温まらないうちにエンジンを停止したときは、約30分以上待ちます。

▶ エンジンオイルレベルゲージ①を抜き取り、きれいに拭いて差し込みます。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。オイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限(max)②と下限(min)③の間にあれば正常です。

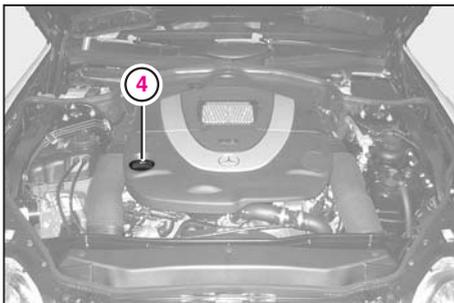
▶ エンジンオイルが下限以下のときは、フィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

注　意　！

- マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-17、18）をご覧ください。
- エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

知　識

- エンジンオイルレベルゲージの上限（max）②と下限（min）③の間は約2リットルです。
- 慣らし運転中のエンジンオイル消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

エンジンオイルを補給する

SL 550
④ エンジンオイルフィラーキャップ

▶ エンジンオイルフィラーキャップ④を取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを補給します。

安全に十分注意して、作業を行なってください。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ④を補給口に合わせて取り付けます。

警　告

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

注　意　!

マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**（10-17､18）**をご覧ください。

環　境

環境保護のため、エンジンオイルを地面や排水溝などに流さないでください。

エンジンオイルの交換の時期

エンジンオイルおよびフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

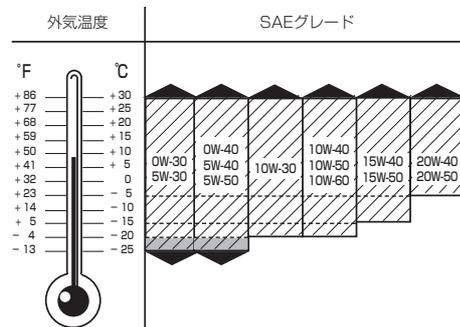
ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

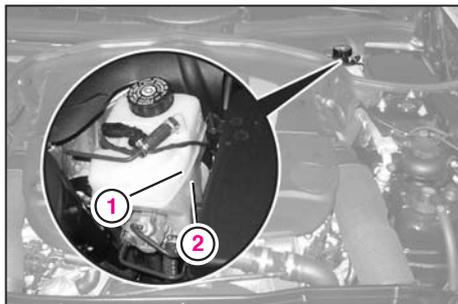
注 意 !

- 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。
- 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。
- エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。
- エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。
- エンジンオイル量が多すぎると故障の原因になります。
- エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

ブレーキ液

ブレーキ液の量を点検する

左ハンドル車
① レベルインジケーター上限（MAX）
② レベルインジケーター下限（MIN）

▶ ブレーキ液リザーブタンクのレベルインジケーターで点検します。

ブレーキ液の液面がレベルインジケーター上限（MAX）①と下限（MIN）②の間にあれば正常です。

注 意 ！

マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**（10-13）**をご覧ください。

ブレーキ液の交換

定期的に指定サービス工場で点検を受けてください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

警 告

- マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり、ブレーキ警告灯**（5-35）**が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

  安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。

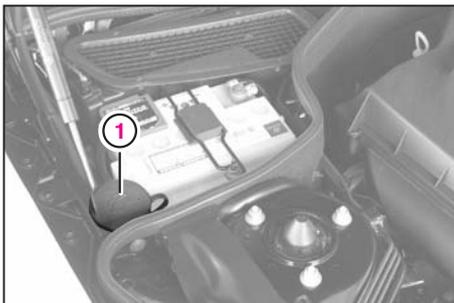
- 必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。
- ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限（MAX）を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液が熱くなったエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

注 意 ！

- ブレーキ液の減りかたが著しいときは、指定サービス工場で点検を受けてください。
- ブレーキ液の補給や交換は、指定サービス工場で行なってください。
- 補給するときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- レベルインジケーターの上限（MAX）を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。
- ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロック：長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

ウォッシャー液を補給する

左ハンドル車
① ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ

警 告

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときには補給しないでください。

▶ リザーブタンクのキャップ①を開いて補給します。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します（9-10）。

知 識

- ウォッシャー液には夏用と冬用の2種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。
- ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

注 意 !

- ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。
- 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-20）をご覧ください。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

タイヤの点検

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態（別冊「整備手帳」参照）を見て、空気圧が適切であるか点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないか、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないか点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり極端にすり減っていないか点検します。スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

警　告

- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が現われたら、すぐに交換してください。タイヤの溝の深さが3mm以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。
- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります**(8-18)**。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトはホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。
- 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

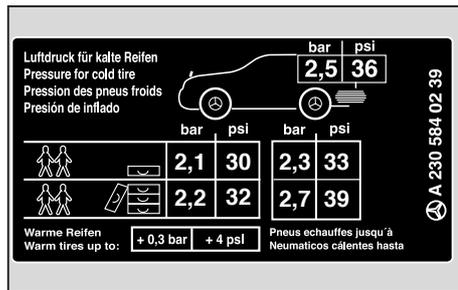
注 意 !

- タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
- タイヤのトレッドやサイドウォールがひどくすり減ったり、傷が付いているときは交換してください。
- タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの摩耗を点検するときは、必ずタイヤの内側も点検してください。
- ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全性に支障をきたすおそれがあります。
- 回転方向が指定されているタイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。
- 路面の段差などを乗り越えるときは、速度を落とし、注意して走行してください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。
- 純正品または指定品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。
- 装着するタイヤは指定されたサイズ、および4輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なるタイヤを組み合わせて装着すると、操縦性に悪影響をおよぼし、事故を起こすおそれがあります。
- 摩耗具合にかかわらず、6年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

  応急用スペアタイヤも同様に交換してください。
- タイヤおよびホイールのサイズが前後で異なるため、タイヤローテーションは行なわないでください。前後のタイヤを入れ替えると車の安定性や操縦性が確保できません。

知 識

- 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約100kmを超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。
- タイヤ / ホイールは、オイルやグリース類の付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

タイヤ空気圧ラベル

① タイヤ空気圧ラベル

※タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

タイヤ空気圧ラベル①は、燃料給油フラップ裏側に貼付されています。

タイヤ空気圧ラベルはシンボル表記になっています。

単位は「bar（≒kg/cm²）」と「psi」で示しています。

警　告

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、タイヤ空気圧警告システムが正しく作動しなくなったり、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

注 意 !

- 必ず法定速度を守って走行してください。
- 周囲の気温が約10℃変化すると、タイヤ空気圧は約0.1bar変化します。タイヤ空気圧を点検するときは周囲の気温に注意してください。

環 境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

知 識

- 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず点検を行なってください。
- 積載荷物が少ないときに、重い荷物に対応した空気圧に調整すると、乗り心地が悪くなることがあります。
- 走行した直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約0.3bar（kg/cm^2）ほど空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
- 応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールに貼付されているラベルまたはタイヤに記載されています。
- "up to 210km/h" の表示がある場合は、"up to 210km/h" の空気圧に調整してください。
- 乗車人数や荷物の量に応じたタイヤ空気圧の記載がある場合は、記載内容に従ってください。

バッテリー

バッテリーの位置

以下のバッテリーが装備されています。

バッテリーの交換や充電は、指定サービス工場で行なってください。

エンジン始動用バッテリー

エンジンルームにあります。ブースターケーブルを接続して他車のバッテリーを電源として、エンジンを始動できます(7-22)。

電気装備用バッテリー

トランクルームにあります。ブースターケーブルを接続することはできません。

警　告

電気装備用バッテリーはブースターケーブルを接続して、他車のバッテリーを電源とするエンジン始動には使用できません。絶対にブースターケーブルなどを接続しないでください。

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーを取り扱うときは以下の点に十分注意してください。

警　告

静電気に注意

静電気が発生すると、可燃性のガスに引火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。以下のことに注意してください。

- 布などでバッテリーを拭かないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。

また、バッテリーに火気を近付けないでください。

バッテリー液に注意

- バッテリーを取り扱うときは、傾けたり横倒しにしないでください。バッテリー液が漏れるおそれがあります。
- バッテリー液が目に入ると失明するおそれがあります。バッテリーを取り扱うときは、保護眼鏡を着用してください。
- バッテリー液が皮膚に付着すると火傷を起こします。すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- バッテリーケース側面部の液量表示が「min」以下のときは、エンジンを始動したりバッテリーを充電しないでください。液量不足のまま充電すると、劣化を早めたり爆発するおそれがあります。ただちに点検を受けてください。

ショートに注意

バッテリーをショートさせると、可燃性のガスに発火して、バッテリーが爆発するおそれがあります。以下のことに注意してください。

- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- 接続するときは、極性（プラス⊕、マイナス⊖）を間違えないように注意してください。

子供に注意

バッテリーを取り扱うときは、子供を近寄らせないでください。

注　意！

- バッテリー液が衣類や塗装面などに付着すると、腐食が起こります。ただちに多量の流水で洗い流してください。
- 指定のバッテリーを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。
- エンジンがかかっているときや始動するときは、バッテリー端子を外したり、ゆるめないでください。
- 定期的にバッテリーの点検を行なってください。バッテリー液が減っているときはバッテリー液を補給してください。
- 車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。
- バッテリーを充電するときは車から取り外してください。
- バッテリー端子の取り付けボルトは確実に締め付けてください。

知　識

- バッテリーあがりを防ぎ、バッテリーの寿命を延ばすために以下のことをお守りください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

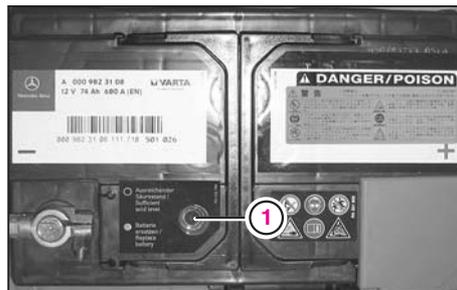
  ◇エンジンを始動しない期間が約4週間以上におよぶときは、バッテリーケーブルの接続を外してください。

  ◇バッテリーケーブルの接続を外しているときは少なくとも約6カ月に一度、バッテリーケーブルを接続しているときは少なくとも約6週間に一度、バッテリーを充電してください。

- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、わずかに電力を消費します。停車中はバッテリー保護のためエンジンスイッチからキーを抜いてください。
- バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下の作業が必要になることがあります。
  - ◇ マルチファンクションコントローラーの再設定
  - ◇ ドアウインドウのリセット
  - ◇ ドアミラーのリセット

環　境

環境保護のため、使用済みのバッテリーは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

インジケーター付きバッテリー

① インジケーター

ケースが黒色で、上面にインジケーター①があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター①は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対行なわないでください。

VRLAバッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面にVRLA-BATTERYのラベルがある場合は、バッテリー液のレベル点検や補充はできません。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

点検については指定サービス工場におたずねください。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

ウィンタータイヤ / スノーチェーン

積雪地域では、ウィンタータイヤやスノーチェーンが必要です（8-27、28、9-14）。

スノーチェーンは、ダイムラー・クライスラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地方の場合、1年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

注　意　！

ウインドウに付着した雪や氷を取り除くときは、ウインドウのシール部を損傷しないように注意してください。特にリアウインドウ左右の溝部分やシール部には注意してください。

ドアやトランクの凍結

ドアやトランクが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやトランクが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやトランクを開こうとすると、周囲の防水シールを損傷するおそれがあります。
- ドアウインドウが凍結しているときは、ドアを開いたときにドアウインドウやリアクォーターウインドウは下降しません。

  このときは、無理にドアを閉じないでください。ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、ドアやシール部を損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり、フェンダーの内側に雪が詰まって固まっていると、ボディを損傷したり、車のコントロールを失って事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着します。休憩時もこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、トランク、ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフなどが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

また、ドアミラーは手で動かさないでください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を取り除いてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道を走行するとき

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 走行モードをCモードに切り替えてください **(5-7)**。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などを避けてください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

警　告

滑りやすい路面を走行しているときは、低いギアレンジの選択やシフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。低いギアレンジを選択したり、シフトダウンするときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

警　告

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、セレクターレバーを P に入れ、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないように心がけてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときや外気温度が約7℃以下のときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ＡＢＳやESPの効果が発揮されます。

装着するウインタータイヤは、指定されたサイズで4輪とも同じ銘柄のものにしてください（9-14）。

注 意 ！

- 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。
- ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤを装着すると、車両安定性や制動性能が大きく低下するので注意してください。
- スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。
- ウィンタータイヤの溝の深さが4mm以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、SBCホールドやクルーズコントロール、ディストロニック＊は使用しないでください。
- 取り外したウィンタータイヤは、オイルやグリース類の付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

- スノーチェーンは、ダイムラー・クライスラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。
- スノーチェーンは必ず後輪に装着してください。
- スノーチェーン装着時は約30km/h以下の速度で走行してください。
- スノーチェーン装着時は、ESPの機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

※ ウィンタータイヤやスノーチェーンについて、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

注 意 !

- 前輪にはスノーチェーンを装着しないでください。ボディやフェンダーの内側またはサスペンション部品などに接触し、タイヤや車両を損傷するおそれがあります。
- 標準タイヤ / ホイールにはスノーチェーンを装着しないでください(9-12)。
- 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。
- ABC装備車にスノーチェーンを装着したときは、必ず車高をレベル1に設定して走行してください(5-50)。標準の車高では、チェーンがボディに接触してボディを損傷するおそれがあります。
- 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。
- スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。
- 路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、ダイムラー・クライスラー社が指定する用品のみを使用してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

警　告

- 一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。
- 車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災が発生するおそれがあります。
- 車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災が発生するおそれがあります。
- カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に1度は洗車してください。
- 飛び石により塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、ガソリンおよびタールなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいので、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。

- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ボディの表面にステッカーやフィルム、マグネットなどを貼り付けないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めに指定サービス工場で補修することをお勧めします。

車内

- プラスチック部分は、少量の中性洗剤などを混ぜた水を柔らかい布に含ませて拭き取ります。

  また、乾いた布や目の粗い布、かたい布などを使用したり、強くこすらないでください。表面を損傷するおそれがあります。
- ウッドトリムなどの部分は、水で湿らせた柔らかい布を使用して拭き取ります。頑固な汚れには少量の石けん水を使用します。

  また、有機溶剤を含むクリーナーなどは使用しないでください。ウッドトリムなどを損傷するおそれがあります。
- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼り付けるとラジオなどの電波の受信性能が低下するおそれがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

警　告

エアバッグの収納部分には、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなり、けがをするおそれがあります。

洗車

▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。

▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。

▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。

▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるので、早めに処理してください。
- マフラーやその周辺に触れないように注意してください。火傷やけがをするおそれがあります。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ディスクを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。
- ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。また、乾いた布などで強くこすると細かい傷を付けるおそれがあります。

- パークトロニックセンサー / ディストロニックセンサー＊を清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。
- ディストロニックセンサーのカバーを清掃するときは、エンジンスイッチを0の位置にするか、キーを抜いてください。

高圧式スプレーガンの使用

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをウインドウガラス接合面やボディパネルの継ぎ目部分、サスペンション、電気装備、コネクター類などに近付けないでください。水圧が高いため、車内に水が侵入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。
- パークトロニックセンサー / ディストロニックセンサーには、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

自動洗車機の使用

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。
- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- ワイパーの作動モード（5-28）を停止の位置にしてください。
- SBCホールド（5-42）を作動させて停車しないでください。
- 回転ブラシのかたさによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 車の後部左側にあるアンテナの損傷を防ぐため、洗車機のローラーがアンテナに強く接触しないように洗車機のスイッチを操作するか、アンテナ部にテープを貼るなどして保護してください。
- 洗車後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。

純正部品 / 純正アクセサリー

ダイムラー・クライスラー社では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

メルセデス・ベンツ純正部品は厳格な基準により品質管理されております。点検や整備、修理のときは必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、ダイムラー・クライスラー社またはダイムラー・クライスラー日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

知　識

純正部品以外の部品を代用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

環　境

ダイムラー・クライスラー社では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

注　意 !

- 以下の場所の周囲には、エアバッグやシートベルトテンショナーの本体やコントロールユニット、センサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、エアバッグやシートベルトテンショナーの作動に悪影響を与えるおそれがあります。

◇ エアバッグ収納部

◇ シートベルト

◇ インストルメントパネル

◇ センターコンソール

◇ ドア

◇ シート

◇ ピラー付近

◇ サイドシル付近

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

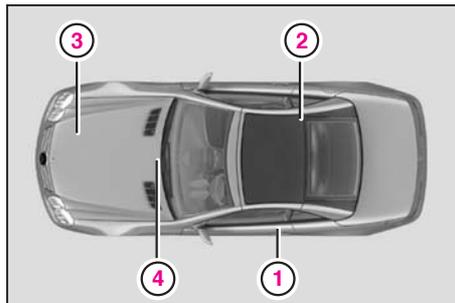
- 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。
- ウインドウに透明な吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズとして作用し、火災が発生するおそれがあります。
- 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えることがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。

警　告

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品に、純正部品以外のものを使用しないでください。事故や故障の原因になります。

ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号あるいはエンジン番号などが必要になることがあります。車台番号やエンジン番号などは図の箇所に記されています。

ビークルプレートの位置

左ハンドル車

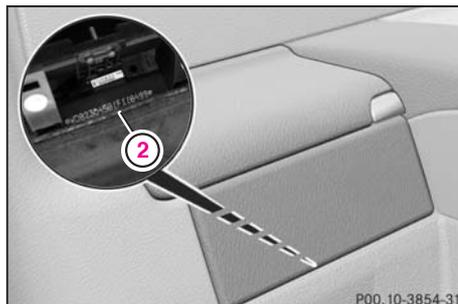
① ニューカープレート
② 車台番号
③ オプションコードプレート
④ エンジン番号

ニューカープレート

① ニューカープレート

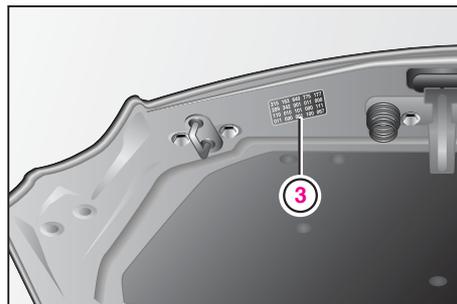
運転席または助手席側のドア開口部車体側に、車台番号およびカラーコードが記載されたニューカープレート①が貼付されています。

ビークルプレート

車台番号

② 車台番号

右側シート後方にある小物入れの下のフレームに、車台番号②が打刻されています。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

オプションコードプレート

③ オプションコードプレート

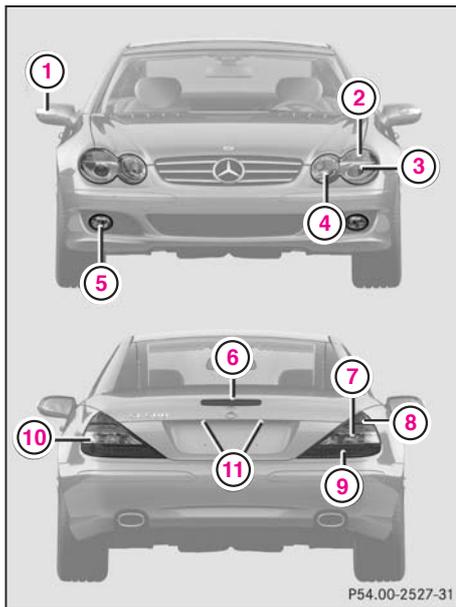
ボンネットの裏側に、オプションコードを示すプレート③が貼付されています。

エンジン番号

エンジンブロックの後方上部に、エンジン番号④が打刻されています。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

電球一覧

	ランプ	ワット数（規格）
①	ドアミラー方向指示灯	LED（発光ダイオード）
②	フロント方向指示灯	21W（黄色）
③	ヘッドランプ（上向き / 下向き）	35W （キセノンD2S）
④	ヘッドランプ（上向き）	55W （H7）
	車幅灯 / フロントパーキングランプ	5W
⑤	フロントフォグランプ / コーナリングランプ＊	55W（H7） または55W（H11）
⑥	ハイマウントブレーキランプ	LED（発光ダイオード）
⑦	バックランプ	21W
⑧	リアフォグランプ（右側のみ）	21W
⑨	ブレーキランプ / テールランプ / リアパーキングランプ	LED（発光ダイオード）
⑩	リア方向指示灯	21W
⑪	ライセンスランプ	5W

注 意 ！

電球の交換を行なうときは、車両に装着されている電球の規格を確認してください。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ヒューズ一覧

ヒューズ一覧

エンジンルーム内運転席側のヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
1	20A	ワイパーリセスヒーター
2	—	未使用
3	15A	ステアリング調整
4	15A	ステアリング調整
5	40A	ワイパー
6	7.5A	SRSエアバッグ
7	5A	オプション
8	10A	オプション
9	40A	シート調整、シートヒーター、自動防眩ルームミラー、自動防眩ドアミラー、乗降用ライト、方向指示灯、ドアミラー、トランク開閉、セントラルロック、シートベンチレーター、リアクォーターウインドウ
10	10A	ABC、診断ソケット、ヘッドランプ光軸調整
11	30A	ライター、トランク内12V電源ソケット
12	7.5A	SRSエアバッグ
13	15A	オプション
14	7.5A	ワイパーウォッシャーポンプ、ヘッドランプウォッシャーポンプ
15	10A	診断ソケット
16	5A	電話
17	5A	オプション
18	—	未使用
19	10A または 15A	オプション
20	7.5A	診断ソケット
21	5A	インストルメントパネル
22	5A	インストルメントパネル
23	10A	エアコンディショナー
24	5A	ブレーキランプ、ABS、ASR、BAS、ESP、SBC
25	7.5A	盗難防止警報システム、リアデフォッガー
26	5A	チャイルドセーフティシート検知システム、セントラルロック、ディストロニック、非常点滅灯、パークトロニック、タイヤ空気圧警告システム
27	30A	シート調整、シートヒーター、シートベンチレーター、シートベルト、マルチコントロールシートバック

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

エンジンルーム内助手席側のヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
28	15A	ホーン
29	—	未使用
30	—	未使用
31	—	未使用
32	40A	オプション
33	50A	ABS、ASR、BAS、ESP、SBC
34	5A	ABS、ASR、BAS、ESP、SBC
35	20A	オプション
36	5A	ABS、ASR、BAS、ESP、SBC
37	7.5A または 10A	トランスミッション
38	7.5A	自動防眩ルームミラー、自動防眩ドアミラー、セントラルロック、ドアミラー、ルームランプ、バニティミラー照明、ライト/レインセンサー、読書灯、バリオルーフ
39	15A	オプション
40	—	未使用
41	40A	セントラルロック、乗降用ライト、方向指示灯、ドアミラー、シート調整、シートヒーター、リアクォーターウインドウ、シートベンチレーター
42	30A	チャイルドセーフティシート検知システム、シート調整、シートヒーター、シートベンチレーター、シートベルト、マルチコントロールシートバック
43	20A	エンジンコントロールユニット、エンジン緊急停止、燃料ポンプ
44	20A	エンジンコントロールユニット、エンジン緊急停止、エンジンファン
45	5A	ディストロニック
46	5A	オプション
47	5A	オプション
48	—	未使用
49	5A	エンジンファン

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ヒューズ一覧

右側シート後方の小物入れ下部のヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
50	—	未使用
51	7.5A	低温ポンプ
52	30A	燃料ポンプ
53	30A	リアデフォッガー
54	—	未使用
55	—	未使用
56	—	未使用
57	5A	セントラルロック、TVチューナー
58	—	未使用
59	—	未使用
60	7.5A	オプション
61	30A	オプション
62	25A	ドアウインドウ、バリオルーフ
63	25A	ドアウインドウ、バリオルーフ
64	—	未使用
65	—	未使用
66	25A	サウンドシステム
67	5A	パークトロニック
68	25A	ロールバー
69	25A	バリオルーフ
70	—	未使用
71	20A	セントラルロック、トランク開閉
72	—	未使用
73	40A	バリオルーフ
74	5A	盗難防止警報システム、けん引防止警報機能、バリオルーフ
75	—	TVチューナー
76	7.5A	電話、マルチファンクションコントローラー
77	20A	CDチェンジャー、マルチファンクションコントローラー

トランク内のヒューズ

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
78	7.5A	ステアリング調整、エンジンコントロールユニット、エンジン緊急停止、マルチファンクションステアリング、イグニッションロック

（2005-04-26・A230 584 00 96）

知 識

仕様 / 装備などの違いにより、装備されているヒューズが異なることがあります。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

オイル・液類

必ずダイムラー・クライスラー社の純正品または指定品のみを使用してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

油脂類	車種	容量(ℓ)	指定品目	備考
エンジンオイル	SL 350	約8.0	承認オイル	オイルフィルター分を含む
	SL 550	約8.5		
	SL 600	約8.0		
	SL 55 AMG	約8.5		
	SL 65 AMG	約8.0		
ディファレンシャルオイル	全車	–	承認オイル	–
パワーステアリングオイル	全車	–	純正パワーステアリングオイル	専用オイル
ブレーキ液	全車	–	純正ブレーキ液	DOT 4規格

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

オイル・液類

油脂類	車種	容量（ℓ）	指定品目	備考
燃料	全車	約80.0	無鉛プレミアム ガソリン	警告灯点灯時の残量約10.0ℓ （SL 55 AMG、SL 65 AMG は約14.0ℓ）
冷却水	SL 350	約10.8	純正不凍液	低温回路その他を含む 水に純正不凍液を混ぜて使用 濃度に注意（**8-9**）
	SL 550	約11.6		
	SL 600	約15.0		
	SL 55 AMG	約12.0		
	SL 65 AMG	約15.5		
ウォッシャー液	全車	約7.0	純正ウインドウ ウォッシャー液 冬用、夏用	水と純正ウォッシャー液を 混ぜて使用
エンジン始動用 バッテリー	全車		12V / 35Ah	エンジンルーム内に装備
電気装備用 バッテリー	全車		12V / 70Ah	トランク内に装備
エアコンディショナー 冷媒	全車		R134a	R-12を使用しないこと

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

注 意 !

- オートマチックトランスミッションオイルの交換については別冊「整備手帳」をご参照ください。
- オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。
- オートマチックトランスミッションオイルに添加剤などを使用しないでください。オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。
- オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

- 無鉛プレミアムガソリンを使用してください。
- 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンが故障したり、火災が発生するおそれがあります。
- 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用して、故障が発生した場合は保証の適用外となりますので、ご了承ください。

タイヤとホイール

標準タイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
SL 350	前輪 255 / 40R18 後輪 285 / 35R18	前輪 8.5J×18 後輪 9.5J×18	前輪 35mm 後輪 40mm
SL 350 AMG スポーツパッケージ SL 550	前輪 255 / 40R18 後輪 285 / 35R18	前輪 8.5J×18 後輪 9.5J×18	前輪 30mm 後輪 33mm
SL 600	前輪 255 / 40R18 後輪 285 / 35R18	前輪 8.5J×18 後輪 9.5J×18	前輪 35mm 後輪 40mm
SL 55 AMG SL 65 AMG	前輪 255 / 35R19 後輪 285 / 30R19	前輪 8.5J×19 後輪 9.5J×19	前輪 30mm 後輪 31mm

注 意 !

- 標準タイヤにはスノーチェーンは使用できません。
- タイヤローテーションは行なわないでください。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

応急用スペアタイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
SL 350 SL 550	185 / 60-17	6B×17	25mm
SL 600 SL 55 AMG	175 / 55-18	6B×18	25mm
SL 65 AMG	175 / 50-19	6.5B×19	14mm

注 意 ！

応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

知 識

応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールに貼付されているラベルまたはタイヤに記載されています。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

タイヤとホイール

ウィンタータイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
SL 350 SL 550 SL 600	255 / 40R18 M+S	8.5J×18	35mm
SL 55 AMG	255 / 40R18 M+S	8.5J×18	30mm
SL 65 AMG	255 / 35R19 M+S	8.5J×19	30mm

注　意　!

ウィンタータイヤのサイズはダイムラー・クライスラー社が指定するもので、日本国内で発売されているスタッドレスタイヤは、表記のサイズに対応していないことがあります。

知　識

- スノーチェーンはウィンタータイヤの後輪に装着することができます。
- ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、指定サービス工場におたずねください。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

積載荷物の制限重量

車種	トランク
全車	100kg

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

故障 / 警告メッセージ

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応などが表示されます。

知 識

- 故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。また、重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。
- 重要度の低いメッセージは、数秒後に自動的に消えます。
- 自動的に消えないメッセージは、ステアリングの ▭ ▭ や ⇧⇩、またはリセットボタン（3-77）を押すと、メッセージの表示が消え、故障内容が記憶されます。
- 重要度の高いメッセージは、故障や不具合が解消するまで、メッセージの表示が消えない場合があります。

注 意 ！

- 走行する前には必ずエンジンスイッチを2の位置にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認してください。
- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車の操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容を確認できないため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。
- 表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障や異常に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のもので、表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

文字メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
左側	右側		
ABC	ｺｼｮｳ ﾃｲｼｬ!	車高が下がりすぎている。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ 数秒後に車高が調整され、メッセージは消えます。
		ディスプレイ表示が消えないときは、ABC＊のシステムからオイルが漏れている。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ 走行しないでください。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
		ディスプレイ表示が消えないときは、ABC＊が故障している。	▶ 80km/hを超えないように走行してください。 ▶ ステアリングを大きくまわさないでください。フロントのフェンダーやタイヤを損傷するおそれがあります。タイヤとボディの擦れる音がしないか確認してください。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
ABC	ｼｬｺｳ ｼﾞｮｳｼｮｳ ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ	停車時の車高が下がりすぎている。	▶ 走行しないでください。 ▶ メッセージが消えるまで待ってください。 車高が上がり切れば、メッセージは消えます。
	ｺｼｮｳ	ABC＊の機能の一部が制限され、操縦安定性に影響する可能性がある。	▶ 80km/hを超えないように走行してください。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

故障 / 警告メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
左側	右側		
ABS	ABS ト ESP ｼｮｳﾌｶﾉｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 一時的にABSとESPが作動しない状態になっている。同時にBASの機能も解除されている。システムの自己診断が完了していない可能性がある。 上記の機能は作動しないが、SBCは作動する。	▶ 約20km/h以上の速度で短い距離を走行してください。 メッセージが消えれば、ABSやESP、BASは再び作動できる状態になります。
	ABS ト ESP ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABSとESPの機能が解除されている。同時にBASの機能も解除されている。 上記の機能は作動しないが、SBCは作動する。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
左側	右側		
DTR	- - - km/h	ディストロニック＊の作動条件に合わない状態で、ディストロニックを作動させようとした。	▶ 約30km/h以上の速度で走行し、ディストロニックを設定してください。 または ▶ ディストロニックの作動条件を確認してください。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ	ｺｼｮｳ	ディストロニック＊が故障している。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｼｮｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ! ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	ディストロニック＊が解除され、一時的に作動停止している。 以下のときはディストロニック＊が解除される。 • フロントグリルのディストロニックカバーが汚れている。 • 豪雨や雪、霧などのため機能が解除されている。 • 電磁波の干渉などにより、レーダーセンサーシステムが一時的に作動停止している。 • 静止物などを長時間にわたり感知していたため、レーダーセンサーシステムが先行車か静止物かを正確に感知できなくなっている。	以下のときは、ディスプレイの表示が消え、ディストロニック＊が作動を再開します。 • 走行中に、汚れなどが落ちたとき • センサーが再び完全に機能していることを、システムが感知したとき **ディスプレイの表示が消えないとき** ▶ フロントグリルのディストロニックカバーを清掃してください **(8-32)**。 ▶ エンジンを再始動してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
左側	右側		
ESP	ESP ｼﾖｳ ﾌｶﾉｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障または電源供給に異常が発生したため、ESPの機能が解除されている。ABSとSBCは作動する。	▶ ステアリングをいっぱいまでまわしたときに、タイヤが縁石などの障害物に接触しないことを確認してください。 ▶ 停車したまま、ステアリングを左右にいっぱいにまわして、ESPをリセットしてください。 **数回リセット操作を行なっても、ディスプレイ表示が消えないとき** ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
	ESP ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESPの機能が解除されている。ABSとSBCは作動する。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ	ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	オートマチックトランスミッションの作動が制限されている。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
左側	右側		
P	ｾﾚｸﾀ ﾚﾊﾞｰ P ﾆ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	SBCホールドが作動しているときに、以下のことを行なった。 • 運転席ドアを開いて、運転席の乗員がシートベルトを外した。 • 運転席の乗員がシートベルトを着用していないときに、運転席ドアを開いた。 • エンジンスイッチを**0**か**1**の位置にした。 • ボンネットのロックを解除した。	▶ セレクターレバーを P に入れてください。
ｺﾝﾌｫｰﾄ ｷﾉｳ	ｦ ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ	電気装備用バッテリーの電圧が低下しているため、シートヒーターやリアデフォッガーが作動しない。	▶ エンジンを始動させてください。 電圧が回復すると、自動的に作動を開始します。

故障 / 警告メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
左側	右側		
ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ	ﾀｲﾔｦ ﾃﾝｹﾝ	タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの空気の漏れを検知した。	▶ 周囲の安全を確認し、急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。 ▶ タイヤを点検してください（8-16）。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であればタイヤ空気圧を適正にしてください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（4-7）。 **タイヤを交換する必要があるとき** ▶ タイヤを交換してください。
	ﾀｲﾔｦﾃﾝｹﾝ ｿﾉｺﾞ ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれた。	▶ すべてのタイヤの空気圧が適正であることを確認してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（4-7）。
ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ	ｺｼｮｳ	故障のため、タイヤ空気圧警告システムの機能が解除されている。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
SBC H	SBCﾎｰﾙﾄﾞ ｻﾄﾞｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	SBCホールドを作動させることができない。	▶ SBCホールドの作動条件を確認してください（5-43）。 ▶ 電圧低下のため、SBCホールドが作動させることができないときは、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、SBCホールドは作動できる状態になります。
	SBCﾎｰﾙﾄﾞ ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	故障のため、SBCホールドを作動させることができない。	▶ 指定サービス工場でSBCホールドの点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
左側	右側		
SRS	SRSｼｽﾃﾑ ｺｼｮｳ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	乗員保護補助装置に異常がある。	▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
ｽﾋﾟｰﾄﾞﾘﾐｯﾀｰ ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ	ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターを作動させることができない。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ ｽﾋﾟｰﾄﾞﾘﾐｯﾀｰ	ｺｼｮｳ	ディストロニック＊または可変スピードリミッターを作動させることができない。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞｺﾝﾄﾛｰﾙ	- - - km/h	クルーズコントロールの作動条件に合わない状態で、クルーズコントロールを作動させようとした。	▶ 約30km/h以上の速度で走行し、クルーズコントロールを設定してください。 または ▶ クルーズコントロールの作動条件を確認してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

イラストメッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
左側	右側		
		トランクが開いた状態で走行している。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ トランクを閉じてください。
		トランクが開いているときにバリオルーフを開閉しようとしている。	▶ トランクを閉じてください。
		⚠ 事故のおそれがあります ボンネットが完全に閉じていない状態で走行している。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ ボンネットを閉じてください。
		⚠ 事故のおそれがあります ドアが完全に閉じていない状態で走行している。	▶ ドアを閉じてください。
		冷却水の冷却ファンが故障している可能性がある。	▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
左側	右側		
[バッテリー表示]		⚠ **事故のおそれがあります** 以下の原因により、バッテリーが充電されていない。 • オルタネーターの故障 • Vベルトの損傷 電圧が低下すると、SBCの機能が制限される可能性がある。	▶ 周囲の状況に注意しながら、ただちに安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ Vベルトを点検してください。 **Vベルトが切れているとき** ▶ 走行しないでください。指定サービス工場に連絡してください。 **Vベルトが損傷していないとき** ▶ ただちに最寄りの指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ SBCに関する故障 / 警告メッセージに従ってください。
[バッテリー表示]		バッテリーが充電器で充電されているか、他車のバッテリーを電源として、エンジンを始動している。	▶ 指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。
[バッテリー表示]		バッテリーに異常がある。	▶ 指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。
		電気系統に異常がある。	▶ 指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

故障 / 警告メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
左側	右側		
(バッテリー表示灯)	バ゛ッテリー / オルタネータ テイシャ シテクダ゛サイ!	⚠ 事故のおそれがあります バッテリーに異常がある。 SBCの作動には電力が必要なため、SBCの機能が制限されている。ブレーキペダルを通常時より深く（奥に）強く踏み込まなければならなくなり、制動距離が通常よりも長くなる。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
左側	右側		
	ブ゛レーキ パ゜ット゛ マモウ	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。	▶ すみやかに指定サービス工場でブレーキパッドを交換してください。
	ブ゛レーキ オイル レベ゛ル テンケン	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
	パ゜ーキング゛ ブ゛レーキ カイジ゛ョ!	パーキングブレーキを解除しないで走行している。	▶ パーキングブレーキを解除してください（**5-32**）。
	セイト゛ウリョク ケ゛ンショウ! ブ゛レーキヲ ジ゛ュウブ゛ンニ フンデ゛ クダ゛サイ!	⚠ **事故のおそれがあります** SBCがエマージェンシーモード（**5-41**）になっている。 ブレーキペダルを通常時より深く（奥に）強く踏み込まなければならなくなり、制動距離が通常よりも長くなる。 最高速度が90km/hに制限される。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ パーキングブレーキを確実に効かせて車が動かないようにしてください。 ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。
	サービ゛ス ブ゛レーキ! シテイノ コウジ゛ョウ デ゛ テンケン!	故障があるがSBCは作動し、通常のブレーキ時の制動能力は確保されている。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。

故障 / 警告メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
左側	右側		
	ｾｲﾄﾞｳﾘｮｸ ｶﾞ ｹﾞﾝｼｮｳ! ｴﾝｼﾞﾝ ｽﾀｰﾄ!	バッテリーの電圧低下のため、SBCに十分な電力の供給ができなくなっている。	▶ エンジンを始動してください。 エンジンを始動するとメッセージが消えます。 ⚠ **中毒のおそれがあります** 換気が悪い場所でエンジンをかけ続けないでください。排気ガスにより、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。
	ｾｲﾄﾞｳﾘｮｸ ｶﾞ ｹﾞﾝｼｮｳ! ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	⚠ **事故のおそれがあります** SBCがエマージェンシーモード（**5-41**）になっている。ブレーキ時の制動能力が十分でない。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾌﾞﾚｰｷ ｶﾞ ｶﾈﾂ ｼﾃｲﾏｽ! ﾁｭｳｲｼﾃ ｿｳｺｳ!	過度の負荷によりブレーキシステムが非常に高温になっている。	▶ ブレーキシステムへの負担を軽減してください。 ▶ 十分注意して走行してください。 ▶ 下り坂では、より低いギアを選択し、エンジンブレーキを効かせてください。 ▶ ブレーキを冷却するために、注意しながら走行を続けてください。
	ｽｸﾞﾆ ﾌﾞﾚｰｷ ｦ ﾌﾝﾃﾞ ｸﾀﾞｻｲ!	SBCホールドの作動中に異常が発生している。	▶ マルチファンクションディスプレイの表示が消えるまで、ただちにブレーキペダルを強く踏んでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせて車が動かないようにしてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
左側	右側		
	ﾄﾗﾝｸﾙｰﾑ ﾗｹﾞｯｼﾞｶﾊﾞｰｦ ﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ!	ラゲッジカバーが正しくセットされていない状態でバリオルーフを開閉しようとしている。	▶ ラゲッジカバーを引き出し、両端のフックをホルダーにかけて、正しくセットしてください（3-52）。
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬ ｼﾃ ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ	冷却水の温度が高すぎる。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ 走行しないでください。 ▶ メッセージが消えてからエンジンを始動してください。メッセージが消えるまで待たないと、エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 水温計で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
		Ｖベルトが切れている可能性がある。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ Ｖベルトを点検してください。 **Ｖベルトが切れているとき** ▶ 走行しないでください。最寄りの指定サービス工場に連絡してください。 **Ｖベルトが損傷していないとき** ▶ メッセージが消えない場合はエンジンを始動しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

故障 / 警告メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
左側	右側		
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾎｼﾞｭｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	冷却水量が不足している。	▶ 冷却水を補給してください（8-8）。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給している場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｺﾝﾌｫｰﾄ ｴﾝﾄﾘ ﾎﾟｼﾞｼｮﾝ ｿｳｺｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ!	ステアリングが記憶位置に戻っていない。	▶ ステアリングが記憶位置に戻るまで待ってください。
	ﾋﾀﾞﾘ ﾛｰ ﾋﾞｰﾑ [1]	左ヘッドランプ（ロービーム）が切れている。	▶ すみやかに電球を交換してください。
	ﾗﾝﾌﾟ ｾﾝｻ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	ランプセンサーが故障している。自動的にランプが点灯する。	▶ 各種設定の "ﾗﾝﾌﾟ" の "ﾍｯﾄﾞﾗｲﾄ ｽｲｯﾁ" 画面で、"ﾏﾆｭｱﾙ" に切り替えてください。 ▶ ランプスイッチでランプを点灯 / 消灯してください。
	ﾗﾝﾌﾟ ｵﾌ ﾏﾀﾊ ｷｰｦ ﾇｲﾃｸﾀﾞｻｲ!	ランプが自動的に点灯しているときに、エンジンスイッチを0の位置にして、運転席ドアを開いた。	▶ ランプスイッチを 0 の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてください。
	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ!	ランプスイッチを か の位置にしたまま、エンジンスイッチからキーを抜いて運転席ドアを開いた。	▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。

1） この例以外のメッセージが表示されることがあります。車外ランプのいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
左側	右側		
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	SL 350 / SL 550： エンジンオイル量が不足している	▶ エンジンオイル量を点検し、必要であれば補給（8-11）してください。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、指定サービス工場でエンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
	ｷｭｳﾕ ﾉｻｲﾆ 1ﾘｯﾀｰ ｵｲﾙ ｦ ﾂｲｶ!	SL 600 / SL 55 AMG / SL 65 AMG： エンジンオイル量が不足している。	▶ エンジンオイルを補給し（8-11）、エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、指定サービス工場でエンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾃｲｼｬ ｼﾃ ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ	SL 600 / SL 55 AMG / SL 65 AMG： エンジンオイル量が十分でない。エンジンを損傷するおそれがある。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ エンジンオイルを補給し（8-11）、エンジンオイル量を点検してください。

故障 / 警告メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
左側	右側		
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｵｲﾙ ｦ ﾇｲﾃｸﾀﾞｻｲ	SL 600 / SL 55 AMG / SL 65 AMG： エンジンオイル量が多すぎる。エンジンや触媒を損傷するおそれがある。	▶ 適正量になるまで、オイルを抜いてください。オイルを廃棄するときは規則に従ってください。
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｿｸﾃｲ ﾌｶﾉｳ	SL 600 / SL 55 AMG / SL 65 AMG： エンジンオイル量計測システムが故障している。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	１つ以上のエレクトロニックシステムが情報を伝達できない状態で、以下のシステムが故障している可能性がある。 • 冷却水温度計 • タコメーター	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｷｰ ｦ ﾇｲﾃ ｸﾀﾞｻｲ!	キーを抜き忘れている。	▶ エンジンスイッチからキーを抜いてください。
	ｷｰ ｦ ｺｳｶﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	キーが機能しなくなっている。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
左側	右側		
ｿｳｺｳ ｶﾉｳ ｷｮﾘ		燃料の残量が少なくなっている。	▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	ﾛｰﾙﾊﾞｰ ｱｹﾞﾃｸﾀﾞｻｲ!	⚠ けがのおそれがあります ロールバーが故障している。	▶ 手動でロールバーを上げてください（2-22）。 ▶ 指定サービス工場でロールバーの点検を受けてください。
	ｿｳｺｳﾁｭｳ ﾆ ﾂｷ ｿｳｻ ﾃﾞｷﾏｾﾝ	走行中にバリオルーフを開閉しようとしている。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ ルーフスイッチを操作してください。
	ｻｶﾞﾘﾏｽ!	バリオルーフが完全に開閉されていない。油圧装置の圧力が低下し、バリオルーフが倒れ込もうとしている。	▶ バリオルーフを完全に開くか、完全に閉じてください。
	ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｶﾝｾﾞﾝﾆ ｵｰﾌﾟﾝ / ｸﾛｰｽﾞ	バリオルーフが正しくロックしていない。	▶ ルーフスイッチを操作し、バリオルーフが完全に開くか、完全に閉じるまで、そのまま保持してください。

故障 / 警告メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
左側	右側		
	ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ! ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	電圧が低下している。	▶ エンジンを始動してください。
		バリオルーフの開閉操作が何度も繰り返されたため、安全のためにルーフの開閉機能が一時的に停止した。	▶ 約10分間待ってください。 ▶ エンジンスイッチを**0**の位置にしてから、**2**の位置にするか、エンジンを始動してください。 ▶ ルーフスイッチを操作してください。
	ｳｫｯｼｬ ｴｷ ﾃﾝｹﾝ	リザーブタンクのウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。	▶ ウォッシャー液を補給してください（**8-15**）。

トラブルの原因と対応

スイッチやボタンの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状	対応
シートベンチレータースイッチ＊の表示灯が点滅する。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下し、シートベンチレーターが自動的に停止している。	▶ 必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、シートベンチレーターは自動的に作動を開始します。
シートヒータースイッチの表示灯が点滅する。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下し、シートヒーターが自動的に停止している。	▶ 必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、シートヒーターは自動的に作動を開始します。
エアコンディショナーのACスイッチを押しても、表示灯が点灯しなかったり、点滅する。 エアコンディショナーのACスイッチを押しても、除湿 / 冷房されない。	エアコンディショナーの冷媒が不足している。	▶ 指定サービス工場でエアコンディショナーの点検を受けてください。
リアデフォッガースイッチの表示灯が点滅する。 リアデフォッガーが短時間で停止する。または作動しない。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下し、リアデフォッガーが自動的に停止している。	▶ 必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動を開始します。
	バリオルーフが開いている。	▶ バリオルーフを閉じてから、使用してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

トラブルの原因と対応

トラブル	考えられる原因および症状	対応
助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している。	助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されているため、助手席エアバッグが作動しない状態になっている。	
	助手席に一定以下の体重の乗員が乗車して、シートベルトをバックルに差し込んでいるため、助手席エアバッグが作動しない状態になっている。	
	⚠ **けがのおそれがあります** 上記の原因があてはまらない場合は、チャイルドセーフティシート検知システムが故障している。	▶ 助手席のシート座面に以下のものを置いているときは取り除いてください。 • 電源の入ったパソコン • 携帯電話 • 磁気カードやICカード **電子機器やカードを取り除いても助手席エアバッグオフ表示灯が点灯する** ▶ すみやかに指定サービス工場でチャイルドセーフティシート検知システムの点検を受けてください。
トランク内のイージーパックスイッチが点滅し、警告灯が鳴った。	トランク内のルーフが完全に下がっていない状態でトランクを閉じようとしている。	▶ ルーフを完全に下げてから、トランクを閉じてください。

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状	対応
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色のABS警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABSの機能が解除されている。ESPとBASの機能も解除されている。 上記の機能は作動しないが、SBCは作動する。ただし、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ABSコントロールユニットが故障している場合は、タイヤ空気圧警告システム、パークトロニック、マルチファンクションコントローラー、オートマチックトランスミッションなどが機能しない可能性がある。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。 ▶ 必要のない電気装備を停止してください。 ▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
走行中に赤色の車間距離警告灯＊が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 先行車との車間距離が短すぎる。	▶ 車間距離を長くとってください。
走行中に赤色の車間距離警告灯＊が点灯し、警告音も鳴っている。	⚠ **事故のおそれがあります** 先行車に急激に近付いている。または、ディストロニック＊が走行線上に静止した障害物を感知している。	▶ いつでもブレーキペダルを踏める準備を整えてください。 ▶ 交通状況に十分注意してください。必要であれば、ただちにブレーキペダルを踏んで障害物を避けてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

トラブルの原因と対応

トラブル	考えられる原因および症状	対応
⚠ 走行中に黄色のABS / ESP表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤがグリップを失いかけて、横滑りまたはロックするおそれがあるため、ESP、ABSまたはトラクションコントロールが作動している。クルーズコントロールまたはディストロニック＊が自動的に解除される。	▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESPの機能を解除しないでください（雪道などでの走行を除く）。
⚠ エンジンがかかっているときに黄色のABS / ESP表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESPの機能が解除されている。 車が横滑りしたときや車輪が空転したときに、車両操作性や走行安定性を確保することができない。	▶ ESPを待機状態にしてください。（雪道などでの走行を除く） ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。
	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESPの機能が解除されている。 車が横滑りしたときや車輪が空転したときに、車両操作性や走行安定性を確保することができない。	▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。 ▶ 十分注意して走行してください。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
SRS エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護補助装置に異常がある。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。	▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

トラブル	考えられる原因および症状	対応
走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯し、警告音も鳴っている。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。	▶ パーキングブレーキを解除してください。
エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯し、警告音も鳴っている。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 SBCに異常がある可能性がある。	▶ 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ（**10-13、14**）に従ってください。 ▶ どのような場合でもブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
エンジンがかかっているときに冷却水量・冷却水温度警告灯が赤色に点灯する。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、不足している場合は冷却水を補給してください。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給している場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに冷却水量・冷却水温度警告灯が赤色に点灯する。	冷却水量が正常なときは、冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。	▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。

トラブルの原因と対応

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エンジンがかかっているときに冷却水量・冷却水温度警告灯が赤色に点灯し、警告音も鳴っている。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。 冷却水温度が約120℃を超えている。 エンジンが冷却されないため、エンジンを損傷するおそれがある。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、不足している場合は冷却水を補給してください。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給している場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに冷却水量・冷却水温度警告灯が赤色に点灯し、警告音も鳴っている。	冷却水量が正常なときは、冷却ファンが故障している可能性がある。また、冷却水温度が120℃を超えている。 エンジンが冷却されないため、エンジンを損傷するおそれがある。	▶ 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下に異常がある。 • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。	▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに黄色のロールバー警告灯が点灯または点滅する。	⚠ **けがのおそれがあります** ロールバーの機能に異常がある。	▶ 手動でロールバーを上げてください（2-22）。 ▶ 指定サービス工場でロールバーの点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** シートベルトを着用していない。	▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いている。	▶ 助手席シートの上に置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、警告音も鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** シートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約25km/hを超えた。	▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いた状態で走行し、速度が約25km/hを超えた。	▶ 安全な場所に停車してから、助手席シートの上に置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
エンジンがかかっているときに燃料残量警告灯が黄色に点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。	▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

トラブルの原因と対応

警告音

トラブル	考えられる原因および症状	対応
盗難防止警報が作動した。	盗難防止警報システムが待機状態のときに、運転席ドアまたはトランクをエマージェンシーキーで解錠して開いた。 盗難防止警報システムが待機状態のときに、車内からドアを開くか、ボンネットのロックを解除した。	▶ キーの🔓または🔒を押してください。 または ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
警告音が鳴った。	マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されている。	▶ 故障 / 警告メッセージをご覧ください（10-2〜20）。
	パーキングブレーキを解除しないで走行している。	▶ パーキングブレーキを解除してください（5-32）。
	車外ランプを消灯しないでエンジンスイッチからキーを抜き、運転席ドアを開いた。	▶ ランプスイッチを 0 にしてください。
エンジンを始動すると、警告音が約6秒間鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** シートベルトを着用していない。	▶ シートベルトを着用してください。
速度が約25km/h以上になったときに警告音が鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** シートベルトを着用していない。	▶ シートベルトを着用してください。

トラブル	考えられる原因および症状	対応
警告音が鳴り続けている。	SBCホールドが作動しているときに、以下のことを行なった。 • 運転席ドアを開いて、運転席の乗員がシートベルトを外した。 • 運転席の乗員がシートベルトを着用していないときに、運転席ドアを開いた。 • エンジンスイッチを**0**か**1**の位置にした。 • ボンネットのロックを解除した。	▶ SBCホールドを解除してください。

事故のとき

トラブル	考えられる原因および症状	対応
燃料が漏れている。	⚠ **爆発のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクが損傷している。	▶ ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
損傷の程度がわからない。 または 損傷箇所が見当たらない。		▶ 指定サービス工場に連絡してください。

トラブルの原因と対応

ブレーキ

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ブレーキペダルの踏みごたえがいつもより弱い。 ブレーキペダルの踏みしろが通常より少し大きい。	SBCが作動している。 または、エンジン始動後、最初にブレーキペダルを踏んだ。	▶ 再度ブレーキペダルを踏んでください。 通常の踏みごたえと踏みしろに戻ります。
	⚠ **事故のおそれがあります** SBCがエマージェンシーモード（**5-41**）になっている。	▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。
ブレーキペダルに脈動が伝わってくる。	ブレーキペダルを踏んだときにSBCの油圧ポンプが作動している。	

燃料と燃料タンク

トラブル	考えられる原因および症状	対応
燃料が漏れている。	⚠ **爆発のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクが損傷している。	▶ ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。	▶ リモコン操作で解錠してください。
	燃料給油フラップの開閉機構に異常がある。	▶ 指定サービス工場に連絡してください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エンジンが始動しない。	SBCホールドが作動している。	▶ SBCホールドを解除してください。 ▶ 再度エンジンを始動してください。
エンジンが始動しない。 エンジンスイッチを**3**の位置にするとスターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムに異常がある可能性がある。 • 燃料供給に異常がある可能性がある。	▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを**0**の位置に戻してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください（**5-4**）。 ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 **何度始動を試みてもエンジンが始動しないとき** ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。 エンジンスイッチを**3**の位置にしてもスターターモーターの音がしない。	エンジン始動用バッテリーがあがっているか、充電されていないため、エンジン始動用バッテリーの電圧が低下している。	▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（**7-22**）。 **エンジンが始動しないとき** ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。	▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 触媒を損傷するおそれがあります。

トラブルの原因と対応

トラブル	考えられる原因および症状	対応
冷却水温度が約120℃を超えている。 冷却水量・冷却水温度警告灯が赤色に点灯し、警告音も鳴っている。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、不足している場合は冷却水を補給してください（8-8）。
	冷却水量が正常なときは、冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。	▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。

オートマチックトランスミッション

トラブル	考えられる原因および症状	対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。	▶ ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションに異常がある。	エマージェンシーモードにして、2速ギアかリバースギアで走行できる場合があります。 ▶ 停車してください。 ▶ セレクターレバーをPに入れてください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ 10秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ セレクターレバーをDに入れます。 2速ギアになります。 または ▶ セレクターレバーをRに入れます。 リバースギアになります。 ▶ ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

トラブルの原因と対応

パークトロニック

トラブル	考えられる原因および症状	対応
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して約2秒間警告音が鳴った。 約30秒後にパークトロニックが解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックに異常があり、機能が停止している。	▶ 指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約20秒後にパークトロニックが解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。	▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（**8-32**）。 ▶ 再度、エンジンスイッチを**2**の位置にしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が停止している。	▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（**5-78**）。

ヘッドランプ / 方向指示灯

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ヘッドランプまたはドアミラー方向指示灯の内側が曇っている。	外気の湿度が高くなっている。	▶ ヘッドランプを点灯して走行してください。 しばらく走行すると、ヘッドランプ内側の曇りは取れます。
	ヘッドランプユニットやドアミラー方向指示灯ユニットが密閉されていないため、水分が侵入している。	▶ 指定サービス工場でヘッドランプやドアミラーの点検を受けてください。

ワイパー

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ワイパーが正しく作動しない。	ウインドウに障害になる物が付着している。 ワイパーモーターの作動が停止している。	▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ 再度、ワイパーを作動させてください。
ワイパーが作動しない。	ワイパーが故障している。	▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択してください（5-28）。 ▶ 指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。

バリオルーフ

トラブル	考えられる原因および症状	対応
バリオルーフが開閉しない。	トランク内のラゲッジカバーが正しくセットされていない。	▶ ラゲッジカバーを正しくセットしてください（3-52）。
	トランクが開いている。	▶ トランクを閉じてください。
	電圧が低下している。	▶ エンジンを始動してください。
	安全のため、ルーフの開閉機能が一時的に停止した。	▶ エンジン始動後約10分後に機能が復帰することがあります。 ▶ 指定サービス工場でバリオルーフの点検を受けてください。
	開閉機能が故障している。	▶ 指定サービス工場に連絡してください。

トラブルの原因と対応

ウインドウ

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ドアウインドウが自動で全閉しない。	⚠ **けがのおそれがあります** ドア内部のガイドレールなどに障害になる物が挟まったり、詰まっている。	▶ ドアウインドウを開いてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ ドアウインドウが閉じるまでスイッチを軽く引きます。 ウインドウに挟まれないように注意してください。
	⚠ **けがのおそれがあります** 原因が分からない場合。	▶ ドアウインドウが閉じるまでスイッチを軽く引きます。 ウインドウに挟まれないように注意してください。
運転席ドアのドアウインドウが自動で全閉しない。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席ドアのドアウインドウを自動で全閉しているときに、ドアウインドウが自動で停止して少し開くことがある。	▶ ドアウインドウが閉じるまでスイッチを軽く引きます。 **ドアウインドウが少し開くとき** ▶ 約5秒以内に、ドアウインドウスイッチをいっぱいに引きます。 挟み込み防止機能が働かない状態でウインドウが閉じます。 ウインドウに挟まれないように注意してください。 約5秒以内に、挟み込み防止機能が働く状態になります。

ミラー

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ドアミラーが無理に前方 / 後方に曲げられた。		▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ（3-64）を、ギアが噛み合う音が聞こえるまで押します。

キー

トラブル	考えられる原因および症状	対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。	▶ キーの先端をドアハンドルに向け、至近距離から再度リモコン操作をしてください。 **リモコン操作ができないとき** ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください。 ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（3-13）。
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーが故障している。	▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください（3-28、29）。 ▶ 指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーのボタンを押しても表示灯が点灯しない。	キーの電池が消耗している。	▶ キーの電池を交換してください（3-13）。 電池は指定サービス工場で入手できます。
キーを紛失した。		▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 新しいキーの入手については、指定サービス工場におたずねください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。

トラブルの原因と対応

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エマージェンシーキーを紛失した。		▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 新しいキーの入手については、指定サービス工場におたずねください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エンジンスイッチがまわらない。	エンジンスイッチからキーを抜かずに0の位置で長時間放置していた。	▶ エンジンスイッチからキーを抜き、再度差し込んでください。 ▶ エンジン始動用バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 ▶ エンジンを始動してください。
エンジンスイッチがまわらない。	バッテリーの電圧が低下している。	▶ 必要のない電気装備を停止してから再度エンジンスイッチをまわしてください。 **それでもエンジンスイッチがまわらないとき** ▶ エンジン始動用バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 または ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（7-22）。 または ▶ 指定サービス工場に連絡してください。

車を使用しないとき

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エンジンを始動しない期間が約6週間以上におよぶとき。		▶ 対応について、指定サービス工場におたずねください。 ▶ バッテリーからケーブルを外してください。

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ラ

ワ

英字

“ESP® ” はダイムラー・クライスラー社の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2007年7月現在のものです。

対象モデル

SL 350
SL 550
SL 600
SL 55 AMG
SL 65 AMG